

(案)

クロチアニジン 農薬使用者安全評価書

2026年7月27日

農業資材審議会農薬分科会

農薬使用者安全評価部会

目 次

<経緯>	2
<農薬使用者安全評価部会出席者名簿>	2
I. 評価対象農薬の概要	3
1. 有効成分の概要	3
2. 有効成分の物理的・化学的性状	4
3. 申請に係る情報	5
4. 作用機作	5
5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法	5
II. 安全性に係る試験の概要	6
1. 経口吸収率	6
2. 毒性試験の結果概要	10
3. 公表文献における研究結果（資料 65、66、67）	11
3.1 ヒト以外における知見	14
3.1.1 動物体内動態	14
3.1.2 神経行動学的影響	15
3.1.3 その他の知見	21
3.2 ヒトにおける知見	24
3.2.1 疫学研究	24
3.2.2 その他の情報（バイオモニタリング）	29
III. 農薬使用者暴露許容量（AOEL）	31
IV. 急性農薬使用者暴露許容量（AAOEL）	35
V. 暴露量の推計	37
1. 経皮吸収試験	37
2. 圃場における農薬使用者暴露	37
3. 暴露量の推計	37
VI. リスク評価結果	37
評価資料	38
別紙 1 代謝物略称	45

＜経緯＞

令和4年（2022年）12月14日	農業資材審議会への諮問（再評価）
令和8年（2026年）3月26日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第24回）
令和8年（2026年）6月3日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第25回）
令和8年（2026年）7月27日	農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全 評価部会（第26回）

＜農薬使用者安全評価部会出席者名簿＞

（第24回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之 美谷島 克宏	天野 昭子	相崎 健一 アイツバマイ ゆふ 上島 通浩 成田 伊都美 元村 淳子	小坂 忠司

（第25回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之	天野 昭子	相崎 健一 アイツバマイ ゆふ 石井 雄二 上島 通浩 成田 伊都美 元村 淳子	小坂 忠司

（第26回）

（委員）	（臨時委員）	（専門委員）	（専門参考人）
櫻井 裕之 美谷島 克宏	天野 昭子	相崎 健一 アイツバマイ ゆふ 上島 通浩 藤堂 浩明 成田 伊都美 元村 淳子	小坂 忠司

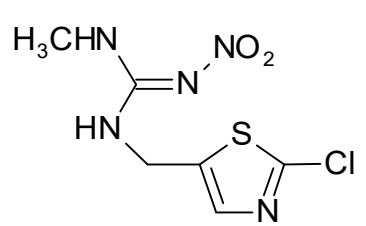
クロチアニジン

I. 評価対象農薬の概要

1. 有効成分の概要

- 1.1 申請者 住友化学株式会社
- 1.2 登録名 クロチアニジン
(*E*)-1-(2-クロロ-1,3-チアゾール-5-イルメチル)-3-メチル-2-ニトログアニジン
- 1.3 一般名 clothianidin (ISO)
- 1.4 化学名
IUPAC 名 : (*E*)-1-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-3-methyl-2-nitroguanidine

CAS 名 : [C(*E*)]-*N*[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]-*N*²methyl-*N*²-nitroguanidine
(CAS No. 210880-92-5)
- 1.5 分子式、構造式、分子量
分子式 C₆H₈ClN₅O₂S

構造式 

分子量 249.68

2. 有効成分の物理的・化学的性状

試験項目			純度 (%)	試験方法	試験結果																																	
蒸気圧			99.7	OECD 104	1.3 × 10 ⁻¹⁰ Pa (25 °C)																																	
融点			99.7	OECD 102	176.8 °C																																	
沸点			99.7	オイルバス加熱法	測定不能 (200 °Cまでに熱分解)																																	
熱安定性			99.7	OECD 113	約150 °Cまでは安定																																	
溶解度	水		99.7	OECD 105	0.327 g/L (20 °C)																																	
	有機溶媒	ヘプタン	99.7		<0.00104 g/L (25 °C)																																	
		キシレン			0.0128 g/L (25 °C)																																	
		アセトン			15.2 g/L (25 °C)																																	
		メタノール			6.26 g/L (25 °C)																																	
		1-オクタノール			0.938 g/L (25 °C)																																	
		ジクロロメタン			1.32 g/L (25 °C)																																	
		酢酸エチル			2.03 g/L (25 °C)																																	
	解離定数 (pK _a)		99.7		OECD 112	11.09 (20 °C)																																
1-オクタノール／水分配係数 (log P _{ow})		99.7	OECD 117	0.7 (25 °C)																																		
加水分解性		≥96.7	OECD 111	安定 (50 °C、pH 4 及び pH 7、12 週間) 半減期 14 日 (50 °C、pH 9) 半減期 1.5 年 (25 °C、pH 9)																																		
水中光分解性		≥99.5	9農産第5089号	半減期40～42分 (蒸留水、25 °C、18W/m ² 、360～480 nm)																																		
紫外可視吸収 (UV/VIS) スペクトル		99.7	<table><tr><td>極大吸収波長 (nm)</td><td>吸光度</td><td>モル吸光係数 (L mol⁻¹ cm⁻¹)</td></tr><tr><td colspan="3">中性</td></tr><tr><td>265.5</td><td>0.6838</td><td>17100</td></tr><tr><td>214.5</td><td>0.3115</td><td>7770</td></tr><tr><td colspan="3">酸性</td></tr><tr><td>265.5</td><td>0.6923</td><td>17200</td></tr><tr><td>214.5</td><td>0.2949</td><td>7330</td></tr><tr><td colspan="3">アルカリ性</td></tr><tr><td>246.0</td><td>1.0781</td><td>13400</td></tr><tr><td>224.0</td><td>0.9874</td><td>12300</td></tr><tr><td>209.0</td><td>0.3088</td><td>3840</td></tr></table>			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)	中性			265.5	0.6838	17100	214.5	0.3115	7770	酸性			265.5	0.6923	17200	214.5	0.2949	7330	アルカリ性			246.0	1.0781	13400	224.0	0.9874	12300	209.0	0.3088	3840
			極大吸収波長 (nm)	吸光度	モル吸光係数 (L mol ⁻¹ cm ⁻¹)																																	
			中性																																			
			265.5	0.6838	17100																																	
			214.5	0.3115	7770																																	
			酸性																																			
			265.5	0.6923	17200																																	
			214.5	0.2949	7330																																	
			アルカリ性																																			
			246.0	1.0781	13400																																	
224.0	0.9874	12300																																				
209.0	0.3088	3840																																				

3. 申請に係る情報

令和 3 年（2021 年）12 月 2 日～12 月 24 日に、再評価を受けるべき者から農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）第 8 条第 3 項に基づく試験成績等を受理した。

クロチアニジン、令和 8 年（2026 年）7 月現在、米国、韓国等の国々で登録されている。

4. 作用機作

クロチアニジンはネオニコチノイド系殺虫剤であり、昆虫神経のシナプス後膜のニコチン性アセチルコリン受容体に作用し、シナプス伝達の遮断を起こし、殺虫作用を示す。

（IRAC 分類：4A*）

※参照：<https://irac-online.org>

5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法

評価対象となるクロチアニジンを含有する農薬 69 製剤について、適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法を別添 1 に示す。

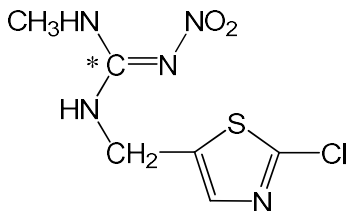
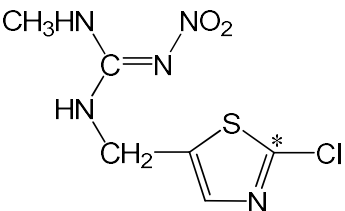
Ⅱ．安全性に係る試験の概要

クロチアニジンは、令和 8 年（2026 年）6 月 10 日、内閣府食品安全委員会において、食品健康影響評価（資料 1）がなされている。食品安全委員会では、評価に用いた試験成績において、過去のテストガイドラインに基づき実施されている試験も確認されたが、クロチアニジンの代謝・毒性プロファイルを適切に把握できることから、評価は可能と判断されている。

1. 経口吸収率

クロチアニジンのニトログアニジン部分の炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[nit- ^{14}C]クロチアニジン」という。）及びチアゾール環の 2 位の炭素を ^{14}C で標識したもの（以下「[thi- ^{14}C]クロチアニジン」という。）（表 1）を用いた動物代謝試験による動物体内への吸収率（経口吸収率）の概要をまとめた。

表 1 標識化合物

略称	[nit- ^{14}C]クロチアニジン	[thi- ^{14}C]クロチアニジン
構造式		
標識位置	ニトログアニジン部分の炭素を標識	チアゾール環の2位の炭素を標識

① 血中濃度推移（ラット）（資料 2、非 GLP）

Wistar ラット（一群雌雄各 3 匹）に[nit- ^{14}C]クロチアニジン又は[thi- ^{14}C]クロチアニジンを 5 mg/kg 体重（以下①及び②において「低用量」という。）で単回経口投与又は単回静脈内投与して、血中濃度推移試験が実施された。

血液中薬物動態学的パラメータは表 2 に示されている。

[nit- ^{14}C]クロチアニジン又は[thi- ^{14}C]クロチアニジンの単回投与時の $C_{\max}$ は、低用量経口投与群では、投与 2 時間後に 1.86～2.36 $\mu\text{g/mL}$ となり、低用量静脈内投与群では投与直後に 4.90～5.62 $\mu\text{g/mL}$ （0.25 及び 0.5 時間の結果を直線回帰して算出した値）となった。 $T_{1/2}$ は、低用量経口投与群で 2.9～4.0 時間、低用量静脈内投与群で 1.8～2.4 時間であり、標識部位間に大きな違いはみられなかった。

両標識体を雌雄ラットに単回経口及び静脈内投与した時の投与後 48 時間までの血液中 AUC 比[=AUC(p.o.)/AUC(i.v.)]は 0.940～0.997 であったことから、経口投与された放射能の吸収率は 94.0%～99.7%であると考えられた。

表 2 血液中薬物動態学的パラメータ

パラメータ	[nit- ¹⁴ C]クロチアニジン				[thi- ¹⁴ C]クロチアニジン			
	5 mg/kg 体重				5 mg/kg 体重			
	雄		雌		雄		雌	
	経口	静脈内	経口	静脈内	経口	静脈内	経口	静脈内
T _{max} (hr)	2.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0	2.0	0.0
C _{max} (μg/mL)	1.86	5.62 ^a	2.36	5.19 ^a	2.15	4.90 ^a	2.08	5.26 ^a
T _{1/2} (hr)	3.8	2.4	2.9	1.8	4.0	2.2	3.8	1.9
AUC ₀₋₄₈ (hr・μg/mL)	20.8	21.5	16.4	17.4	19.2	19.5	17.1	17.1
AUC 比 ^b	0.967		0.940		0.986		0.997	
経口吸収率 ^c (%)	96.7		94.0		98.6		99.7	

表の値は 3 匹の平均値

a : 投与 0.25 及び 0.5 時間後の血液中濃度から直線回帰により算出された。

b : 血液中 AUC 比 [=AUC(p.o.)/AUC(i.v.)]

c : AUC 比×100

② 尿、糞及び呼気中排泄（ラット）（資料 2、非 GLP）

Wistar ラット（一群雌雄各 5 匹）に[nit-¹⁴C]クロチアニジン又は[thi-¹⁴C]クロチアニジンを低用量又は 250 mg/kg 体重（以下②において「高用量」という。）で単回経口投与して、尿、糞及び呼気中排泄試験が実施された。

投与後 7 日の尿、糞及び呼気中排泄率は表 3 に示されている。

投与後 7 日に、低用量投与群において、尿中に 92.0%TAR～95.8%TAR、糞中に 4.4%TAR～6.0%TAR、高用量投与群において、尿中に 90.6%TAR～93.4%TAR、糞中に 4.6%TAR～8.2%TAR が排泄された。投与放射能は主に尿中に排泄された。

本試験より得られた尿及び呼気の合計より、単回投与後 7 日の吸収率は、低用量群で 92.0～95.8%、高用量群で 90.7～93.6%であると算出された。

表 3 投与後 7 日の尿及び糞中排泄率（%TAR）

標識体	[nit- ¹⁴ C]クロチアニジン				[thi- ¹⁴ C]クロチアニジン			
	5 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重		5 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
尿	92.3	95.0	90.6	92.5	92.0	95.8	93.4	92.7
糞	5.7	4.4	6.9	4.6	6.0	4.7	8.2	5.7
呼気 ^a	<0.1	<0.1	0.1	0.1	<0.1	<0.1	0.2	0.3
経口吸収率 ^b	92.3	95.0	90.7	92.6	92.0	95.8	93.6	93.0
総回収率	98.0	99.4	97.6	97.2	98.0	101	102	98.7

表の値は 5 匹の平均値

a : 低用量投与群では投与後 2 日、高用量投与群では投与後 3 日の測定値

b : 尿及び呼気の合計

③ 尿及び糞中排泄（ラット）（資料 3、GLP）

SD ラット（一群雌雄各 4 匹又は雄 4 匹）に[nit-¹⁴C]クロチアニジン又は[thi-¹⁴C]クロチアニジンを 2.5 mg/kg 体重（以下③において「低用量」という。）又は 250 mg/kg 体重（以下③において「高用量」という。）の用量で単回経口投与して、尿及び糞中排泄試験が実施された。

投与後 72 時間の尿及び糞中排泄率は表 4 に示されている。

低用量群では最終投与 24 時間以内に、高用量群では 48 時間以内に投与した放射能の大部分が排泄され、最終投与 72 時間後までに 95.4%TAR～99.1%TAR が排泄された。投与放射能は主に尿中に排泄された。体内残留放射能は僅かであった。尿中排泄には、標識位置及び投与方法による相違は認められなかったが、雄に比べ雌で若干尿中排泄率が高い傾向が認められた。

本試験より得られた尿及びカーカスの合計より、単回投与後 72 時間の吸収率は、低用量群で 95.5～98.0%、高用量群で 99.3%であると算出された。

表 4 投与後 72 時間の尿及び糞中排泄率（%TAR）

標識体	[nit- ¹⁴ C]クロチアニジン		[thi- ¹⁴ C]クロチアニジン	
	2.5 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重	2.5 mg/kg 体重
性別	雄	雌	雄	雌
尿	89.1	94.6	90.5	89.3
糞	6.27	3.29	8.58	7.79
カーカス	0.116	0.093	0.172	0.327
経口吸収率*	89.2	94.7	90.7	89.6
総回収率	95.5	98.0	99.2	97.4

*：尿及びカーカスの合計
表の値は 4 匹の平均値

④ 尿及び糞中排泄（マウス）（資料 4、非 GLP）

ICR マウス（一群雌雄各 5 匹）に[nit-¹⁴C]クロチアニジンを 5 mg/kg 体重の用量で単回経口投与して、尿及び糞中排泄試験が実施された。

尿及び糞中排泄率は表 5 に示されている。

雌雄とも排泄は速やかであり、投与後 1 日以内に 94.5%TAR～95.3%TAR、投与後 7 日に 98.7%TAR～99.2%TAR が体外に排泄された。投与放射能は主に尿中に排泄され、投与後 7 日に尿中に 92.4%TAR～93.7%TAR、糞中に 5.0%TAR～6.8%TAR が排泄された。

本試験より得られた尿の排泄率より、単回投与後 7 日の吸収率は、5 mg/kg 体重投与群で 92.4～93.7%であると算出された。

表 5 尿及び糞中排泄率 (%TAR)

投与群	5 mg/kg 体重	
性別	雄	雌
尿	92.4	93.7
糞	6.8	5.0
経口吸収率*	92.4	93.7
総回収率	99.2	98.7

*：尿の排泄率

表の値は 5 匹の平均値

2. 毒性試験の結果概要

各種毒性試験（資料 5～64）の結果は、資料 1（食品安全委員会農薬・動物用医薬品評価書）の II.安全性に係る試験の概要を参照した。

クロチアニジンの急性経口毒性試験の LD₅₀ はラットで >2,000 mg/kg 体重、マウスで 389 mg/kg 体重であった。経皮、吸入のいずれの投与経路においても急性毒性は弱く（LD₅₀（経皮）：>2,000 mg/kg 体重、LC₅₀（吸入）：>2.25 mg/L）、眼に対してごく軽度～軽度の刺激性が認められたが、皮膚に対する刺激性及び皮膚感作性は認められなかった。

クロチアニジン投与による影響は主に体重（増加抑制）に認められた。発がん性、発達神経毒性、繁殖能に対する影響、催奇形性、生体において問題となる遺伝毒性及び免疫毒性は認められなかった。

マウスを用いた一般薬理試験（一般状態）において、自発運動低下、振戦等、ラットを用いた急性神経毒性試験①において、振戦、自発運動量減少等が認められたが、ラットを用いた急性神経毒性試験②及び 90 日間反復経口投与神経毒性試験においては、神経毒性は認められなかった。

疫学研究について、クロチアニジンの食品を通じた摂取に係る健康影響への懸念を示す知見はなかった。

食品安全委員会は、各試験で得られた無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 年間反復経口投与毒性/発がん性併合試験の 9.7 mg/kg 体重/日であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.097 mg/kg 体重/日を許容一日摂取量（ADI）と設定した。

また、クロチアニジンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響に対する無毒性量及び最小毒性量のうち最小値は、マウスを用いた一般薬理試験（一般状態）の無毒性量 25 mg/kg 体重であったことから、これを根拠として、安全係数 100 で除した 0.25 mg/kg 体重を急性参照用量（ARfD）と設定した。

3. 公表文献における研究結果（資料 65、66、67）

表 6 に示すデータベース [Web of Science (Core Collection) 及び J-STAGE] を用いて、それぞれ 2006 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日、2006 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日を検索対象期間として、有効成分名及びクロチアニジンを含む製剤名をキーワードとして公表文献を検索し、評価対象となる影響、評価対象の生物種等についてガイドライン¹で定めるキーワードで絞り込みが行われた。

その結果、全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野（動物を用いた研究、疫学研究等）に該当するとして収集された公表文献 258 報（データベース間等での重複を含む。）のうち、評価の目的と適合するものとして 38 報の公表文献が提出された。

海外評価機関が作成した評価書中に引用されている公表文献のうち、ヒトに対する毒性の分野に該当する公表文献は 0 報であった。

公表文献に関する情報募集及び食品安全委員会専門委員等からの情報提供により、公表文献 36 報（公表文献検索による収集との重複を含む。）が追加され、疫学以外については 48 報、疫学については 16 報の公表文献が選択された。

評価目的との適合性等の観点から、さらに本部会で検討²した結果、疫学以外については公表文献 25 報（II. 3.1）を、疫学については公表文献 10 報（II. 3.2）を評価に使用する公表文献と判断した。

¹ 公表文献の収集、選択等のためのガイドライン（令和 3 年 9 月 22 日 農業資材審議会農薬分科会決定、令和 5 年 7 月 27 日一部改正）

² 「農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会での公表文献の取扱いについて（令和 4 年 9 月 2 日 農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定）」に基づく検討。

表 6 クロチアニジンに関する公表文献の検索結果

データベース名	Web of Science(Core Collection) ^a
検索対象期間	2006/4/1～2021/3/31
データベース名	J-STAGE
検索対象期間	2006/4/1～2021/3/31
検索結果（全データベースの検索結果を統合したもの）	
対象とする農薬名で検索抽出した総論文数	2599 ^b
ヒトに対する毒性の分野の論文数	258 ^{bc}
全文に基づく適合性評価の対象となったヒトに対する毒性の分野の論文数	68
全文に基づく適合性評価の結果、評価の目的と適合するとした文献数	38
調査対象とした海外評価書	EFSA等評価書 ^d
評価書に引用されたヒトに対する毒性の分野の文献数	0

a：令和5年7月に文献ガイドラインが一部改正されたため、改正後の文献ガイドラインに照らし、追加でWeb of Science（Core Collection）を用いた収集を実施。

b：データベース間等での重複あり

c：他の評価分野との重複あり

d：調査対象とした評価書は下記

- ・ ECHA (2021a): Annex 1 Background document to the Opinion proposing harmonized classification and labelling at EU level of clothianidin (ISO); (E)-1-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-3-methyl-2-nitroguanidine, report no. CLH-O-0000007020-91-01/F, September 2021
- ・ ECHA (2021b): Annex 2 Response to comments document (RCOM) to the Opinion proposing harmonised classification and labelling at EU level of clothianidin (ISO); (E)-1-(2-chloro-1,3-thiazol-5-ylmethyl)-3-methyl-2-nitroguanidine, report no. CLH-O-0000007020-91-01/F, September 2021
- ・ EC (2016): Addendum to Draft Assessment Report prepared in the context of the assessment of the confirmatory information requested by Reg. (EU) No 485/2013, in view of maintenance of approval of clothianidin according to Regulation (EC) N° 1107/2009, dated July 2016
- ・ FAO/WHO (2010): Summary report from the 2010 Joint FAO/WHO meeting on pesticide toxicology and residues for clothianidin (238)
- ・ FAO/WHO (2011): Summary report from the 2011 Joint FAO/WHO meeting on pesticide residues and analytical aspects for clothianidin (238)
- ・ FAO/WHO (2012): Summary report from the 2012 Joint FAO/WHO meeting on pesticide residues and analytical aspects for thiamethoxam (245) and clothianidin (238)
- ・ FAO/WHO (2014): Summary report from the 2014 Joint FAO/WHO meeting on pesticide toxicology, residues and analytical aspects for clothianidin (238)
- ・ EPA (2012b): White paper in support of the proposed risk assessment process for Bees. Office of Chemical Safety and Pollution Prevention. Docket number PA-HQ-OPP-2012-0543-0004, date September 2012
- ・ EPA (2016a): Open Literature Review Summary of Sandrock et al. (2014) on the impact of chronic neonicotinoid exposure on honeybee colony performance and queen. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-1221, dated September 2017
- ・ EPA (2016b): Open Literature Review Summary of Williams et al. (2015). Neonicotinoid

- pesticides severely affect honey bee queens. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-1221, dated December 2016
- EPA (2017a): Clothianidin. Draft human health risk assessment in support of registration. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-0243, dated September 2017
 - EPA (2017b): Open literature review summary of Cavallaro et al. (2016) comparative chronic toxicity of imidacloprid, clothianidin, and thiamethoxam to *Chironomus dilutes*. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-1220, dated February 2017
 - EPA (2017c): Clothianidin – Drinking Water Exposure Assessment for Registration Review of All Registered Uses. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-0248, dated July 2017
 - EPA (2017d): Preliminary bee risk assessment to support the registration review of clothianidin and thiamethoxam. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2017
 - EPA (2017e): Clothianidin – Transmittal of the preliminary aquatic and non-pollinator terrestrial risk assessment to support registration review. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated November 2017
 - EPA (2019a): Open literature review summary of Raby et al. (2018) [chronic] toxicity data. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-1168, dated July 2019
 - EPA (2019b): Open literature review summary of Raby et al. (2018) [acute] toxicity data. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581-0372, dated July 2019
 - EPA (2020a): Clothianidin and thiamethoxam. Proposed interim registration review decision case numbers 7620 and 7614. Docket numbers EPA-HQ-OPP-2011-0865 and EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
 - EPA (2020b): Comparative analysis of aquatic invertebrate risk quotients generated for neonicotinoids using Raby et al. (2018) toxicity data. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
 - EPA (2020c): Attachment 1 to the neonicotinoid final bee risk assessments. Tier II method for assessing combined nectar and pollen exposure to honey bee colonies. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
 - EPA (2020d): Appendices to the final bee risk assessment for clothianidin (PC code 044309) and thiamethoxam (PC code 060109). Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
 - EPA (2020e): Attachment 4 to the neonicotinoid final bee risk assessments. Residue bridging analysis of foliar and soil agricultural uses of neonicotinoids. Docket number EPAHQ-OPP-2011-0581, dated January 2020
 - EPA (2020f): Final bee risk assessment to support the registration review of clothianidin and thiamethoxam. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-1164, dated January 2020
 - EPA (2020g): Attachment 2 to the neonicotinoid final bee risk assessments. Residue bridging analysis of foliar and soil agricultural uses of neonicotinoids. Docket number EPAHQ-OPP-2011-0865-1172, dated January 2020
 - EPA (2020h): Attachment 3 to the Neonicotinoid Final Bee Risk Assessments Residue Bridging Analysis for Foliar and Soil Non-Agricultural Uses of Neonicotinoids. Docket number EPA-HQ-OPP-2011-0865-1173, dated January 2020
 - EFSA (2013): Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment for bees for the active substance clothianidin. EFSA Journal 2013; 11 (1): 3066
 - EFSA (2016): Peer Review Report on clothianidin, dated October 2016
 - EFSA (2018): Conclusion on the peer review of the pesticide risk assessment for bees for the active substance clothianidin considering the uses as seed treatments and granules. EFSA Journal 2018;16(2):5177, 86 pp.

3.1 ヒト以外における知見

3.1.1 動物体内動態

① 動物体内動態の検討（ラット）

Wistar ラット（一群雌 4 匹）にクロチアニジンを 100、163、225、288 又は 350 mg/kg 体重/日の用量で 28 日間反復経口投与して、動物体内動態試験が実施された。

最終投与 1 日後における肝臓及び腎臓におけるクロチアニジンの残留濃度はいずれも 350 mg/kg 体重/日投与群で最大であり、肝臓では 2.5 µg/g、腎臓では 25.6 µg/g であった。

PBPK モデル解析の結果、肝臓及び腎臓におけるクロチアニジンの残留濃度の実測値は、予測値の中央値又はその近傍であった。（資料 68）

② 動物体内動態の検討（マウス）①

ICR マウス（一群雌 5～7 匹）の妊娠 18 日にクロチアニジン 65 mg/kg 体重の用量で単回経口投与又は妊娠 15～18 日若しくは妊娠 10～18 日にクロチアニジン 65 mg/kg 体重/日の用量で反復経口投与して、単回経口投与群では投与 1、3 及び 6 時間後、反復経口投与群では最終投与 6 時間後の母動物及び胎児の血液中のクロチアニジン並びに代謝物 MNG、TMG、TZG、TZMU 及び TZNG が分析された。代謝物略称は別紙 1 に示されている。

母動物及び胎児におけるクロチアニジン及びその代謝物の血中濃度は概ね同等であった。また、単回投与後の血中濃度を解析した結果、クロチアニジン及びその代謝物の血中濃度について、母動物と胎児との間に正の相関が認められた。（資料 69）

③ 動物体内動態の検討（マウス）②

ICR マウス（一群雌 6 匹）の妊娠 18 日にクロチアニジン 65 mg/kg 体重の用量で単回経口投与又は妊娠 10～18 日にクロチアニジン 65 mg/kg 体重/日の用量で反復経口投与して、母動物及び胎児の血液及び組織中のクロチアニジン並びに代謝物 MNG、TMG、TZG、TZMU、TZNG 及び TZU が分析された。

最終投与 6 時間後において、クロチアニジンは脳及び腎臓、代謝物 MNG は脳、腎臓、副腎、胸腺及び脾臓、代謝物 TZG は脳、代謝物 TZNG は脳、腎臓及び胸腺、並びに代謝物 TZU は副腎で、胎児における濃度が母動物より高かった。（資料 70）

④ 動物体内動態の検討（マウス）③

ICR マウス（一群雌 3～12 匹）の哺育 10 又は 11 日にクロチアニジン³を 6.51 mg/kg 体重の用量で単回経口投与して、投与 1、3、6、9、12 及び 24 時間後の血液及び乳汁中のクロチアニジン及び代謝物 TZNG が分析された。

クロチアニジン及び代謝物 TZNG は投与 1 時間後には乳汁中に検出され、いずれの時点においても乳汁中濃度は血中濃度よりも高値であった。投与 24 時間後の血液及び乳汁では、クロチアニジン及び代謝物 TZNG はいずれも検出限界（クロチアニジン：5 ng/mL、代謝物 TZNG：10 ng/mL）未満であった。（資料 71）

⑤ 動物体内動態の検討（マウス）④（代謝物 TZNG）

Swiss-Webster マウス（雄、匹数不明）に代謝物 TZNG を 20 mg/kg 体重の用量で単回腹腔内投与して、投与 15、30、60、120 及び 240 分後の脳、肝臓及び血漿中のクロチアニジン及び代謝物 TZNG が分析された。

脳ではクロチアニジン及び代謝物 TZNG が検出され、投与 120 分後においてはクロチアニジンが代謝物 TZNG より多く検出された。肝臓及び血漿では、いずれも代謝物 TZNG は検出されたが、クロチアニジンは検出されなかった。（資料 72）

3.1.2 神経行動学的影響

① 神経行動学的影響の検討（マウス）①

C57BL/6N マウス（一群雄 10 又は 14 匹）にクロチアニジン³を 0、5 及び 50 mg/kg 体重（溶媒：0.5%CMC）の用量で単回強制経口投与して、高架式十字迷路試験³が実施され、神経行動学的影響について検討された。また、0 及び 50 mg/kg 体重投与群では、試験実施後に採取した脳を用いて、免疫組織化学的検査が実施された。

5 mg/kg 体重以上投与群でオープンアーム滞在率及びオープンアーム進入率の減少、50 mg/kg 体重投与群で総移動距離及び総アーム進入回数の減少並びに鳴き声が認められた。免疫組織化学的検査の結果、50 mg/kg 体重投与群で視床室傍核における c-fos 陽性細胞数の増加が認められた。（資料 73）

³ 検査項目は、総移動距離、総アーム進入回数、オープンアーム滞在率及びオープンアーム進入率。

② 神経行動学的影響の検討（マウス）②

C57BL/6N マウス（一群雌雄 5 又は 6 匹）にクロチアニジンを 0、5⁴及び 50 mg/kg 体重（溶媒：0.5%CMC）の用量で単回強制経口投与又は 5 日間強制経口投与して、オープンフィールド試験⁵、高架式十字迷路試験⁶及び新奇物体認識試験⁷又はバーンズ迷路試験⁸が実施され、神経行動学的影響について検討された。また、高架式十字迷路試験又はバーンズ迷路試験実施後に採取した脳を用いて、免疫組織化学的検査が実施された。

単回強制経口投与において、オープンフィールド試験では 50 mg/kg 体重投与群の雄で総移動距離の減少、高架式十字迷路試験では 5 mg/kg 体重以上投与群の雄でオープンアーム滞在率の減少、50 mg/kg 体重投与群の雄で総アーム進入回数の減少、雌でオープンアーム滞在率の減少、新奇物体認識試験では 5 mg/kg 体重以上投与群の雄で新奇物体への探索行動率の減少が認められた。免疫組織化学的検査の結果、5 mg/kg 体重以上投与群の雄及び 5 mg/kg 体重の雌で視床室傍核における c-fos 陽性細胞数の増加が認められた。

5 日間強制経口投与において、50 mg/kg 体重/日投与群の雄で逃避箱に入るまでの移動距離及び時間の増加（投与 3 日）が認められた。免疫組織化学的検査の結果、雄で海馬歯状回における c-fos 陽性細胞数の増加が認められた。

以上のことから、神経行動学的影響は、マウスにおいて、雌に比べて雄で感受性が高いと考えられた。（資料 74）

＜神経行動学的影響及び c-fos 陽性細胞数の増加について＞

神経行動学的影響の検討（マウス）①及び② [3.1.2①及び②] において、5 mg/kg 体重以上投与群で一部の行動試験の検査項目の変化及び c-fos 陽性細胞数の増加が認められた。

クロチアニジンの神経毒性に関しては、神経行動学的影響の検討（マウス）①及び②のほかに、*in vivo* 研究では Nishi ら（2022、資料 75）、Hirano ら（2021、資料 76）、Hirano ら（2015、資料 77）、Kimura ら（2023、資料 78）、Hara ら（2024、資料 79）、Özdemir ら（2014、資料 80）等が収集され、一部の行動試験の検査項目等の変化が報告されたことから、これらの論文を横断的に精査した。

⁴ バーンズ迷路試験では投与されなかった。

⁵ 検査項目は、総移動距離及び中央滞在時間。

⁶ 検査項目は、総アーム進入回数及びオープンアーム滞在率。

⁷ 検査項目は、総探索回数及び新奇物体への探索行動率。

⁸ 検査項目は、逃避箱に入るまでの移動距離及び時間。

その結果、5 mg/kg 体重投与群で認められた一部の行動試験の検査項目の変化については、用量相関性が明らかではなかったことから、検体投与による影響ではないと判断した。一方、50 mg/kg 体重投与群で認められた変化については、神経行動学的影響の検討（マウス）①及び②における再現性並びにマウスを用いた一般薬理試験（一般状態）において、50 mg/kg 体重投与群で自発運動低下等が認められていることを踏まえると、検体投与による影響の可能性を否定できないと考えられた。

5 mg/kg 体重以上投与群で認められた c-fos 陽性細胞数の増加については、行動試験で認められた所見との関連が不明であること、用量相関性が認められないこと等から、毒性学的意義は不明と考えられた。

③ 児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）①

ICR マウス（一群雌 10 匹）の妊娠期間及び哺育期間にクロチアニジンを混餌投与（分析標品、純度>99.0%：0、20、60 及び 180 ppm：平均検体摂取量は表 7 参照）して、児動物への神経行動学的影響⁹について検討された。

表 7 児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）①の平均検体摂取量

投与群		20 ppm	60 ppm	180 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	妊娠期間	3.00	8.81	28.6
	哺育期間	11.7	32.7	99.7

母動物においては、検体投与による毒性影響は認められなかった。

児動物において、60 ppm 投与群の雄で自発運動における複数の検査項目の増加又は減少（9～10 週齢時）、雌で探索行動における平均立ち上がり時間の減少（8 週齢時）が認められた。60 ppm 投与群の雌で遊泳能力（方向）亢進（14 日齢時）、嗅覚性方向反応（所要時間）亢進（14 日齢時）、20 ppm 投与群の雌で平面立ち直り反応促進（7 日齢時）が認められたが、これらの群では対照群に比べて哺育初期に出生児体重の増加が認められており、これに伴う影響の可能性も考えられた。これらの所見はいずれも 180 ppm 投与群では認められなかった。（資料 81）

⁹ 検査項目は、平面立ち直り反応及び背地走性（4 及び 7 日齢時）、断崖回避（7 日齢時）、遊泳能力（方向、頭角度、四肢運動：7 及び 14 日齢時）、嗅覚性方向反応（巣の木片区画到達までの所要時間及び経路：14 日齢時）、探索行動（総移動距離、水平運動回数、移動時間、立ち上がり回数及び時間、平均移動時間、平均移動速度、平均立ち上がり時間、排便回数：3 及び 8 週齢時）、水迷路試験（所要時間、エラー数：7 週齢時）、自発運動（総移動距離、水平運動回数、移動時間、立ち上がり回数及び時間、平均移動時間、平均移動速度、平均立ち上がり時間：9～10 週齢時）。

④ 児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）②

ICR マウス（一群雌雄各 10 匹）の P 世代の 5 週齢から F₁ 世代の 11 週齢にクロチアニジンを混餌投与（分析標品、純度>99.0%：0、30、60 及び 120 ppm：平均検体摂取量は表 8 参照）して、親動物及び児動物への神経行動学的影響¹⁰について検討された。

表 8 児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）②の平均検体摂取量

投与群				30 ppm	60 ppm	120 ppm
平均検体摂取量 (mg/kg 体重/日)	P 世代	雄	生育期間	4.37	8.94	18.5
			生育期間	4.97	9.97	21.3
		雌	妊娠期間	4.49	8.82	18.3
			哺育期間	15.2	30.6	60.3
	F ₁ 世代	雄		4.50	9.00	19.1
		雌		5.45	11.1	22.0

親動物においては、検体投与による毒性影響は認められなかった。

児動物において、60 ppm 投与群の雄で探索行動における平均立ち上がり時間の減少（8 週齢時）、雌で嗅覚性方向反応（経路）抑制（14 日齢時）、自発運動における平均移動速度及び立ち上がり時間の減少（9～10 週齢時）、30 ppm 投与群の雄で自発運動における水平運動回数の減少（9～10 週齢時）が認められた。また、60 ppm 投与群の雄で遊泳能力（頭角度）亢進（7 日齢時）、嗅覚性方向反応（所要時間）亢進（14 日齢時）、雌で遊泳能力（頭角度）亢進（7 日齢時）、30 ppm 投与群の雌で平面立ち直り反応促進（4 日齢時）、背地走性促進及び遊泳能力（頭角度）亢進（7 日齢時）が認められたが、これらの群では対照群に比べて哺育初期に出生児体重の増加が認められており、これに伴う影響の可能性も考えられた。これらの所見はいずれも 120 ppm 投与群では認められなかった。（資料 82）

⑤ 児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）③

C57BL/6N マウス（一群雌 15 又は 17 匹）の妊娠 1 日～哺育 21 日にクロチアニジンを水ゲル投与（純度 90%：0 及び 65 mg/kg 体重/日、溶媒：1%DMSO）して、3 及び 10 週齢の雄の児動物にオープンフィールド試験¹¹

¹⁰ 検査項目は、親動物では探索行動（総移動距離、水平運動回数、移動時間、立ち上がり回数及び時間、平均移動時間、平均移動速度、平均立ち上がり時間、排便回数：8 週齢時）、児動物では児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）①と同様の項目。

¹¹ 検査項目は、総移動距離、移動速度及びセンターゾーン滞在率。

及び高架式十字迷路試験¹²が実施され、児動物への神経行動学的影響について検討された。また、行動試験後に採取した脳を用いて、免疫組織化学的検査¹³が実施された。

高架式十字迷路試験ではオープンアーム進入率の減少（3週齢時）、オープンフィールド試験では総移動距離及び移動速度の増加（10週齢時）が認められた。免疫組織化学的検査では有意な変化は認められなかった。（資料 83）

⑥ 児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）④

C57BL/6N マウス（一群雌 5 又は 7 匹）の妊娠 1 日～哺育 21 日にクロチアニジンを水ゲル投与（純度 95%：0 及び 65 mg/kg 体重/日、溶媒：1%DMSO）して、F₁、F₂ 及び F₃ 世代の 10 週齢の雄の児動物にオープンフィールド試験¹⁴及び高架式十字迷路試験¹⁵が実施され、3 世代の児動物への神経行動学的影響について検討された。

F₁ 世代では、体重増加抑制（生後 3 週）並びに高架式十字迷路試験において総アーム進入回数及びオープンアーム進入率の減少が認められた。F₂ 及び F₃ 世代では、いずれの試験においても有意な変化は認められなかった。（資料 84）

⑦ 児動物への神経行動学的影響の検討（マウス）⑤

C57BL/6N マウス（一群雌 3～10 匹）の妊娠 9～12 日若しくは 15～18 日にクロチアニジンを水ゲル投与（純度 95%：0 及び 65 mg/kg 体重/日、溶媒：1%DMSO）又は哺育 1～4 日若しくは 11～14 日にクロチアニジンを強制経口投与（0 及び 65 mg/kg 体重/日、溶媒：0.5%CMC）して、3 及び 10 週齢の雄の児動物にオープンフィールド試験¹⁶及び高架式十字迷路試験¹⁷が実施され、児動物への神経行動学的影響について検討された。また、行動試験後に採取した脳を用いて、免疫組織化学的検査¹⁸が実施された。

妊娠 9～12 日投与群及び妊娠 15～18 日投与群の児動物において、オープンフィールド試験で中央滞在率の減少（10 週齢時）、哺育 1～4 日投与群の児動物において、高架式十字迷路試験で総移動距離及び総アーム進入回数の

¹² 検査項目は、総移動距離及びオープンアーム進入率。

¹³ 海馬歯状回では c-fos、DCX、NeuN、大脳皮質では NeuN、線条体ではドーパミン受容体 D1 及び D2 に対する抗体が用いられた。

¹⁴ 検査項目は、総移動距離、移動速度及びセンターゾーン滞在率。

¹⁵ 検査項目は、総移動距離、総アーム進入回数、オープンアーム滞在率及びオープンアーム進入率。

¹⁶ 検査項目は、総移動距離、移動速度及びセンターゾーン滞在率。

¹⁷ 検査項目は、総移動距離、総アーム進入回数、オープンアーム滞在率及びオープンアーム進入率。

¹⁸ 海馬歯状回で DCX に対する抗体が用いられた。

増加（10 週齢時）が認められた。免疫組織化学的検査の結果、哺育 1～4 日投与群の海馬歯状回の顆粒細胞層下帯において DCX 陽性細胞数の減少（10 週齢時）が認められた。（資料 85）

<本剤の発達神経毒性について>

クロチアニジンの発達神経毒性に関して、今回文献情報として、*in vitro* 研究では Loser ら（2021、資料 86）、Hirano ら（2019、資料 87）等、*in vivo* 研究では Tanaka（2012a、資料 81）〔3.1.2③〕、Tanaka（2012b、資料 82）〔3.1.2④〕、Maeda ら（2021、資料 83）〔3.1.2⑤〕、Shoda ら（2023a、資料 84）〔3.1.2⑥〕及び Shoda ら（2023b、資料 85）〔3.1.2⑦〕が収集された。

In vitro 研究では、Loser ら（2021）、Hirano ら（2019）において、ヒト胎児中脳由来細胞株（LUHMES 細胞）及びヒト神経芽細胞腫由来細胞株（SH-SY5Y 細胞）への処理により、ニコチン及びアセチルコリンに対するシグナル伝達反応の低下、細胞内 Ca^{2+} 濃度の一時的な増加等が報告された。

上述の *in vitro* 研究において得られた結果は、本剤の神経系への作用メカニズムの特徴付けにおいて有用であると考えられるものの、発達神経毒性の有害性発現経路における位置付けは明確ではない。

現在、発達神経毒性に関する *in vitro* battery（発達神経毒性を検討するための一連の *in vitro* 試験群）について妥当性確認等の国際的な検討が進められているところであり、更なる知見の集積が必要であると考えられた。

In vivo 研究としては、Tanaka（2012a）〔3.1.2③〕において、本剤を妊娠期及び哺育期の雌のマウスに混餌投与した結果、児動物で一部の行動試験の検査項目の変化が報告された。Tanaka（2012b）〔3.1.2④〕において、本剤を P 世代の 5 週齢から F₁ 世代の 11 週齢の雌雄のマウスに混餌投与した結果、母動物及び児動物で一部の行動試験の検査項目の変化が報告された。Maeda ら（2021）〔3.1.2⑤〕において、本剤を妊娠期及び哺育期の雌のマウスに水ゲル投与した結果、児動物で一部の行動試験の検査項目の変化が報告された。Shoda ら（2023a）〔3.1.2⑥〕において、本剤を妊娠期及び哺育期の雌のマウスに水ゲル投与した結果、F₁ 世代で一部の行動試験の検査項目の変化が報告された。Shoda ら（2023b）〔3.1.2⑦〕において、本剤を妊娠期の雌のマウスに水ゲル投与又は哺育期の雌のマウスに強制経口投与した結果、児動物で一部の行動試験の検査項目等の変化が報告された。

一方、各論文を横断的に精査した結果、これらの研究は限定された行動試験法で実施されており、また、報告されている変化には、一部の行動試験の検査項目に認められ、各論文に共通した行動変化がない場合があること、用

量相関性が明確でないこと、国内外の複数の研究機関で同じエンドポイントで影響が確認されていないこと等から、発達神経毒性の有無について結論できないと考えられた。また、これらの点に加え、混餌飼料中の被験物質の安定性に係る情報及び投与量を裏付ける情報に不足があること等から、現時点では AOEL、AAOEL 等のリスク評価指標に用いることは困難であると考えられた。

ラットを用いた発達神経毒性試験において、1,750 ppm 投与群の児動物で聴覚驚愕反応の抑制が雌では生後 23 日に認められたが、生後 23 日の雄及び生後 63 日の雌雄では認められなかった。また、同群の雌雄の児動物で自発運動量の減少が生後 22 日に認められたが、生後 14、18 及び 62 日では認められなかった。本試験では、飼育温度に係るテストガイドラインとの相違点が一部認められたものの、評価に用いる上で特段の問題はないと考えられた。

1,750 ppm 投与群の児動物で認められた聴覚驚愕反応の抑制及び自発運動量の減少は、生後 22 又は 23 日のみで認められ、生後 62 又は 63 日では認められなかった。これらの変化について、離乳直前の児動物が母乳のみならず混餌飼料を摂取したことによる直接的な被験物質への暴露に関連した影響の可能性が考えられること、同用量の児動物では体重増加抑制が認められており、一般状態の悪化に伴う影響とも考えられること、継続して認められない一過性の変化であることから、発達神経毒性を示すものではないと考えられた。

以上より、公表文献において、一部の行動試験の検査項目の変化が認められたものの、テストガイドラインに沿って実施された、ラットを用いた発達神経毒性試験の結果も含めて総合的に評価した結果、本剤の発達神経毒性は認められなかったと判断した。

今後、発達神経毒性に関する研究において、*in vitro* 研究で認められた影響の *in vivo* への外挿性や児動物への神経行動学的影響に関する国内外の複数の研究者が公表した科学的知見が集積し、複数の研究機関における再現性や用量相関性が明らかになってくれば、再検討する根拠となる可能性はある。このことから、引き続き関連情報の収集に努める必要がある。

3.1.3 その他の知見

- ① ネコ、イヌ、ラット及びヒト肝ミクロソーム画分における代謝の比較 (*in vitro*)
ネコ (雄 4 匹)、ビーグル犬 (雄 3 匹)、SD ラット (雄 4 匹) 又はヒト (男女混合、人数 10 人) の肝ミクロソーム画分に、G6PDH 及び NADPH 存在下でクロチアニジン を 10、25、50、100、200 又は 400 µmol/L の最終濃度

となるよう添加し、37℃で 30 分間インキュベートして、ネコ、イヌ、ラット及びヒト肝ミクロソーム画分におけるクロチアニジンの代謝について比較検討された。

いずれの肝ミクロソーム画分においても、代謝物 MNG 及び TZNG が認められた。クロチアニジンから代謝物 MNG 及び TZNG への代謝は、ネコ、イヌ及びヒトに比べてラットにおいて速やかであった。(資料 88)

② ヒト組換え P450 酵素による代謝の比較 (*in vitro*)

ヒト組換え P450 酵素 (CYP1A2、2A6、2B6、2C9、2C19、2D6、2E1 又は 3A4) に、NADPH 存在下でクロチアニジンを 132 µmol/L の最終濃度となるよう添加し、25℃で 1 時間インキュベーションして、P450 アイソザイムによる代謝について比較検討された。

クロチアニジンから代謝物 TZNG への変換には CYP2A6、CYP2C19 及び CYP3A4 が関与することが確認された。固有クリアランス ($V_{\max}/K_m$) は、CYP2A6 で 2.5×10^{-4} µL/min/pmol P450、CYP2C19 で 2.1×10^{-4} µL/min/pmol P450、CYP3A4 で 19×10^{-4} µL/min/pmol P450 であった。(資料 89)

③ ラット、マウス及びヒト肝ミクロソーム画分における代謝の比較 (*in vitro*)

Tif:RAIf ラット (性別不明、12 匹)、Tif:MAGf マウス (雄 20 匹) 又はヒト (男女混合、6 人) の肝ミクロソーム画分に、NADPH 存在下でクロチアニジンを 0.05 mmol/L～2.0 mmol/L の最終濃度となるよう添加し、37℃で 15 分間インキュベートして、ラット、マウス及びヒト肝ミクロソーム画分におけるクロチアニジンの代謝について比較検討された。

クロチアニジンから代謝物 TZNG への代謝は、ラット及びヒトに比べてマウスにおいて速やかであった。固有クリアランス ($V_{\max}/K_m$) はラットで 0.14 µL/min/mg、マウスで 2.54 µL/min/mg、ヒトで 0.08 µL/min/mg であった。(資料 90)

④ 免疫毒性の検討 (ラット)

SD ラット (一群雄 6 匹) にクロチアニジンを 28 日間強制経口投与 (0、30 及び 300 mg/kg 体重/日、溶媒 : 0.5%CMC) して、投与 22 及び 28 日に 1-フルオロ-2,4-ジニトロベンゼン (DNFB) 処理により接触皮膚炎を誘発させ、免疫毒性¹⁹⁾について検討された。

¹⁹⁾ 検査項目は、体重測定 (投与期間中)、臓器重量 (胸腺、脾臓、肝臓)、耳介の厚さ、病理組織学的検査 (耳介、胸腺、大腿骨髄、脾臓、下顎リンパ節、回腸 (パイエル板)、肝臓)、耳介の免疫組織化

300 mg/kg 体重/日投与群で体重増加抑制、胸腺の比重量減少及び肝臓の比重量増加並びに肝細胞空胞化が認められた。耳介の厚さ及び免疫組織化学的検査並びに免疫系臓器の病理組織学的検査では、検体投与による毒性影響は認められなかった。(資料 91)

⑤ 免疫系臓器への影響 (マウス)

C57BL/6N マウス (一群 8~9 匹) の妊娠 1 日~哺育 21 日にクロチアニジン水を水ゲル投与 (0 及び 65 mg/kg 体重/日、溶媒: 1%DMSO) して、母動物並びに 3 及び 10 週齢の雄の児動物の免疫系臓器への影響²⁰について検討された。

母動物において、副腎の絶対重量減少及び胸腺髄質における CD68 陽性領域の減少、10 週齢の児動物において、胸腺髄質における面積当たりのハッサル小体数の増加が認められた。(資料 92)

学的検査 (TCR $\alpha\beta$ 、CD4、CD8、CD11b、CD68、CD103)

²⁰ 検査項目は、体重測定 (児動物)、臓器重量 (母動物、児動物: 胸腺、脾臓、副腎)、胸腺の病理組織学的検査 (母動物、児動物) 及び免疫組織化学的検査 (母動物、児動物: CD68)

3.2 ヒトにおける知見

3.2.1 疫学研究

提出された疫学研究に該当する文献について、クロチアニジンへの暴露と健康影響との関連について検討した。

健康関連の事象(疾病等)との関連が検討された主な文献は、小児期発達 2 報、小児の肥満 1 報、青年期の肥満 1 報、妊娠糖尿病 1 報、母体の血液学的パラメータ及び新生児への影響 1 報、ステロイドホルモンに対する影響 1 報、歯周病 1 報及び神経学的症状 1 報であった。

また、クロチアニジン暴露の把握方法としては、生体試料(尿、歯又は血液)中の濃度が 9 報であった。

① 小児期発達との関連①

中国武漢市において、2014～2017年に尿サンプルが採取された妊婦 5,112 人のうち、妊娠第 1～第 3 三半期のそれぞれの期間に尿サンプルが採取された妊婦 1,041 人とその子供を対象に、妊婦の尿中のクロチアニジン及び代謝物 TZNG 濃度と子供の 2 歳時調査(ベイリー乳幼児発達検査)における発達遅延との関連がコホート研究により検討された。

母親の教育レベル、年齢、妊娠前 BMI、妊娠中の受動喫煙、妊娠中の葉酸摂取、出産回数及び分娩方法、子供の性別及び授乳期間並びにサンプルを採取した季節について調整が行われたところ、尿中のクロチアニジン濃度と精神発達指標(MDI)や精神運動発達指標(PDI)との間に関連は認められなかった。代謝物 TZNG 濃度と男児の MDI との間に正の関連が認められた(調整済み回帰係数: 2.47、95%CI: 0.67～4.28)。

本研究には、妊婦の食事の情報、ほかの汚染物質の交絡効果及びベイリー乳幼児発達検査と出生後の暴露との関連について考慮されていないことの限界があると考えられた。(資料 93)

② 小児期発達との関連②

日本において、2011 年 1 月～2014 年 3 月の「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」に登録された妊婦とその生まれた子どものうち 8,538 組を対象に、妊婦の尿中のネオニコチノイド系農薬等濃度(妊娠初期及び中/後期)と生後 6 か月～4 歳における小児期の発達遅延(日本語版乳幼児発達検査スクリーニング質問票第 3 版(J-ASQ-3)を用いたカットオフ値による判定)との関連がベイズ統計を用いて検討された。

世帯年収及び母親の食品摂取量(茶、米、豆類、いも類、野菜類、果物類)について調整が行われたところ、クロチアニジン暴露と小児期の発達遅延と

の間に関連は認められなかった〔生後 6 か月時の意思疎通能力のオッズ比：1.00（妊娠第 1 三半期）、1.00（妊娠第 2、3 三半期）、95%CI（95%信用区間）：0.90～1.04（妊娠第 1 三半期）、0.94～1.07（妊娠第 2、3 三半期）等〕。代謝物 TZNG は尿中での検出率が低く、解析が実施されなかった。

本研究では、スポット尿で測定されたネオニコチノイド系農薬の尿中濃度の再現性が乏しいこと、本研究結果が他集団でも再現される必要があること等の限界があると考えられた。（資料 94）

③ 小児の肥満との関連

中国山東省において、2010～2013 年に妊婦 773 人のコホートが設定され、生まれた子供の 7 歳時調査において 380 人を対象に、尿中のクロチアニジン濃度と肥満との関連が横断研究により検討された。

母親の教育レベル、世帯月収、妊娠前 BMI、出産回数及び分娩方法並びに子供の性別、年齢及び尿中 Cre レベルについて調整が行われたところ、尿中のクロチアニジン濃度と肥満（BMI z-スコア ≥ 85 パーセンタイル）及び腹部肥満（腹囲身長比 ≥ 0.5 ）との間に関連は認められなかった（肥満のオッズ比：1.07、95%CI：0.830～1.39、腹部肥満のオッズ比：1.20、95%CI：0.940～1.52）。

本研究には、横断研究のため因果に言及できないこと、スポット尿 1 回のみの測定であったこと、サンプルサイズが大きいことの限界があると考えられた。（資料 95）

④ 青年期の肥満との関連

中国重慶市において、2014 年に思春期発達に関するコホートが設定され、その後 6 か月毎の追跡調査が実施された。2019 年 11 月の追跡調査から抽出した男子（11.3～16.1 歳）300 人、女子（12.1～15.8 歳）224 人を対象に、尿中のクロチアニジン濃度と肥満との関連が横断研究により検討された。

年齢、性別、家族一人当たりの月収、親の教育レベル及び職業、核家族、同居者人数、兄弟の有無、学校所在地、7 品目の食品摂取頻度並びに尿中 Cre レベルについて調整が行われたところ、尿中クロチアニジン濃度の第一四分位を対照群とした場合、第三及び第四四分位では全体（男子+女子）の（BMI で定義した）肥満との間に正の関連が認められた（第三四分位、オッズ比：2.30、95%CI：1.02～5.19、第四四分位、オッズ比：2.37、95%CI：1.07～5.22）。また、第四四分位では、全体及び男子の腹部肥満との間に正の関連が認められたが、女子では関連は認められなかった（全体、オッズ比：2.06、95%CI：1.10～3.88、男子、オッズ比：2.79、95%CI：1.05～7.33、女子、

オッズ比：0.98、95%CI：0.32～3.05)。

本研究には、横断研究のため因果関係が検証できないこと、身体活動が調整されていないこと、ネオニコチノイド系農薬と内分泌かく乱物質との相互作用が考慮されていないこと、ネオニコチノイド系農薬のヒトでの半減期は短く、スポット尿サンプル中の濃度は長期的な暴露レベルを反映していない可能性があること、多重比較による偽陽性の懸念があること及びサンプルサイズが大きいことの限界があると考えられた。(資料 96)

⑤ 妊娠糖尿病との関連

中国武漢市において、2013 年 10 月～2017 年 10 月に最初の妊婦健診(妊娠 16 週以内)で尿サンプルが採取され、妊娠 24～28 週目に 75 g の経口ブドウ糖負荷試験を受けた妊婦 6,663 人のうち、妊娠糖尿病と診断された 519 人及び対照群として子供の性別及び母親の年齢(±2 歳)をマッチングした妊娠合併症のない健康な妊婦 519 人を対象に、尿中のクロチアニジン及び代謝物 TZNG 濃度と妊娠糖尿病との関連がコホート内症例対照研究により検討された。

母親の年齢、出産経験、学歴、妊娠前の BMI、妊娠中の雇用及び受動喫煙、子供の性別²¹並びに採尿の季節について調整が行われたところ、尿中のクロチアニジン及び代謝物 TZNG 濃度と妊娠糖尿病との間に正の関連が認められた(クロチアニジンのオッズ比²²：1.49、95%CI：1.30～1.72、代謝物 TZNG のオッズ比：1.13、95%CI：1.03～1.25)。

本研究には、食事の情報が考慮されていないこと、クロチアニジンは尿中半減期が短く速やかに排泄されることから 1 時点のみの尿中のクロチアニジン及び代謝物 TZNG の濃度は妊娠初期の暴露を代表していない可能性があること等の限界があると考えられた。(資料 97)

⑥ 母体の血液学的パラメータ及び新生児への影響との関連

中国広東省広州市において、職業上ネオニコチノイド系農薬に暴露したことがない健康な妊婦 95 人を対象に、2017 年に出産時の母体血清、臍帯血清中のクロチアニジン濃度と母体の血液学的パラメータ(血球、肝機能、腎機能)及び新生児の体格との関連が検討された。また、個々のネオニコチノイド系農薬の胎盤經由移行効率(TTE)²³が計算され、化学構造及び特性が TTE に与える影響の比較が行われた。

²¹ 通常マッチングされた変数は調整には用いられないが、文献どおりに記載した。

²² 尿中濃度 1 ng/mL の変化に対応するオッズ比。

²³ 臍帯血清及び母体血清サンプル中のネオニコチノイド系農薬の濃度比率から計算された。

母体血清中のクロチアニジン濃度と血液学的パラメータについては、年齢、居住地、出産方法を調整²⁴したところ母体血清中のクロチアニジン濃度と Cre 濃度との間に負の関連（調整済み回帰係数：-0.04 $\mu\text{mol/L}$ 、95%CI：-0.071~-0.008 $\mu\text{mol/L}$ ）が認められた。母体血清及び臍帯血清中のクロチアニジン濃度と新生児の体格については、子供の性別、在胎週数を調整²⁵したところ、いずれも関連は認められなかった。また、ネオニコチノイド系農薬は胎盤移行を妨げられることなく通過できるという結果が得られた。クロチアニジンの TTE の中央値は 0.96 であった。

本研究には、サンプルサイズが大きいこと及び網羅的解析にも関わらず多重検定の補正がされていないことの限界があると考えられた。（資料 98）

⑦ ステロイドホルモンに対する影響との関連

タイ北部のチェンマイ県において、週 3 日以上農業に従事し、慢性疾患（糖尿病、肝臓病、腎不全、がん等）や内分泌疾患歴がない、18~40 歳の男性 143 名を対象に、尿中のクロチアニジン濃度と血清中のステロイドホルモン濃度との関連が横断研究により検討された。

年齢、BMI、喫煙状況、アルコール摂取量、人種、学歴、個人所得、農業従事者としての総勤務年数、職業上の地位、田畑（農場）での週当たりの労働日数及び 1 日当たりの労働時間、最後の農薬使用からサンプル採取までの期間、血液学的状態について調整が行われたところ、尿中のクロチアニジンとアンドロステンジオンとの間に正の関連（調整済み回帰係数：0.26、95%CI：0.08~0.45）が、コルチゾンとの間に負の関連が認められた。

本研究には、横断研究であるために因果関係が検証できないこと、ネオニコチノイドのヒトにおける半減期が短く尿中濃度が長期の暴露を適切に反映していない可能性があること、特にアンドロステンジオン及びテストステロンについては多変量回帰モデルにおける調整済み決定係数が比較的小さい等の限界があると考えられた。（資料 99）

⑧ 歯周病との関連

中国において、2019 年 5~10 月に虫歯でない第 3 大臼歯が収集された歯周病患者 71 人及び歯周病のない対照群 56 人を対象に、第 3 大臼歯中の農薬濃度と歯周病との関連が症例対照研究により検討された。

第 3 大臼歯中のクロチアニジンの濃度と歯周病との間に有意な正の関連

²⁴ 文献の表の脚注に「母の年齢、居住地、妊娠週数及び出産方法で調整」と異なる記載があるが、本文中の記載に従った。

²⁵ 文献の表の脚注に「母の年齢、居住地、妊娠週数及び出産方法で調整」と異なる記載があるが、本文中の記載に従った。

が認められた（粗オッズ比：5.71、95%CI：2.05～15.9、trend $p < 0.01$ ）が、年齢及び性別による調整が行われた結果（調整後オッズ比：3.45、95%CI：1.05～12.8、trend $p > 0.05$ ）については、オッズ比と有意差に矛盾があるため、関連性を評価できなかった。

本研究には、サンプルサイズが大きくないことの限界があると考えられた。（資料 100）

⑨ 神経学的症状との関連

日本において、2012～2014 年に原因不明の神経学的症状（手指の振戦、近時記憶障害等）を呈した患者 35 人（定型症状群 19 人、非定型症状群 16 人）²⁶及び対照群として症状のないボランティア 50 人（性別・年齢でマッチング）を対象に、尿中のクロチアニジン濃度と神経学的症状との関連が症例対照研究により検討された。

クロチアニジンは、定型症状群では検出されず、非定型症状群で 1 例（検出率：6.3%）、対照群で 1 例（検出率：2.0%）が検出されたのみだった。検出者の数が少なく、関連性を評価することはできなかった。

本研究は、症例及び対照群の選定過程において選択バイアスが生じた可能性があること、ネオニコチノイド系農薬のヒトでの半減期が短く、スポット尿の濃度が長期的な暴露レベルを反映していない可能性があることの限界があると考えられた。（資料 101）

本部会では、これらの疫学研究のうち、一部の研究では、クロチアニジン及び代謝物 TZNG 暴露と事象（疾病等）との間に統計学的に有意な正又は負の関連が認められたが、多重比較による偽陽性の懸念があること、暴露量の推定において用いられている情報が限定的であること、同一の事象（疾病等）についての研究が複数存在せず結果の一致性を確認できないこと等の理由から、いずれの事象（疾病等）についても、クロチアニジン及び代謝物 TZNG 暴露との因果関係に関する証拠は不十分であると判断した。

²⁶ 文献では、手指の振戦及び近時記憶障害があり、かつ頭痛、全身倦怠感、動悸／胸痛、腹痛、筋肉痛／筋力低下／痙攣又は咳の 6 つ自覚症状のうち 5 つ以上の症状を呈した患者は定型症状群、それ以外の患者は非定型症状群に分類された。

3.2.2 その他の情報（バイオモニタリング）

ヒトにおける動態（バイオモニタリング）関連の論文として、トキシコキネティクス関連 1 報を含む 5 報についてその概要を表 9 にまとめた。まとめるにあたり、欧州食品安全機関（EFSA）で採用されているバイオモニタリング試験の信頼性評価基準^{27,28}に基づき、信頼性を評価し、スコア 2 以下を目安とした。

提出された論文では、いずれも健康事象との関連は報告されていないこと、農薬使用者の農薬使用記録が明らかな研究がなく、個々の被験者について暴露量と尿中濃度との関連性を解析するには情報が不十分であることから、現時点では報告された健康事象（3.2.1）と統合して AOEL、AAOEL の設定に資する解析を行うことは困難であると考えられた。

リスク評価の観点からは、思春期である 10 歳代のデータが含まれていないという限界はあるが、一般的な生活環境における 5 つのバイオモニタリング試験で検出されたヒト尿中濃度（中央値及び 95%タイル値）から推定した体内暴露量²⁹はそれぞれ AOEL の 0.05%未満及び AAOEL の 0.1%程度であった。

疫学研究、*in vivo* 研究（動物試験）、*in vitro* 研究、*in silico* 解析などのデータを統合して評価する新しい評価法（AOP-informed IATA methodology）の検討が国際的に進められていることもあり、研究結果を相互に解析する上で、バイオモニタリングの知見の重要性は高く、更なる知見の集積が必要であると考えられた。

²⁷ EFSA PPR Panel, 2017. Scientific Opinion of the PPR Panel on the follow-up of the findings of the External Scientific Report ‘Literature review of epidemiological studies linking exposure to pesticides and health effects’. EFSA Journal 15(10), 5007, 101 pp. <https://doi.org/10.2903/j.efsa.2017.5007>

²⁸ RPA, HSL, IEH, 2017. Human biomonitoring data collection from occupational exposure to pesticides - Final Report, EFSA supporting publication 2017:EN-1185. 207pp

²⁹ 経口吸収率(Fabs)を 40%と仮定

表 9 クロチアニジンのヒトにおける動態研究

研究	被験者	分析試料	報告された有効成分及び代謝物に関するデータ
Harada, et al. (2016) (資料 102)	①成人 9 人 (標識体単回経口投与し、尿中濃度を測定。推移から薬物動態モデルのパラメータを算出。) ②成人 12 人 (マイクロドーズ試験でモデルを検証) ③成人 377 人 (TK モデルを用いた一般日本人集団によるクロチアニジンの食品からの摂取量を評価) (日本)	①尿試料 (標識体単回経口投与(5µg/人)後 24 時間ごとに尿を 4 日間採取) ②尿試料 (①で作成したモデルの検証のため、尿中の代謝物を分析) ③尿試料 (尿中濃度からクロチアニジンの食品からの摂取量を推定)	・投与後 96 時間でイミダクロプリド(未変化体)が 63.7%尿中に排泄。 ・尿中濃度：クロチアニジン ：0.27 µg/日 (中央値) ：1.15 µg/日 (95%ile 値) ・24 時間ごとの尿中濃度の推移から、クロチアニジンについて 1 コンパートメント排泄動態モデルでパラメータを導出 r = 0.596 : r は摂取量のうち尿中に未変化体として排泄され、生物学的モニタリングが可能となる割合を示す。投与されたクロチアニジンの約 40%が未同定の代謝物に変換したことを示唆している。 ・日本人成人 373 人の尿中濃度から、クロチアニジンの 1 日平均摂取量は 0.86 µg/日と推定(ADI の 1%未満) ・EFSA 信頼性基準スコア：2
Ueyama, et al. (2015) (資料 103)	都市在住成人 17～20 人/年、 計 95 人 (45～75 歳；女性) (日本)	・尿試料 (1994、2000、2003、 2009、2011 年に採取)	・クロチアニジンは 2009 年及び 2011 年に検出された。 ・尿中濃度：クロチアニジン (2009 年) ：<LOD(<1.1 µg/L) (中央値) ：2.50 µg/L (90%ile 値) (2011 年) ：<LOD(<1.1 µg/L) (中央値) ：0.55 µg/L (90%ile 値) ・EFSA 信頼性基準スコア：2
Osaka, et al. (2016) (資料 104)	都市郊外在住小児 223 人 (3 歳；男児 108 人、 女児 115 人) (日本)	・尿試料 (夏期(2012)及び冬 期(2013)に尿を採取)	・クロチアニジンの検出率は 8.1% ・尿中濃度：クロチアニジン ：<LOD(<1.07 µg/L) (中央値) ：1.55 µg/g クレアチニン (95%ile 値) ・EFSA 信頼性基準スコア：2
Ueyama, et al. (2014) (資料 105)	都市在住成人 52 人(男性 41 人、女 性 11 人、平均年齢 40.9 歳、非職業暴露) (日本)	・尿試料(早朝尿)	・クロチアニジンの検出率は 96% ・尿中濃度：クロチアニジン ：0.7 µg/L (中央値) ：3.5 µg/L (95%ile 値) ・EFSA 信頼性基準スコア：2
Oya, et al. (2021) (資料 106)	都市郊外在住小児 1036 名(16～23 か 月、男児 530 人、女 児 506 人) (日本)	・尿試料 (紙おむつ中に蓄尿 した尿を採取)	・クロチアニジンの検出率は 32.7% ・尿中濃度：クロチアニジン ：< LOD(<0.13 µg/L) (中央値) ：2.2 µg/L (95%ile 値) ・EFSA 信頼性基準スコア：2

Ⅲ．農薬使用者暴露許容量（AOEL）

急性毒性試験の結果において、経皮又は吸入経路特異的な毒性は見られなかったこと及び農薬としての使用方法から、クロチアニジンの農薬使用者暴露許容量（AOEL）の設定に当たっては、経皮又は吸入経路特異的な毒性を考慮する必要はないと判断した。また、疫学研究については、クロチアニジンの農薬使用を通じた暴露を適切に特定し健康影響との関連を評価できる知見は得られなかった。よって経口投与による短期毒性試験、生殖・発生毒性試験及び神経毒性試験の結果に基づき AOEL を設定する（表 11）。

各試験で得られたクロチアニジンの無毒性量のうち最小値は、ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験の児動物の雄における体重増加抑制等に基づく無毒性量 9.8 mg/kg 体重/日であり、これを AOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

また、最小の無毒性量に近い投与量におけるラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、GLP で実施された尿及び糞中排泄試験の 2.5 mg/kg 体重投与群の 89.2～94.7%であり（表 10）、経口吸収率は 80%以上と推定された。このことは、静脈内投与及び経口投与における血中濃度推移試験の結果から求めた、5 mg/kg 体重投与における AUC 比が雌雄とも 80%以上であったこととも良く整合した。以上のことから、AOEL の設定に当たっては、経口吸収率による補正は必要ないと判断した。なお、非 GLP 試験であるが、マウスを用いた動物代謝試験（単回経口投与、雌雄 5 mg/kg 体重投与群）の経口吸収率についても 92.4～93.7%であり 80%以上であった。

表 10 クロチアニジンを単回経口投与した場合の経口吸収率（％）

試験	尿、糞及び呼吸中排泄（ラット） ^a							
標識体	[nit- ¹⁴ C]クロチアニジン				[thi- ¹⁴ C]クロチアニジン			
投与量	5 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重		5 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌
経口吸収率	92.3	95.0	90.7	92.6	92.0	95.8	93.6	93.0
総回収率	98.0	99.4	97.6	97.2	98.0	101	102	98.7

試験	尿及び糞中排泄（ラット） ^b				尿及び糞中排泄（マウス） ^a	
標識体	[nit- ¹⁴ C]クロチアニジン			[thi- ¹⁴ C]クロチアニジン	[nit- ¹⁴ C]クロチアニジン	
投与量	2.5 mg/kg 体重		250 mg/kg 体重	2.5 mg/kg 体重	5 mg/kg 体重	
性別	雄	雌	雄	雄	雄	雌
経口吸収率	89.2	94.7	90.7	89.6	92.4	93.7
総回収率	95.5	98.0	99.2	97.4	99.2	98.7

^a：表の値は 5 匹の平均値、非 GLP

^b：表の値は 4 匹の平均値、GLP

以上の結果から、ラットを用いた 2 世代繁殖毒性試験の無毒性量 9.8 mg/kg 体重/日を安全係数 100 で除した 0.098 mg/kg 体重/日を農薬使用者暴露許容量 (AOEL) と設定した。

AOEL	0.098 mg/kg 体重/日
(AOEL 設定根拠試験)	2 世代繁殖毒性試験
(動物種)	ラット
(期間)	2 世代
(投与方法)	混餌
(無毒性量)	9.8 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	児動物の雄：体重増加抑制等
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

< 参考 >

< EC (2006 年) >

AOEL	0.1 mg/kg 体重/日
(AOEL 設定根拠試験)	発生毒性試験
(動物種)	ラット及びウサギ
(期間)	—
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	10 mg/kg 体重/日
(毒性所見)	母動物：死亡率、一般症状変化
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

Review report for the active substance clothianidin

(URL : https://ec.europa.eu/food/plant/pesticides/eu-pesticides-database/backend/api/active_substance/download/247)

表 11 AOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重/日)	NOAEL (mg/kg 体重/ 日)	LOAEL (mg/kg 体重/ 日)	AOEL 設定に関連する エンドポイント*
ラット	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 19)	雌雄：0、150、500、3,000 ppm 雄：0、9.0、27.9、202 雌：0、10.9、34.0、254	雄：27.9 雌：34.0	雄：202 雌：254	雄雌：体重増加抑制等
	90 日間 反復経口 投与神経 毒性 GLP (資料 62)	雌雄：0、150、1,000、3,000 ppm 雄：0、9.2、60.0、177 雌：0、10.6、71.0、200	雄：60.0 雌：71.0	雄：177 雌：200	雌雄：体重増加抑制等 反復経口投与神経毒性は認められなかった。
	発達神経 毒性 GLP (資料 63)	0、150、500、1,750 ppm 妊娠期間中：0、12.9、42.9、142 哺育期間中：0、27.3、90.0、299	母動物： 42.9(妊娠中)、 90.0(哺育中) 児動物： 12.9(妊娠中)、 27.3(哺育中)	母動物： 142(妊娠中)、 299(哺育中) 児動物： 42.9(妊娠中)、 90.0(哺育中)	母動物：体重増加抑制等 児動物：体重増加抑制 発達神経毒性は認められなかった。
	2 世代 繁殖毒性 GLP (資料 50)	雌雄：0、150、500、2,500 ppm P 雄：0、9.8、31.2、163 P 雌：0、11.5、36.8、189 F ₁ 雄：0、10.7、34.3、196 F ₁ 雌：0、12.2、39.0、237	親動物： P 雄：31.2 P 雌：11.5 F ₁ 雄：34.3 F ₁ 雌：12.2 児動物： P 雄：9.8 P 雌：11.5 F ₁ 雄：10.7 F ₁ 雌：12.2	親動物： P 雄：163 P 雌：36.8 F ₁ 雄：196 F ₁ 雌：39.0 児動物： P 雄：31.2 P 雌：36.8 F ₁ 雄：34.3 F ₁ 雌：39.0	親動物及び児動物 雌雄：体重増加抑制等 繁殖能に対する影響は認められなかった。
	発生毒性 GLP (資料 54)	0、10、40、125 (妊娠 6～19 日投与)	母動物：10 胎 児：125	母動物：40 胎 児：-	母動物：体重増加抑制 胎児：毒性所見なし 催奇形性は認められなかった。
ウサギ	発生毒性 GLP (資料 56)	0、10、25、75、100 (妊娠 6～28 日投与)	母動物：25 胎 児：25	母動物：75 胎 児：75	母動物：排便減少等 胎児：骨化遅延 催奇形性は認められなかった。
イヌ	4 週間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 22)	雌雄：0、1,250、2,500、5,000 ppm 雄：34.3、36.9、62.4 ^a 雌：35.8、53.5、57.4 ^a	雄：34.3 雌：35.8	雄：36.9 雌：53.5	雌雄：活動性低下等
	90 日間 反復経口 投与毒性 GLP (資料 21)	雌雄：0、325、650、1,500、2,000 ppm 雄：0、9.2、19.3、40.9、58.2 雌：0、9.6、21.2、42.1、61.8	雄：19.3 雌：21.2	雄：40.9 雌：42.1	雌雄：消瘦等
	1 年間 反復経口 投与毒性	雌雄：0、325、650、1,500、2,000 ppm	雄：36.3 雌：15.0	雄：46.4 雌：40.1	雌雄：耳局部紅斑等

	GLP (資料 23)	雄 : 0、7.8、16.6、36.3、46.4 雌 : 0、8.5、15.0、40.1、52.9			
--	----------------	--	--	--	--

* : 最小毒性量で認められた主な毒性所見を示す。

a : 投与 1～15 日の平均値。

IV. 急性農薬使用者暴露許容量 (AAOEL)

クロチアニジンの単回経口投与等により生ずる可能性のある毒性影響(表 12)に対する無毒性量のうち最小値は、マウスを用いた一般薬理試験(一般状態)の無毒性量 25 mg/kg 体重であり、得られた毒性所見を検討した結果、これを AAOEL の設定根拠とすることが妥当と判断した。

ラットを用いた動物代謝試験の経口吸収率は、GLP で実施された尿及び糞中排泄試験の 2.5 mg/kg 体重投与群(雌雄)の 89.2～94.7%及び 250 mg/kg 体重投与群(雄)の 90.7%であり、いずれの投与群においても経口吸収率は 80%以上であった(表 10)。なお、非 GLP 試験であるが、マウスを用いた動物代謝試験の 5 mg/kg 体重投与群(雌雄)の経口吸収率についても 92.4～93.7%であり 80%以上であった。

以上の結果から、マウスを用いた一般薬理試験(一般状態)の無毒性量 25 mg/kg 体重を根拠として、AOEL と同様に経口吸収率による補正は必要ないと判断し、安全係数 100 で除した 0.25 mg/kg 体重を急性農薬使用者暴露許容量(AAOEL)と設定した。

AAOEL	0.25 mg/kg 体重
(AAOEL 設定根拠試験)	一般薬理試験
(動物種)	マウス
(期間)	単回
(投与方法)	強制経口
(無毒性量)	25 mg/kg 体重
(毒性所見)	雄：自発運動低下、振戦、呼吸深大
(安全係数)	100
(経口吸収率)	補正しない

<参考>

<EC (2006 年) >

AAOEL

未評価

Review report for the active substance clothianidin

(URL : https://ec.europa.eu/food/plant/pesticides/eu-pesticides-database/backend/api/active_substance/download/247)

表 12 AAOEL の設定に関連する毒性影響等

動物種	試験	投与量 (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)	無毒性量及び AAOEL に関連する エンドポイント* (mg/kg 体重又は mg/kg 体重/日)
ラット	急性神経毒性① GLP (資料 59)	0、100、200、400	雄：－ 雌：100 雄：自発運動量減少 雌：体温低下、自発運動量減少
	急性神経毒性② GLP (資料 61)	雄：0、20、40、60	雄：60 雄：該当なし
マウス	一般薬理 (一般状態) GLP (資料 64)	雄：0、12.5、25、50、100、200、 400	雄：25 雄：自発運動低下、振戦、呼吸深大

－：無毒性量は設定されなかった。

*：最小毒性量で認められた主な毒性所見を示す。

V. 暴露量の推計

1. 経皮吸収試験

クロチアニジンを含有する農薬製剤で実施した経皮吸収試験結果は提出されていない。

2. 圃場における農薬使用者暴露

クロチアニジンを含有する農薬製剤で実施した圃場における農薬使用者暴露試験結果は提出されていない。

3. 暴露量の推計

申請された製剤について、Ⅰ. の5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添1）に従って使用した場合の暴露量を予測式により推計した。

推計に当たっては、農薬使用者への影響評価ガイダンス及び予測式に分類していない使用方法についての使用者安全確保の考え方（令和4年12月1日農業資材審議会農薬分科会農薬使用者安全評価部会決定、令和6年10月24日最終改訂）（以下「部会決定」という。）に準拠した。

推計に用いたパラメータ等及び暴露量の推計結果を別添2に示す。

Ⅵ. リスク評価結果

Ⅰ. の5. 適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（別添1）に従って使用した場合の暴露量は、AOEL 及び AAOEL を下回っていた（別添2）。

評価資料

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
1	2026	農薬・動物用医薬品評価書 クロチアニジン（第7版） 食品安全委員会、公表 URL https://www.fsc.go.jp/fsciis/attachedFile/download?retrievalId=kya20221214230&fileId=210
2	2000	TI-435 のラットにおける吸収、分布および排泄 非 GLP、未公表
3	2000	[Nitroimino- ¹⁴ C]-and [Thiazolyl-2- ¹⁴ C] TI-435 Toxicokinetic Behaviour and Metabolism in the Rat including Whole Body Autoradiography GLP、未公表
4	2000	Absorption, Distribution, Metabolism and Excretion of TI-435 in Mice 非 GLP、未公表
5	1997	TI-435: Acute Oral Toxicity Study in the Rat GLP、未公表
6	1997	TI-435: Acute Oral Toxicity Study in the Mouse GLP、未公表
7	2019	Clothianidin TG: Acute Oral Toxicity Study in Rats GLP、未公表
8	1997	TI-435: Acute Dermal Toxicity Study in the Rat GLP、未公表
9	2019	Clothianidin TG: Acute Dermal Toxicity Study in Rats GLP、未公表
10	1998	TI-435: Single Dose Inhalation (Head-only) Toxicity Study in the Rat GLP、未公表
11	2019	Acute Inhalation Toxicity Study of Clothianidin TG in Rats GLP、未公表
12	1997	TI-435: Skin Irritation Study in the Rabbit GLP、未公表
13	2019	Clothianidin TG: Skin Irritation Study in Rabbits GLP、未公表
14	1997	TI-435: Eye Irritation Study in the Rabbit GLP、未公表
15	2019	Clothianidin TG: Eye Irritation Study in Rabbits GLP、未公表
16	1997	TI-435: Skin Sensitisation Study in the Guinea Pig GLP、未公表
17	2019	Skin sensitization test of Clothianidin TG in guinea pigs (Maximization Test) GLP、未公表
18	2018	Clothianidin technical material: Skin Sensitization Study in Mice -Local Lymph Node Assay- GLP、未公表
19	2000	Technical Grade TI 435: A Subchronic Toxicity Testing Study in the Rat GLP、未公表
20	2000	Position Paper on the Studies Conducted at Huntingdon Life Sciences, U.K. 非 GLP、未公表
21	2000	13-Week Dietary Toxicity Study with TI-435 in Dogs GLP、未公表
22	2000	4-Week Dietary Toxicity Study with TI-435 in Dogs GLP、未公表
23	2000	52-Week Dietary Chronic Toxicity Study with TI-435 in Dogs GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
24	2001	52-Week Dietary Chronic Toxicity Study with TI-435 in Dogs (SUPPLEMENTAL SUBMISSION TO AC No. 109831) GLP、未公表
25	2004	Oral (Diet) Repeated Dose 28-Day Toxicity/Immunotoxicity Study of TI-435 in Rats GLP、未公表
26	1999	TI-435: SALMONELLA/MICROSOME TEST PLATE INCORPORATION AND PREINCUBATION METHOD GLP、未公表
27	2000	TI-435: REVERSE MUTATION ASSAY “AMES TEST” USING <i>SALMONELLA TYPHIMURIUM</i> AND <i>ESCHERICHIA COLI</i> GLP、未公表
28	1999	TI 435: SALMONELLA/MICROSOME TEST USING SALMONELLA TYPHIMURIUM TA 1535 PLATE INCORPORATION AND PREINCUBATION METHOD 非 GLP、未公表
29	2019	Clothianidin Técnico - Bacterial Reverse Mutation Test (Ames Test) GLP、未公表
30	2000	CHROMOSOME ABERRATION TEST IN CHL CELLS <i>IN VITRO</i> GLP、未公表
31	2003	<i>IN VITRO</i> CHROMOSOME ABERRATION TEST IN CHINESE HAMSTER V79 CELLS WITH TI-435 GLP、未公表
32	2000	TI-435: MICRONUCLEUS TEST IN THE MOUSE GLP、未公表
33	2003	<i>MICRONUCLEUS ASSAY IN BONE MARROW</i> CELLS OF THE MOUSE GLP、未公表
34	1999	TI 435: TEST ON UNSCHEDULED DNA SYNTHESIS WITH RAT LIVER CELLS <i>IN VIVO</i> GLP、未公表
35	2003	<i>IN VIVO / IN VITRO</i> UNSCHEDULED DNA SYNTHESIS IN RAT HEPATOCYTES WITH TI-435 GLP、未公表
36	1999	TI 435: MUTAGENICITY STUDY FOR THE DETECTION OF INDUCED FORWARD MUTATIONS IN THE V79-HPRT ASSAY <i>IN VITRO</i> GLP、未公表
37	2003	GENE MUTATION ASSAY IN CHINESE HAMSTER V79 CELLS <i>IN VITRO</i> (V79/HPRT) WITH TI-435 GLP、未公表
38	2003	Gene Mutation Assay in Chinese Hamster V79 Cells <i>in vitro</i> (V79/HPRT) with TI-435 (HISTORICAL DATA) GLP、未公表
39	2000	TI-435: L5178Y TK +/- MOUSE LYMPHOMA ASSAY GLP、未公表
40	2000	104-Week Dietary Combined Chronic Toxicity and Carcinogenicity Study with TI-435 in Rats GLP、未公表
41	2001	104-Week Dietary Combined Chronic Toxicity and Carcinogenicity Study with TI 435 in Rats (SUPPLEMENTAL SUBMISSION TO AC REPORT NO. 109841) GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
42	2004	104-Week Dietary Combined Chronic Toxicity and Carcinogenicity Study with TI-435 in Rats (Supplement No.2) GLP、未公表
43	2014	104-Week Dietary Combined Chronic Toxicity and Carcinogenicity Study with TI-435 in Rats (Supplement No.3) GLP、未公表
44	2000	TI-435 TOXICITY TO RATS BY DIETARY ADMINISTRATION FOR 13 WEEKS 非 GLP、未公表
45	2000	Position Paper on the Studies Conducted at Huntingdon Life Sciences, U.K. 非 GLP、未公表
46	2000	78-Week Dietary Carcinogenicity Study with TI-435 in Mice GLP、未公表
47	2001	78-Week Dietary Carcinogenicity Study with TI 435 in Mice (SUPPLEMENTAL SUBMISSION TO AC REPORT NO. 109833) GLP、未公表
48	2000	TI-435 TOXICITY TO MICE BY DIETARY ADMINISTRATION FOR 13 WEEKS 非 GLP、未公表
49	2000	Position Paper on the Studies Conducted at Huntingdon Life Sciences, U.K. 非 GLP、未公表
50	2000	A TWO GENERATION REPRODUCTIVE TOXICITY STUDY WITH TI-435 IN THE SPRAGUE-DAWLEY RAT GLP、未公表
51	2001	A Two Generation Reproductive Toxicity Study With TI-435 in the Sprague-Dawley Rat (Supplemental Submission to Bayer Report No. 109282) GLP、未公表
52	2003	A Two Generation Reproductive Toxicity Study With TI-435 in the Sprague-Dawley Rat (Supplemental Submission to BayerCropscience LP Report No. 109282 (Formerly Bayer Corporation, Agriculture Division, MRID No. 45422715)) GLP、未公表
53	2000	A PILOT REPRODUCTIVE TOXICITY STUDY WITH TI-435 IN THE SPRAGUE-DAWLEY RAT GLP、未公表
54	1998	ORAL (GAVAGE) DEVELOPMENTAL TOXICITY STUDY OF TI-435 IN RATS GLP、未公表
55	1998	ORAL (GAVAGE) DOSAGE-RANGE DEVELOPMENTAL TOXICITY STUDY OF TI-435 IN RATS GLP、未公表
56	1998	ORAL (STOMACH TUBE) DEVELOPMENTAL TOXICITY STUDY OF TI-435 IN RABBITS GLP、未公表
57	1998	ORAL (STOMACH TUBE) DOSAGE-RANGE DEVELOPMENTAL TOXICITY STUDY OF TI-435 IN RABBITS GLP、未公表
58	2008	Oral (Diet) Developmental Immunotoxicity Study of TI 435 (Clothianidin) in CrI:CD(SD) Rats GLP、未公表
59	2000	An Acute Oral Neurotoxicity Screening Study with Technical Grade TI-435 in Fischer 344 Rats GLP、未公表

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
60	2002	An Acute Oral Dose Range –Finding Study with Technical Grade TI-435 in Fischer 344 Rats GLP、未公表
61	2000	A Special Acute Oral Neurotoxicity Study to Establish a No-Observed-Effect-Level with Technical Grade TI-435 in Fischer 344 Rats GLP、未公表
62	2000	A Subchronic Neurotoxicity Screening Study with Technical Grade TI-435 in Fischer 344 Rats GLP、未公表
63	2000	DEVELOPMENTAL NEUROTOXICITY STUDY OF TI-435 ADMINISTERED ORALLY VIA DIET TO CRL:CD®BR VAF/PLUS® PRESUMED PREGNANT RATS GLP、未公表
64	2000	Pharmacological Studies on TI-435 GLP、未公表
65	2022	クロチアニジン公表文献報告書 URL : https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ka-78.pdf https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ka-79.pdf
66	2024	クロチアニジン公表文献報告書（追補） URL : https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ka-82.pdf
67	2024	公表文献に関する情報募集（令和 6 年 5 月 9 日～令和 6 年 6 月 7 日）で寄せられた情報 URL : https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/saihyoka/attach/pdf/saihyouka_ka-81.pdf
68	2020	Alarcan J, Waizenegger J, Solano MLM, Lichtenstein D, Luckert C, Peijnenburg A et al. Hepatotoxicity of the pesticides imazalil, thiacloprid and clothianidin - Individual and mixture effects in a 28-day study in female Wistar rats. Food Chem Toxicol. 2020; 140: 111306.
69	2020	Ohno S, Ikenaka Y, Onaru K, Kubo S, Sakata N, Hirano T et al. Quantitative elucidation of maternal-to-fetal transfer of neonicotinoid pesticide clothianidin and its metabolites in mice. Toxicol Lett. 2020; 322: 32-38.
70	2024	Hirano T, Ohno S, Ikenaka Y, Onaru K, Kubo S, Miyata Y et al. Quantification of the tissue distribution and accumulation of the neonicotinoid pesticide clothianidin and its metabolites in maternal and fetal mice. Toxicol Appl Pharmacol. 2024; 484: 116847.
71	2023	Shoda A, Nishi M, Murata M, Mantani Y, Yokoyama T, Hirano T et al. Quantitative elucidation of the transfer of the neonicotinoid pesticide clothianidin to the breast milk in mice. Toxicol Lett. 2023; 373: 33-40.
72	2006	Ford KA, Casida JE. Unique and common metabolites of thiamethoxam, clothianidin, and dinotefuran in mice. Chem Res Toxicol. 2006; 11: 1549-1556.
73	2018	Hirano T, Yanai S, Takada T, Yoneda N, Omotehara T, Kubota N et al. NOAEL-dose of a neonicotinoid pesticide, clothianidin, acutely induce anxiety-related behavior with human-audible vocalizations in male mice in a novel environment. Toxicol Lett. 2018; 282: 57-63.
74	2022	Kubo S, Hirano T, Miyata Y, Ohno S, Onaru K, Ikenaka Y et al. Sex-specific behavioral effects of acute exposure to the neonicotinoid clothianidin in mice. Toxicol Appl Pharmacol. 2022; 456: 116283.
75	2022	Nishi M, Sugio S, Hirano T, Kato D, Wake H, Shoda A et al. Elucidation of the neurological effects of clothianidin exposure at the no-observed-adverse-effect level (NOAEL) using two-photon microscopy <i>in vivo</i> imaging. J Vet Med Sci. 2022; 84(4): 585-592.

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
76	2021	Hirano T, Miyata Y, Kubo S, Ohno S, Onaru K, Maeda M et al. Aging-related changes in the sensitivity of behavioral effects of the neonicotinoid pesticide clothianidin in male mice. Toxicol Lett. 2021; 342: 95-103.
77	2015	Hirano T, Yanai S, Omotehara T, Hashimoto R, Umemura Y, Kubota N et al. The combined effect of clothianidin and environmental stress on the behavioral and reproductive function in male mice. J Vet Med Sci. 2015; 77(10): 1207-1215.
78	2023	Kimura M, Shoda A, Murata M, Hara Y, Yonoichi S, Ishida Y, et al. Neurotoxicity and behavioral disorders induced in mice by acute exposure to the diamide insecticide chlorantraniliprole. J Vet Med Sci. 2023; 85(4): 497-506.
79	2024	Hara Y, Shoda A, Yonoichi S, Ishida Y, Murata M, Kimura M et al. No-observed-adverse-effect-level (NOAEL) clothianidin, a neonicotinoid pesticide, impairs hippocampal memory and motor learning associated with alteration of gene expression in cerebellum. J Vet Med Sci. 2024; 86(3): 340-348.
80	2014	Özdemir HH, Kara M, Yumrutas O, Uckardes F, Eraslan E, Demir CF et al. Determination of the effects on learning and memory performance and related gene expressions of clothianidin in rat models. Cogn Neurodyn. 2014; 5: 411-416.
81	2012	Tanaka T: Effects of maternal clothianidin exposure on behavioral development in F ₁ generation mice. Toxicol Ind Health. 2012a; 28(8): 697-707.
82	2012	Tanaka T: Reproductive and Neurobehavioral Effects of Clothianidin Administered to Mice in the Diet. Birth Defects Res B Dev Repord Toxicol. 2012b; 95(2): 151-159.
83	2021	Maeda M, Kitauchi S, Hirano T, Ikenaka Y, Nishi M, Shoda A et al. Fetal and lactational exposure to the no-observed-adverse-effect level (NOAEL) dose of the neonicotinoid pesticide clothianidin inhibits neurogenesis and induces different behavioral abnormalities at the developmental stages in male mice. J Vet Med Sci. 2021; 83(3): 542-548.
84	2023	Shoda A, Murata M, Kimura M, Hara Y, Yonoichi S, Ishida Y et al. Transgenerational effects of developmental neurotoxicity induced by exposure to a no-observed-adverse-effect level (NOAEL) of neonicotinoid pesticide clothianidin. J Vet Med Sci. 2023a; 85(9): 1023-1029.
85	2023	Shoda A, Murata M, Kimura M, Hara Y, Yonoichi S, Ishida Y et al. Developmental stage-specific exposure and neurotoxicity evaluation of low-dose clothianidin during neuronal circuit formation. J Vet Med Sci. 2023b; 85(4): 486-496.
86	2021	Loser D, Hinojosa MG, Blum J, Schaefer J, Brüll M, Johansson Y et al. Functional alterations by a subgroup of neonicotinoid pesticides in human dopaminergic neurons. Arch Toxicol. 2021; 95(6): 2081-2107.
87	2019	Hirano T, Minagawa S, Furusawa Y, Yunoki T, Ikenaka Y, Yokoyama T et al. Growth and neurite stimulating effects of the neonicotinoid pesticide clothianidin on human neuroblastoma SH-SY5Y cells. Toxicol Appl Pharmacol. 2019; 383: 114777.
88	2021	Khidkhan K, Ikenaka Y, Ichise T, Nakayama SMM, Mizukawa H, Nomiya K et al. Interspecies differences in cytochrome P450-mediated metabolism of neonicotinoids among cats, dogs, rats, and humans. Comp Biochem Physiol C Toxicol Pharmacol. 2021; 239: 108898.
89	2009	Shi X, Dick RA, Ford KA, Casida JE. Enzymes and inhibitors in neonicotinoid insecticide metabolism. J Agric Food Chem. 2009; 57(11): 4861-4866.

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
90	2005	Green T, Toghiani A, Lee R, Waechter F, Weber E, Pepper R et al. Thiamethoxam induced mouse liver tumors and their relevance to humans. Part 2: species differences in response. <i>Toxicol Sci.</i> 2005; 86(1): 48-55.
91	2020	Onaru K, Ohno S, Kubo S, Nakanishi S, Hirano T, Mantani Y et al. Immunotoxicity evaluation by subchronic oral administration of clothianidin in Sprague-Dawley rats. <i>J Vet Med Sci.</i> 2020; 82(3): 360-372.
92	2021	Murata M, Shoda A, Kimura M, Hara Y, Yonoichi S, Ishida Y et al. Next-generation effects of fetal and lactational exposure to the neonicotinoid pesticide clothianidin on the immune system and gut microbiota. <i>J Vet Med Sci.</i> 2023; 85(4): 434-442.
93	2023	Wang A, Wan Y, Mahai G, Qian X, Li Y, Xu S et al. Association of Prenatal Exposure to Organophosphate, Pyrethroid, and Neonicotinoid Insecticides with Child Neurodevelopment at 2 Years of Age: A Prospective Cohort Study. <i>Environ Health Perspect.</i> 2023; 131(10): 107011.
94	2023	Nishihama Y, Nakayama SF, Isobe T, Kamijima M, Japan Environment Children's Study Group. Association between maternal urinary neonicotinoid concentrations and child development in the Japan Environment and Children's Study. <i>Environ Int.</i> 2023; 181: 108267.
95	2023	Lu Z, Hu Y, Tse LA, Yu J, Xia Z, Lei X et al. Urinary neonicotinoid insecticides and adiposity measures among 7-year-old children in northern China: A cross-sectional study. <i>Int J Hyg Environ Health.</i> 2023; 251: 114188.
96	2024	Wu X, Liu Q, Li Y, Yue M, Su Q, Luo J et al. Urinary neonicotinoid concentrations and obesity: A cross-sectional study among Chinese adolescents. <i>Environ Pollut.</i> 2024; 345: 123516.
97	2023	Mahai G, Wan Y, Wang A, Qian X, Li J, Li Y et al. Exposure to multiple neonicotinoid insecticides, oxidative stress, and gestational diabetes mellitus: Association and potential mediation analyses. <i>Environ Int.</i> 2023; 179: 108173.
98	2022	Zhang H, Bai X, Zhang T, Song S, Zhu H, Lu S et al. Neonicotinoid Insecticides and Their Metabolites Can Pass through the Human Placenta Unimpeded. <i>Environ Sci Technol.</i> 2022; 56: 17143-17152.
99	2021	Suwannarin N, Prapamontol T, Isobe T, Nishihama Y, Hashimoto Y, Mangklabruks A et al. Exposure to Organophosphate and Neonicotinoid Insecticides and Its Association with Steroid Hormones among Male Reproductive-Age Farmworkers in Northern Thailand. <i>Int J Environ Res Public Health.</i> 2021; 18: 5599.
100	2021	Zhang N, Wang B, Zhang Z, Chen X, Huang Y, Liu Q et al. Occurrence of neonicotinoid insecticides and their metabolites in tooth samples collected from south China: Associations with periodontitis. <i>Chemosphere.</i> 2021; 264: 128498.
101	2015	Marfo JT, Fujioka K, Ikenaka Y, Nakayama SM, Mizukawa H, Aoyama Y et al. Relationship between Urinary N-Desmethyl-Acetamiprid and Typical Symptoms including Neurological Findings: A Prevalence Case-Control Study. <i>PLoS One.</i> 2015; 10 (11): e0142172.
102	2016	Harada KH, Tanaka K, Sakamoto H, Imanaka M, Niisoe T, Hitomi T et al. Biological Monitoring of Human Exposure to Neonicotinoids Using Urine Samples, and Neonicotinoid Excretion Kinetics. <i>PLoS One.</i> 2016; 11(1): e0146335.
103	2015	Ueyama J, Harada KH, Koizumi A, Sugiura Y, Kondo T, Saito I et al. Temporal levels of urinary neonicotinoid and dialkylphosphate concentrations in Japanese women between 1994 and 2011. <i>Environmental Science & Technology.</i> 2015; 49 (24), 14522-14528

資料 番号	報告年	表題、出典（試験施設以外の場合） GLP 適合状況（必要な場合）、公表の有無
104	2016	Osaka A, Ueyama J, Kondo T, Nomura H, Sugiura Y, Saito I et al. Exposure characterization of three major insecticide lines in urine of young children in Japan- neonicotinoids, organophosphates, and pyrethroids. Environmental Research. 2016; 147, 89-96
105	2014	Ueyama J, Nomura H, Kondo T, Saito I, Ito Y, Osaka A et al. Biological monitoring method for urinary neonicotinoid insecticides using LC-MS/MS and its application to Japanese adults. Journal of Occupational Health. 2014; 56 (6), 461-468
106	2021	Oya N, Ito Y, Ebara T, Kato S, Ueyama J, Aoi A et al. Cumulative exposure assessment of neonicotinoids and an investigation into their intake-related factors in young children in Japan. Science of The Total Environment. 2021; 750
107	2022	クロチアニジンの試験成績の概要及び考察 未公表

別紙 1 代謝物略称

略称	化学名
MNG	<i>N</i> -methyl- <i>N</i> ² -nitroguanidine
TMG	<i>N</i> -(2-chlorothiazol-5-ylmethyl)- <i>N</i> ² -methylguanidine
TMT	3-(2-chlorothiazol-5-yl)methylamino-5-methyl-1 <i>H</i> -1,2,4-triazole
TZG	[(2-chloro-5-thiazolyl)methyl]guanidine
TZMU	<i>N</i> -(2-chlorothiazol-5-ylmethyl)- <i>N</i> ² -methylurea
TZNG	<i>N</i> -(2-chlorothiazol-5-ylmethyl)- <i>N</i> ² -nitroguanidine
TZU	2-chlorothiazol-5-ylmethylurea

別添 1：適用病虫害雑草等の範囲及び使用方法（クロチアニジン）

目 次

1. 登録番号 20733：フルスウィング、 登録番号 24428：住化フルスウィング （クロチアニジン 50.0%水和剤）	5
2. 登録番号 20798：ダントツ水溶剤 登録番号 21501：ベニカ水溶剤 登録番号 21646：協友ダントツ水溶剤 （クロチアニジン 16.0%水溶剤）	6
3. 登録番号 20800：ダントツ粒剤、 登録番号 21502：ベニカ粒剤、 登録番号 21645：協友ダントツ粒剤 （クロチアニジン 0.50%粒剤）	37
4. 登録番号 20801：ダントツ粉剤D L、 登録番号 21595：協友ダントツ粉剤D L （クロチアニジン 0.15%粉剤）	58
5. 登録番号 20804：ハスラー粉剤D L （カルタップ 2.0%・クロチアニジン 0.15%・バリダマイシン 0.30%・フェリムゾン 2.0%・フサ ライド 1.5%粉剤）	59
6. 登録番号 20827：ダントツ箱粒剤、 登録番号 21594：協友ダントツ箱粒剤 （クロチアニジン 1.5%粒剤）	60
7. 登録番号 21186：ブラシndanントツ粉剤D L （クロチアニジン 0.15%・フェリムゾン 2.0%・フサライド 1.5%粉剤）	61
8. 登録番号 21218：ブラシndanントツH粉剤D L （クロチアニジン 0.50%・フェリムゾン 2.0%・フサライド 1.5%粉剤）	62
9. 登録番号 21226：ダントツオリゼメート 10箱粒剤 （クロチアニジン 1.5%・プロベナゾール 10.0%粒剤）	63
10. 登録番号 21242：ダントツH粉剤D L、 登録番号 21627：協友ダントツH粉剤D L （クロチアニジン 0.5%粉剤）	64
11. 登録番号 21258：ダントツフロアブル、 登録番号 21547：協友ダントツフロアブル、 登録番号 22101：ダントツ EX フロアブル （クロチアニジン 20.0%水和剤）	65
12. 登録番号 21267：モリエートS C （クロチアニジン 30.0%水和剤）	68

1 3. 登録番号 21624 : ビームダントツH粉剤DL (クロチアニジン 0.50%・トリシクラゾール 1.0%水和剤)	69
1 4. 登録番号 21702 : ブラシダントツフロアブル (クロチアニジン 6.6%・フェリムゾン 15.0%・フサライド 15.0%水和剤)	70
1 5. 登録番号 21733 : オルトランDX粒剤 (アセフェート 2.5%・クロチアニジン 0.25%粒剤)	71
1 6. 登録番号 21974 : ラブサイドダントツフロアブル (クロチアニジン 6.6%・フサライド 20.0%水和剤)	72
1 7. 登録番号 22122 : ワンリード箱粒剤08、 登録番号 22174 : クミアイワンリード箱粒剤08 (クロチアニジン 0.80%粒剤)	73
1 8. 登録番号 22257 : ノンブラスダントツフロアブル (クロチアニジン 6.6%・トリシクラゾール 8.0%・フェリムゾン 15.0%水和剤)	74
1 9. 登録番号 22391 : モリエートマイクロカプセル、 登録番号 22392 : ヤシマモリエートマイクロカプセル (クロチアニジン 7.5%マイクロカプセル剤)	75
2 0. 登録番号 22506 : ベニカXファインスプレー (クロチアニジン 0.0080%・フェンプロパトリン 0.010%・メパニピリム 0.020%水和剤)	76
2 1. 登録番号 22576 : ベニカXファインエアゾール (クロチアニジン 0.032%・フェンプロパトリン 0.020%・メパニピリム 0.040%エアゾル)	78
2 2. 登録番号 22593 : ベニカ液剤、 登録番号 22876 : ベニカマツケア (クロチアニジン 2.0%液剤)	79
2 3. 登録番号 22672 : ベニカケムシエアゾール (クロチアニジン 0.032%・フェンプロパトリン 0.020%エアゾル)	81
2 4. 登録番号 22698 : スタウトダントツ箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)	82
2 5. 登録番号 22699 : スタウトダントツ箱粒剤08、 登録番号 22700 : ツインターボ箱粒剤08 (クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)	84
2 6. 登録番号 22708 : ツインターボフェルテラ箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)	86
2 7. 登録番号 22891 : ノンブラスバリダダントツフロアブル (クロチアニジン 6.6%・トリシクラゾール 8.0%・バリダマイシン 5.0%・フェリムゾン 15.0%水和剤)	87
2 8. 登録番号 23033 : 箱いり娘粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)	88

29. 登録番号 23121 : ベニカベジフルスプレー、 登録番号 23197 : ガーデンアシスト V スプレー (クロチアニジン 0.0080%液剤)	90
30. 登録番号 23130 : ベニカ J スプレー (クロチアニジン 0.0080%・フェンプロパトリン 0.010%液剤)	97
31. 登録番号 23196 : ワンリード S P 箱粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%粒剤)	98
32. 登録番号 23206 : スタウトダントツ顆粒水和剤、 登録番号 23207 : ツインターボ顆粒水和剤 (クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)	99
33. 登録番号 23491 : ベニカベジフル V スプレー、 登録番号 24518 : ガーデンアシスト W スプレー (クロチアニジン 0.0080%・ミクロブタニル 0.0025%液剤)	100
34. 登録番号 23511 : 箱王子粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)	102
35. 登録番号 23518 : カイガラムシエアゾール (クロチアニジン 0.030%・フェンプロパトリン 0.020%エアゾル)	104
36. 登録番号 23602 : ハスラー R X 粉剤 D L (クロチアニジン 0.50%・メトキシフェノジド 0.50%・バリダマイシン 0.30%・フェリムゾン 2.0%・フサライド 1.5%粉剤)	105
37. 登録番号 23603 : チームワーク粉剤 D L (クロチアニジン 0.50%・バリダマイシン 0.30%・フサライド 2.5%粉剤)	106
38. 登録番号 23636 : マッキーノ (クロチアニジン 0.066%複合肥料)	107
39. 登録番号 23732 : フジワンドアントツ粒剤 (クロチアニジン 1.5%・イソプロチオラン 12.0%粒剤)	108
40. 登録番号 23813 : ナイスパートナー (クロチアニジン 20.0%水和剤)	109
41. 登録番号 23890 : 箱大臣粒剤 (クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)	110
42. 登録番号 23945 : ベジリード粒剤 (クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%粒剤)	111
43. 登録番号 24015 : ダントツリンバー顆粒水和剤 (クロチアニジン 16.0%・フラメトピル 12.5%水和剤)	112
44. 登録番号 24027 : ハコナイト粒剤 (クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)	113
45. 登録番号 24117 : ベニカ X ネクストスプレー (還元澱粉糖化物 0.60%・クロチアニジン 0.0080%・ピリダリル 0.010%・ペルメトリン	

0.010%・マンデストロビン 0.020%水和剤)	114
4 6. 登録番号 24118 : ベニカVフレッシュスプレー (還元澱粉糖化物 0.60%・クロチアニジン 0.0080%・マンデストロビン 0.020%水和剤)	118
4 7. 登録番号 24274 : ベニカXガード粒剤 (クロチアニジン 0.10%・B T 10.0%粒剤)	121
4 8. 登録番号 24452 : ネキリスター (クロチアニジン 0.25%粒剤)	123
4 9. 登録番号 24555 : ネマトリンパワーD粒剤、 登録番号 24556 : ダブルバスター粒剤 (クロチアニジン 0.15%・ホスチアゼート 1.5%粒剤)	124
5 0. 登録番号 24557 : 住化フルスウィングW、 登録番号 24558 : バウンスバックWDG (カルタップ 2.0%・クロチアニジン 45.0%水和剤)	125

1. 登録番号 20733 : フルスウィング、
登録番号 24428 : 住化フルスウィング
(クロチアニジン 50.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の総使 用回数
芝	コガネムシ類幼虫	5000倍	0.5~1 L/m ²	発生初期	4回以内	散布	4回以内
		1000~2000倍	0.2 L/m ²				
		1500~3000倍	0.3 L/m ²				
	コガネムシ類幼虫 シハツカ スジキリヨトウ	1000倍	0.1 L/m ²				
	シハツカ スジキリヨトウ シハオサゾウムシ タマヤカ幼虫 チカヤシロカイガラムシ ケラ	5000倍	0.5 L/m ²				

2. 登録番号 20798 : ダントツ水溶剤

登録番号 21501 : ベニカ水溶剤

登録番号 21646 : 協友ダントツ水溶剤

(クロチアニジン 16.0%水溶剤)

(1) ダントツ水溶剤、協友ダントツ水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類 イネトヨイムシ イネサシムシ	4000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(直播では種時又は移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
	ウンカ類 カメシ類 イネトヨイムシ	1000 倍	25 L/10 a				
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ フタホヒコヤカ	200 倍	育苗箱 (30×60× 3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍数 100~200 倍))	移植 3 日 前~移植当 日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内(移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
		高密度には種する場合は 50 g/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 2.5~5 g(希釈倍数 100~200 倍))					
	イネトヨイムシ イネミスゾウムシ	200~400 倍					
		高密度には種する場合は 50g/10a(育苗箱 (30×60×3cm、使用土壌約 5L) 1 箱当り 1.25~5g(希釈倍数 100~400 倍))					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを 含む 農薬の総使用回数
りんご	カメシ類 キンモンホリガ ギンモンハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 コナカイガラムシ類 リンゴワタムシ ケムシ類 コガネムシ類成虫	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
なし	シンクイムシ類 アブラムシ類 コナカイガラムシ類 カメシ類 ケムシ類 チュウゴクナシギシラミ	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コガネムシ類 クビアカツヤカミキリ	2000 倍					
ネクタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コガネムシ類	2000 倍					
おうとう	オウトウショウジヨウバエ カメシ類	2000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
うめ	ゲキスイ類 クビアカツヤカミキリ	2000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類 ケムシ類 カメシ類	2000~4000 倍					
すもも	クビアカツヤカミキリ	2000 倍	200~700 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	カメシ類 アブラムシ類	2000~4000 倍					
あんず	アブラムシ類	4000 倍	200~700 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを 含む 農薬の総使用回数
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ ブトウトラカミキリ カメムシ類 コガネムシ類	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモクグリガ アザミウマ類 ケンキスイ類 コアオハナムグリ ツノロウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ ナシマルカイガラムシ ミカンバエ ミカンキジラミ コナジラミ類 アオバハコロモ	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	9 回以内(樹 幹散布は 3 回以内、主 幹から株元 に散布は 3 回以内、散 布及び無人 航空機散布 は 3 回以 内)
	アブラムシ類 ミカンハモクグリガ アザミウマ類 ケンキスイ類 コアオハナムグリ ツノロウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ ナシマルカイガラムシ ミカンバエ ミカンキジラミ コナジラミ類 アオバハコロモ カネタギ	24 倍	4~8 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	無人航空 機による 散布	9 回以内(樹 幹散布は 3 回以内、主 幹から株元 に散布は 3 回以内、散 布及び無人 航空機散布 は 3 回以 内)

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 ゲンキスイ類 コアオハナムグリ ツノロウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ ナシマルカイガラムシ ミカンバエ ミカンキシラミ コナシラミ類 アオバハコロモ	48 倍	4~16 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	無人航空機による散布	9 回以内(樹幹散布は 3 回以内、主幹から株元に散布は 3 回以内、散布及び無人航空機散布は 3 回以内)
	カネタギ	2000 倍	200~700 L/10 a			散布	
		48 倍	8~16 L/10 a			無人航空機による散布	
	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ	20 倍	100 mL/ 樹	収穫 150 日前まで	3 回以内	樹幹散布	9 回以内(樹幹散布は 3 回以内、主幹から株元に散布は 3 回以内、散布及び無人航空機散布は 3 回以内)
	ミカンキシラミ	40 倍	200 mL/ 樹				
	ゴマダラカミキリ	200~400 倍	30~75 L /10 a	収穫前日まで		主幹から株元に散布	
	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ アゲハ類 アブラムシ類	20 倍	10~100 mL/樹	春芽・夏芽 又は秋芽の発生前	3 回以内	樹幹散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
かき	カキヒメコバエ アザミウマ類 コナカイガラムシ類 カキノハタムシガ カメムシ類	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
いちじく	アザミウマ類	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	カミキリムシ類	2000 倍					
びわ	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	カミキリムシ類	2000 倍					
なつめ	ゴマダラカミリ	4000 倍	200~700 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さんしょう (果実)	アザミウマ類	4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ マエカスカシノメイガ	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	カメムシ類	2000 倍					
オリーブ(葉)	オリーブアナアキゾウムシ マエカスカシノメイガ	4000 倍	200~700 L/10 a	収穫 120 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
マンゴー	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
パパイヤ	ナガカチカガラムシ ヒラタカチカガラムシ	2000 倍	200~700 L/10 a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ブルーベリー	アブラムシ類 ケムシ類 オウトウショウジョウバエ	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
キウイフルーツ	キウイヒメコバエ カメムシ類 アオハハゴロモ	2000~4000 倍	200~700 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
パイナップル (苗木)	パイナップルコナカイガラムシ	2000 倍	-	植付前	1 回	10 秒間 苗浸漬	1 回

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
未成熟 とうもろこし	アブラムシ類 アサジガ カミキリ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ ウリハムシ ハモグリバエ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
すいか	アブラムシ類 ウリハムシ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍					
にがうり	アブラムシ類 ウリハムシ ミナミキイロアザミウマ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
かぼちゃ	アブラムシ類 ウリハムシ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	カボチャミバエ	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クアアジンを 含む 農薬の総使用回数
とうがん	ミナキイロアザミウマ	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定 植時までの 処理は 1 回 以内、定植 後の散布は 3 回以内)
食用へちま	アブラムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内(定 植時までの 処理は 1 回 以内、定植 後の散布は 3 回以内)
なす	ミナキイロアザミウマ ハモグリバエ類 アブラムシ類 コナジラミ類 テントウムシダマシ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内(育 苗期の株元 処理及び定 植時の土壤 混和は合計 1 回以内、散 布及び定植 後の株元散 布は合計 3 回以内)
トマト	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内(育 苗期の株元 処理及び定 植時の土壤 混和は合計 1 回以内、散 布及び定植 後の株元散 布は合計 3 回以内)
	ハモグリバエ類	2000 倍					
ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	4 回以内(育 苗期の株元 処理及び定 植時の土壤 混和は合計 1 回以内、散 布及び定植 後の株元散 布は合計 3 回以内)
	ハモグリバエ類	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍					
とうがらし類	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍					
キャベツ	アブラムシ類 アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	アオムシ ヨナガ	2000 倍					
はくさい	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	アオムシ ヨナガ	2000 倍					
ブロッコリー	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	7 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内、定植後の株元散布は 3 回以内)
	アオムシ ヨナガ	2000 倍					

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
はなっこりー	アブラムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	3 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
だいこん	アブラムシ類 ダイコンハムシ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
かぶ	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
こまつな	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
非結球あぶらな科葉菜類(こまつな、チンゲンサイ、なばな類、みずなを除く)	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアニジンを 含む 農薬の総使用回数
豆類(種実、 ただし、だい ず、あず き、いんげ んまめを除 く)	アブラムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
チンゲンサイ	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は 種時及び定 植時の土壌 混和は合計 1 回以内、散 布は 3 回以 内)
	ハモグリバエ類	2000 倍					
みずな	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は 種時の土壌 混和は 1 回 以内、散布 は 3 回以 内)
しゅんぎく	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は 種時の土壌 混和は 1 回 以内、散布 は 3 回以 内)
レタス	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	5 回以内(定 植時までの 処理は 1 回 以内、定植 後の散布は 2 回以内、定 植後の株元 散布は 2 回 以内)
	アザミウマ類 ハモグリバエ	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロアジソンを含む農薬の総使用回数
非結球レタス	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	ナメグリハエ	2000 倍					
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハメグリハエ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内)
		50~100 倍	セル成型育苗トレイ 1 箱またはハッピーポット 1 冊 (30×60 cm、使用土壌約 3~4 L)当り 0.5 L	育苗期後半	1 回	灌注	
	タネハエ タマネギハエ						
わけぎ	ネギアザミウマ ネギハメグリハエ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
あさつき	ネギアザミウマ ネギハメグリハエ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
にら	アブラムシ類 ネギアザミウマ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ネギネクロハネネギノコハエ	2000 倍					
にら(花茎)	アブラムシ類 ネギアザミウマ	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	1000 倍	25 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(植付時の土壌混和は 1 回以内、植付後は 3 回以内)
	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a				

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアヅンを含む農薬の総使用回数
かんしょ	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内(植付前の処理は 1 回以内、植付後は 2 回以内)
やまのいも	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(植付時までの処理は 1 回以内、植付後は 3 回以内)
てんさい	テンサイヒゲハムシ カメノコハムシ テンサイモグリハナバエ アブラムシ類	100~200 倍	1 L/ペーパーポット 1 冊(3 L/m ²)	定植前	1 回	灌注	4 回以内(定植前の灌注は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	カメノコハムシ テンサイモグリハナバエ アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	
あずき	アブラムシ類 カメシ類 マメホクチゾウムシ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
いんげんまめ	アブラムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	インゲンマメゾウムシ	2000 倍					
だいず	マメシクイガ	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	アブラムシ類 カメシ類 フタスジヒメハムシ	2000~4000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを含む農薬の総使用回数
豆類(未成熟、ただし、えだまめを除く)	アブラムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
みつば	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	3 回以内	散布	3 回以内
えだまめ	アブラムシ類 カメシ類 フタスジヒメハムシ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
	マメシクイガ	2000 倍					
オクラ	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
パセリ	アブラムシ類	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 14 日前まで	1 回	散布	1 回
せり	アブラムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	親株養成期 但し収穫 45 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
セルリー	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ハモグリハエ類	2000 倍					
アスパラガス	アブラムシ類 ネギアザミウマ ジユウシホシクビナガハムシ カメシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
みょうが (花穂)	ナスコカカラムシ	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日まで	3 回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)	ナスコカカラムシ	2000 倍	100~300 L/10 a	みょうが (花穂)の収穫前日まで 但し、 花穂を収穫しない場合には開花期終了まで	3 回以内	散布	3 回以内
れんこん	クワイヒレアブラムシ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(植付時までの処理は 1 回以内、植付後は 3 回以内)
くわい	アブラムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
茶	チャトゲコナジラミ	2000 倍	200~400 L/10 a	摘採 7 日前まで	1 回	散布	1 回
	マダラカサハラハムシ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメコバエ チャノホソカ	2000~4000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを含む農薬の総使用回数
	ツマゲロアオカミカメ コミカンアブラムシ						
小麦	アブラムシ類	2000~4000 倍	60~150 L/10 a	収穫 3 日 前まで	4 回以内	散布	4 回以内
たまねぎ	ネアサミヤ	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
パイナップル	パイナップルコナカイラムシ	2000 倍	200~700 L/10 a	収穫 14 日 前まで	4 回以内	散布	4 回以内
さといも	アブラムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
こんにゃく	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	5 回以内(植付時及び培土時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
カリフラワー	アオムシ コナガ	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時までの処理は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
	アブラムシ類	2000~4000 倍					
ごぼう	アブラムシ類 ヒョウタンゾウムシ類	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	5 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、株元散布は 1 回以内、散布は 3 回以内)
食用ぎく	アサミヤ類 アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを 含む 農薬の総使用回数
にんにく	アブラムシ類 ネギコガ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんじん	アブラムシ類 ヒョウタンゾウムシ類 ヨトウムシ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	7 回以内(は 種時の処理 は 1 回以 内、株元灌 注は 2 回以 内、散布は 2 回以内、株 元散布は 2 回以内)
	ヒョウタンゾウムシ類	400 倍	400 mL/m ²			株元灌注	
ズッキーニ	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~300 L/10 a	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
まこもたけ	ウカ類	2000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
しそ	アザミウマ類	4000 倍	100~300 L/10 a	収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内
きく	ナモクリハエ アブラムシ類 アザミウマ類	4000 倍	1 L/m ²	発生初期	4 回以内	生育期株 元灌注	4 回以内
	アザミウマ類 ハモクリハエ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a			散布	
ばら	アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
	コガネムシ類	2000 倍	1 L/m ²			生育期株 元灌注	
花き類・観 葉植物（た であい、わ たを除く）	アブラムシ類 アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
デイト	デイトヒメコハチ	2000 倍	200~700 L/10 a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
げっきつ	ミカンキジラミ	40 倍	200 mL/ 樹	生育期	6 回以内	樹幹散布	6 回以内
さくら	クハアカツカミキリ	2000 倍	200~700 L/10 a	成虫発生 初期	5 回以内	散布	6 回以内
つつじ類	ツツジゲンバイ	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
たであい	アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
	アブラムシ類	2000 倍					
わた	アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 L/10 a	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
	アブラムシ類	2000 倍					

作物名	適用場所	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、ギギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	4000倍	60~150L/10a	-	4回以内	散布	4回以内

(2) ベニカ水溶剤

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
りんご	カメシ類 キンモンホリガ キンモンハモグリガ シンクイムシ類 アブラムシ類 コナカイラムシ類 リンゴワタムシ ケムシ類 コガネムシ類成虫	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
なし	シンクイムシ類 カメシ類 アブラムシ類 コナカイラムシ類 ケムシ類 チュウゴクナシギジラミ	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
ハ イツプル	ハ イツプルコナカイラムシ	2000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 14 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
もも	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コガネムシ類 クビアカツヤカミキリ	2000 倍					
ネタリン	アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	コガネムシ類	2000 倍					
すもも	カメシ類 アブラムシ類	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
おうとう	オウトウショウジ ヨウバエ カメシ類	2000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
うめ	ケシキスイ類 クビアカツヤカミキリ	2000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	アブラムシ類 カメムシ類 ケムシ類	2000~4000 倍					
あんず	アブラムシ類	4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ぶどう	コナカイガラムシ類 チャノキイロアザミウマ フタテンヒメヨコバイ カメムシ類 コガネムシ類 ブドウトラカミキリ	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ アザミウマ類 ケシキスイ類 コアオハナムグリ ツノロウムシ コナカイガラムシ類 ゴマダラカミキリ カメムシ類 アゲハ類 アカマルカイガラムシ ナシマルカイガラムシ ミカンバエ ミカンキシラミ コナジラミ類 アオバハゴロモ	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	9 回以内 (樹幹散布は 3 回以内、主幹から株元に散布は 3 回以内、散布及び無人航空機散布は合計 3 回以内)
	カネタギ	2000 倍	200~700 mL/m ²			主幹から株元に散布	
	ゴマダラカミキリ	200~400 倍	30~75 mL/m ²				
	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ	20 倍	100 mL/樹	収穫 150 日前まで		樹幹散布	
	ミカンキシラミ	40 倍	200 mL/樹				
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ ゴマダラカミキリ アゲハ類 アブラムシ類	20 倍	10~100 mL/樹	春芽・夏芽又は秋芽の発生前	3 回以内	樹幹散布	3 回以内

作物名	適用病虫害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
かき	カキノヒメコバエ アザミウマ類 コナカイガラムシ類 カキノハタムシガ カメムシ類	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
マンゴー	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
いちじく	アザミウマ類	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	カミキリムシ類	2000 倍					
パパイヤ	ナガカタカイガラムシ ヒラカタカイガラムシ	2000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ブルーベリー	アブラムシ類 ケムシ類 オウトウショウシ ヨウバエ	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
びわ	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
	カミキリムシ類	2000 倍					
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ マエアカシノメイガ	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
	カメムシ類	2000 倍					
キウイフルーツ	キウヒメコバエ カメムシ類 アオハハゴロモ	2000~4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内
なつめ	ゴマタラカミキリ	4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
ハ イツプ ル (苗木)	ハ イツプ ルコナカイガラムシ	2000 倍	-	植付前	1 回	10 秒間 苗浸漬	1 回
未成熟 とうも ろこし	アブラムシ類 アカシジカスミメ ツマシロクサヨトウ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジソンを含む農薬の総使用回数
きゅうり	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
メロン	ハモグリバエ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ ウリハムシ アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
すいか	アブラムシ類 ウリハムシ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍					
かぼちゃ	アブラムシ類 ウリハムシ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	カボチャミハエ	2000 倍					
とうがん	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)
食用へちま	アブラムシ類	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを含む農薬の総使用回数
にがうり	ミナミキイロアザミウマ アブラムシ類 ウリハムシ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
なす	ミナミキイロアザミウマ ハモグリバエ類 アブラムシ類 コナジラミ類 テントウムシダマシ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
トマト	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	ハモグリバエ類	2000 倍					
ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	ハモグリバエ類	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジソンを含む農薬の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類 コナジラミ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍					
とうがらし類	アブラムシ類 コナジラミ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ミナミキイロアザミウマ	2000 倍					
レタス	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	アザミウマ類 ナメグサバエ	2000 倍					
非結球レタス	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	ナメグサバエ	2000 倍					
ばれいしょ	アブラムシ類 テントウムシダマシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(植付時の土壌混和は 1 回以内、植付後は 3 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアエジンを含む農薬の総使用回数
かんしょ	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布	3 回以内(植付前の処理は 1 回以内、植付後は 2 回以内)
やまのいも	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(植付時までの処理は 1 回以内、植付後は 3 回以内)
豆類(種実、ただし、だいず、あずき、いんげんまめを除く)	アブラムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
いんげんまめ	アブラムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
	インゲンマメゾウムシ	2000 倍					
だいず	マメシクイガ	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	アブラムシ類 カメシ類 フタスジヒメハムシ	2000~4000 倍					
あずき	アブラムシ類 マメホクチゾウムシ カメシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
豆類(未成熟、ただし、えだまめを除く)	アブラムシ類 カメシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
えだまめ	アブラムシ類 カメシ類 フタスジヒメハムシ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
	マメシクイガ	2000 倍					
だいこん	アブラムシ類 ダイコンハムシ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
キャベツ	アブラムシ類 アザミマ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	アオムシ コナガ	2000 倍					
はくさい	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	アオムシ コナガ	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを 含む 農薬の総使用回数
ブロッコリー	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日 まで	3 回以内	散布	7 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内、定植後の株元散布は 3 回以内)
	アオムシ コガ	2000 倍					
はなっこりー	アブラムシ類	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日 まで	2 回以内	散布	3 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
非結球 あぶらな科葉 菜類(こまつな、 チンゲンサイ、なば な類、みずなを 除く)	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
チンゲンサイ	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ハモグリバエ類	2000 倍					
みずな	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
こまつな	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを 含む 農薬の総使用回数
かぶ	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
しゅんぎく	アブラムシ類 ハモグリバエ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
みつば	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで ただし、伏せ込み栽培は伏せ込み前まで	3 回以内	散布	3 回以内
パセリ	アブラムシ類	4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 14 日前まで	1 回	散布	1 回
せり	アブラムシ類	2000 倍	100~300 mL/m ²	親株養成期 但し 収穫 45 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
セルリー	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ハモグリバエ類	2000 倍					
okra	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
にら	ネギアザミウマ アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
	ネギネコハネネギノコバエ	2000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
にら(花茎)	ネギアサミウマ アブラムシ類	4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
たまねぎ	ネギアサミウマ	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
ねぎ	ネギアサミウマ ネギハモグリバエ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内)
	タネバエ タマネギバエ	50 倍~100 倍	セル成型育苗 トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊 (30×60 cm、 使用土壌約 3~4 L)当り 0.5 L	育苗期後半	1 回	灌注	
わけぎ	ネギアサミウマ ネギハモグリバエ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
あさつき	ネギアサミウマ ネギハモグリバエ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内
アスパラガス	アブラムシ類 ネギアサミウマ ジュウホシクビナガハムシ カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
みょうが (花穂)	ナスコナカイラムシ	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日まで	3 回以内	散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。	3 回以内
みょうが (茎葉)	ナスコナカイラムシ	2000 倍	100~300 mL/m ²	みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあつて	3 回以内	散布	3 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアニジンを含む農薬の総使用回数
				は開花期終了まで			
くわい	アブラムシ類	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	3 回以内
さんしょう(果実)	アザミヤカ類	4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫前日まで	2 回以内	散布	2 回以内
オリーブ(葉)	オリーブアナキツウムシ マエアカスカシノメイガ	4000 倍	200~700 mL/m ²	収穫 120 日前まで	2 回以内	散布	2 回以内
さといも	アブラムシ類	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
こんにゃく	アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	5 回以内(植付時及び培土時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
カリフラワー	アオムシ コナガ	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(定植時までの処理は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
	アブラムシ類	2000~4000 倍					

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアジンを 含む 農薬の総使用回数
ごぼう	アブラムシ類 ヒョウタンゾウムシ類	2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	5 回以内(は 種時の土壌 混和は 1 回 以内、株元 散布は 1 回 以内、散布 は 3 回以 内)
食用ぎ く	アザミウマ類 アブラムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
にんに く	アブラムシ類 ネギコガ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内
にんじ ん	アブラムシ類 ヒョウタンゾウムシ類 ヨトウムシ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日 まで	2 回以内	散布	7 回以内(は 種時の処理 は 1 回以 内、株元灌 注は 2 回以 内、散布は 2 回以内、株 元散布は 2 回以内)
	ヒョウタンゾウムシ類	400 倍	400 mL/m ²			株元灌注	
しそ	アザミウマ類	4000 倍	100~300 mL/m ²	収穫 3 日 前まで	2 回以内	散布	2 回以内
ズッキーニ	アブラムシ類	1000~2000 倍	100~300 mL/m ²	収穫前日 まで	2 回以内	散布	2 回以内
茶	チャトゲコナシラミ	2000 倍	200~400 mL/m ²	摘採 7 日 前まで	1 回	散布	1 回
	マダラカサハラハムシ チャノキイロアザミウマ チャノミドリヒメヨコバイ チャノホソガ ツマゲロアオカスミメ コミカンアブラムシ	2000~4000 倍					
花き類・ 観葉植 物(ば ら、き く、た であ いを 除く)	アブラムシ類 アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを 含む 農薬の総使用回数
きく	アザミウマ類 アブラムシ類 ハモグリバエ類 カメムシ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
	ハモグリバエ アブラムシ類 アザミウマ類	4000 倍	1 L/m ²			生育期株元灌注	
ばら	アブラムシ類 アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
	コガネムシ類	2000 倍	1 L/m ²			生育期株元灌注	
つつじ類	ツツジゲンハイ	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	発生初期	6 回以内	散布	6 回以内
デイゴ	デイゴヒメコバチ	2000 倍	200~700 mL/m ²	発生初期	5 回以内	散布	6 回以内
げっきつ	ミカンキンゾウ	40 倍	200 mL/樹	生育期	6 回以内	樹幹散布	6 回以内
さくら	クハアツヤカミキリ	2000 倍	200~700 mL/m ²	成虫発生初期	5 回以内	散布	6 回以内
たであ い	アザミウマ類	2000~4000 倍	100~300 mL/m ²	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内
	アブラムシ類	2000 倍					

3. 登録番号 20800 : ダントツ粒剤、
登録番号 21502 : ベニカ粒剤、
登録番号 21645 : 協友ダントツ粒剤
(クロチアニジン 0.50%粒剤)

(1) ダントツ粒剤、協友ダントツ粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ	3 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内(直播での は種時又は移植時 までの処理は 1 回 以内、本田での散 布、空中散布、無人 航空機散布は合計 3 回以内)
	カメムシ類	3~4 kg/10 a				
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネトヨイムシ イネヒメハモグリバエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g 高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌 約 5 L)1 箱当 り 50~100 g)	移植 3 日 前~移植 当日	1 回	育苗箱の苗の上 から均一に散布 する。	4 回以内(移植時ま での処理は 1 回以 内、本田での散布、 空中散布、無人航 空機散布は合計 3 回以内)
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 ミナミキイロアザミウマ	1~2 g/株	育苗期後 半	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の 株元処理及び定植 時の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 及び定植後の株元 散布は合計 3 回以 内)
	アブラムシ類 コナジラミ類		定植時		植穴処理土壌混 和	
	ミナミキイロアザミウマ	2 g/株				
		アブラムシ類	1~2 g/株	定植後 但し、収 穫前日ま で	3 回以内	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
メロン	アブラムシ類 コナジラミ類	1~2 g/株	育苗期後半	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	コナジラミ類 アブラムシ類		定植時		植穴処理土壌混和	
	シメキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2 g/株				
	アブラムシ類	1~2 g/株	定植後 但し、収穫前日まで	3 回以内	株元散布	
すいか	アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
かぼちゃ	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
にがうり	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	4 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
うり類 (漬物用、ただし、とうがん、食用へちまを除く)	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	1 回
とうがん	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)
食用へちま	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
トマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g/株	育苗期	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	アザミウマ類		育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	1~2 g/株	定植時	3 回以内	植穴処理土壌混和	
	アブラムシ類		定植後 但し、収穫前日まで		株元散布	
ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g/株	育苗期	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	アザミウマ類		育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	1~2 g/株	定植時	3 回以内	植穴処理土壌混和	
	アブラムシ類		定植後 但し、収穫前日まで		株元散布	
なす	アブラムシ類	1~2 g/株	育苗期後半	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	コナジラミ類	1 g/株			株元処理	
	アブラムシ類 コナジラミ類 マメハモグリバエ	1~2 g/株	定植時	3 回以内	植穴処理土壌混和	
	アブラムシ類		定植後 但し、収穫前日まで		株元散布	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類	1 g/株	育苗期後半	1 回	株元処理	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
			定植時		植穴処理土壌混和	
		1~2 g/株	定植後 但し、収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	1 回	覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	アブラムシ類 ネギアサミウマ	3~6 kg/10 a			播溝処理土壌混和	
		6 kg/10 a	地床育苗期		株元散布	
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアサミウマ	セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊(30×60 cm、 使用土壌約 1.5~4 L)当り 50 g	育苗期後半		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアサミウマ ネキリムシ類	0.5 g/株			株元処理	
	コナガ アオムシ	2 g/株	定植時		植穴処理土壌混和	
	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	1~2 g/株				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
はくさい	アブラムシ類 ハイマダラノメカイ	0.25 g/株	は種時	1 回	覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメカイ ネキリムシ類	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類 ハイマダラノメカイ	1~2 g/株	定植時		植穴処理土壌混和	
	コナガ アオムシ	2 g/株				
ブロッコリー	アブラムシ類 ハイマダラノメカイ	0.25 g/株	は種時	1 回	セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する	7 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内、定植後の株元散布は 3 回以内)
					覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメカイ	0.5 g/株	育苗期後半		株元処理	
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメカイ ネギアザミウマ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4L)当り 50 g			セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	
	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時		植穴処理土壌混和	
	コナガ アオムシ ハイマダラノメカイ	2 g/株				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
はなっこりー	アブラムシ類	6 kg/10 a	定植時	1 回	作条処理土壌混和	3 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
だいこん	アブラムシ類	3~6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
かぶ	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
こまつな	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
しゅんぎく	アブラムシ類 ハモグリバエ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
だいず	コガネムシ類 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
あずき	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
なばな	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	1 回
チンゲンサイ	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
			定植時		作条処理土壌混和	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
レタス	アブラムシ類	2 g/株	定植時	1 回	植穴処理土壌混和	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
		0.5 g/株	育苗期後半		株元処理	
		セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 50 g			セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	
非結球レタス	アブラムシ類	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 50 g	育苗期後半	1 回	セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
		0.5 g/株			株元処理	
		みずな	アブラムシ類	6 kg/10a	は種時	1 回
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6 kg/10a	は種時	1 回	作条処理土壌混和	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内)
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ タネバエ		植付時		植溝処理土壌混和	
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	3~6 kg/10 a	収穫 3 日前まで	4 回以内	株元散布	
	ネギニ類	6 kg/10 a				
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ ネギニ類	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 3~4 L)当り 50 g	育苗期後半	1 回	セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
あさつき	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	3~6 kg/10 a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布	4回以内
わけぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	3~6 kg/10 a	収穫3日前まで	4回以内	株元散布	4回以内
らっきょう	ネギアザミウマ ネギニ類	6 kg/10 a	収穫21日前まで	2回以内	株元散布	2回以内
くわい	アブラムシ類	6 kg/10 a	収穫7日前まで	3回以内	湛水散布	3回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	3~6 kg/10 a	植付時	1回	植溝処理土壌混和	4回以内(植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
かんしょ	コガネムシ類 トビイロヒョウタンゾウムシ	6~9 kg/10 a	植付前	1回	作条処理土壌混和	3回以内(植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内)
	コガネムシ類				全面処理土壌混和	
	アブラムシ類	6 kg/10 a	育苗期		株元処理	
やまのいも	アブラムシ類 コガネムシ類	6~9 kg/10 a	植付時	1回	作条処理土壌混和	4回以内(植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)
いちご	アブラムシ類 コガネムシ類	1 g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和	1回
セルリー	アブラムシ類	2 g/株	定植時	1回	植穴処理土壌混和	4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
れんこん	クワイビレアブラムシ	3 kg/10 a	植付時	1回	植溝処理土壌混和	4回以内(植付時までの処理は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
		4~6 kg/10 a	収穫 7 日前まで	3 回以内	湛水散布	内、植付後は 3 回以内)
					無人航空機による散布	
じゅんさい	トラフユスリカ	4 kg/10 a	収穫前日まで	2 回以内	湛水散布	2 回以内
さとうきび	ハリガネシ類	4~6 kg/10 a	植付時	1 回	植溝処理土壌混和	7 回以内(植付時までの処理は 1 回以内、植付後の粒剤の処理は 3 回以内、水和剤の処理は 3 回以内)
	メイチュウ類 アオトウガネ イエシロアリ カンシャワタアブラムシ					
	カンシャコバネナガカメムシ シロスジオサゾウムシ	培土時	3 回以内	株元処理土壌混和		
	カンシャコバネナガカメムシ カンシャワタアブラムシ メイチュウ類	収穫 30 日前まで		株元散布		
かんきつ(苗木)	ミカンハモグリガ	10~20 g/樹	育苗期	3 回以内	株元散布	3 回以内
らっかせい	コガネシ類	3~6 kg/10 a	は種時	1 回	全面処理土壌混和	1 回
とうがらし類	アブラムシ類	1 g/株	育苗期後半	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元散布及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
			定植時		植穴処理土壌混和	
さといも	アブラムシ類 コガネシ類	6~9 kg/10 a	植付時	1 回	作条処理土壌混和	5 回以内(植付時の処理は 1 回以内、培土時の処理は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	コガネシ類				全面処理土壌混和	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
			培土時 (ただし、 収穫 60 日前まで)		株元処理土壌混和	
こんにゃく	アブラムシ類	3~6 kg/10 a	植付時	1 回	植溝処理土壌混和	5 回以内(植付時及び培土時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
			培土時		株元処理土壌混和	
カリフラワー	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	1 回	覆土混和	4 回以内(定植時までの処理は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
		セル成型育苗トレイ 1 箱または ペーパーポット 1 冊(約 30×60 cm、使用土壌 1.5~4 L)当り 50 g	育苗期後半		セル成型育苗トレイ またはペーパーポットの上から散布する	
	ハイマダラノメイガ	2 g/株	定植時		植穴処理土壌混和	
ごぼう	アブラムシ類 ヒョウタンゾウムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	5 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、株元散布は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	アブラムシ類		収穫 60 日前まで		株元散布	
にんじん	アブラムシ類 コガネムシ類	6~9 kg/10 a	は種時	1 回	全面処理土壌混和	7 回以内(は種時の処理は 1 回以内、株元灌注は 2 回以内、散布は 2 回以内、株元散布は 2 回以内)
	ヒョウタンゾウムシ類		収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
オクラ	アブラムシ類	1~2 g/株	収穫 30 日前まで	1 回	株元散布	4 回以内(株元散布は 1 回以内、散布は 3 回以内)
豆類(未成熟)	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
いんげん まめ	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土壌混和	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
ふき	アブラムシ類	9 kg/10 a	生育期 (ただし、 収穫 30 日前まで)	1 回	株元散布	1 回
樹木類 (げっきつを除く)	コガネムシ類	6~9 kg/10 a	生育期	5 回以内	株元散布	6 回以内
げっきつ	ミカンキジラミ	30~40 g/株	発生初期	6 回以内	生育期株元散布	6 回以内
	コガネムシ類	6~9 kg/10 a	生育期	5 回以内	株元散布	
きく	アブラムシ類	6 kg/10 a	発生初期	4 回以内	生育期株元散布	4 回以内
		1~2 g/株 (但し、 6kg/10a まで)				
	マメハモグリハエ アザミウマ類	2 g/株 (但し、 6kg/10a まで)				
花き類・ 観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類	6 kg/10 a	発生初期	4 回以内	生育期株元散布	4 回以内
		1~2 g/株 (但し、 6kg/10a まで)				
	アザミウマ類	2 g/株 (但し、 6kg/10a まで)				

(2) ベニカ粒剤

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロアチンを含む農薬の総使用回数
きゅうり	アブラムシ類 コジラミ類 シメキイロアザミウマ	1~2 g/株	育苗期後半	1回	株元処理	4回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)
	アブラムシ類 コジラミ類		定植時		植穴処理 土壌混和	
	シメキイロアザミウマ	2 g/株				
	アブラムシ類	1~2 g/株	定植後 但し、収穫前日まで	3回以内	株元散布	
メロン	アブラムシ類 コジラミ類	1~2 g/株	育苗期後半	1回	株元処理	4回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計1回以内、散布及び定植後の株元散布は合計3回以内)
	コジラミ類 アブラムシ類		定植時		植穴処理 土壌混和	
	シメキイロアザミウマ トマトハモグリバエ	2 g/株				
	アブラムシ類	1~2 g/株	定植後 但し、収穫前日まで	3回以内	株元散布	
すいか	アブラムシ類 シメキイロアザミウマ	1~2 g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
かぼちゃ	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
にがうり	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	4回以内(定植時の土壌混和は1回以内、散布は3回以内)
うり類 (漬物用、ただし、とうがん、食用へちまを除く)	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	1回
とうがん	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1回	植穴処理 土壌混和	4回以内(定植時までの処理は1回以内、定植後の散布は3回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジソンを含む農薬の総使用回数
食用へちま	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)
トマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g/株	育苗期	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	アザミウマ類		育苗期後半			
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	1~2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類		定植後 但し、収穫前日まで	3 回以内	株元散布	
ミニトマト	アブラムシ類 コナジラミ類	1 g/株	育苗期	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	アザミウマ類		育苗期後半			
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハモグリバエ類 アザミウマ類	1~2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類		定植後 但し、収穫前日まで	3 回以内	株元散布	
なす	アブラムシ類	1~2 g/株	育苗期後半	1 回	株元処理	4 回以内(育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
	コナジラミ類	1 g/株				
	アブラムシ類 コナジラミ類 マメハモグリバエ		定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類	1~2 g/株	定植後 但し、収穫前日まで	3 回以内	株元散布	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアジンを含む農薬の総使用回数
ピーマン	アブラムシ類	1 g/株	育苗期後半	1 回	株元処理	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 2 回以内)
			定植時		植穴処理 土壌混和	
		1~2 g/株	定植後 但し、収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
キャベツ	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	1 回	覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	アブラムシ類 ネギアザミウマ	3~6 kg/10 a			播溝処理 土壌混和	
		6 kg/10 a	地床育苗期		株元散布	
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 50 g	育苗期後半		セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ ネキリムシ類	0.5 g/株	育苗期後半	1 回	株元処理	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	コナガ アオムシ	2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	1~2 g/株				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
はくさい	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	1 回	覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネキリムシ類	0.5g/株	育苗期後半		株元処理	
	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	1~2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	コナガ アオムシ	2 g/株				
ブロッコリー	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株	は種時	1 回	セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する	7 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内、定植後の株元散布は 3 回以内)
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.5 g/株	育苗期後半		株元処理	
	コナガ アオムシ アブラムシ類 ハイマダラノメイガ ネギアザミウマ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4L)当り 50 g	育苗期後半	1 回	セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	7 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内、定植後の株元散布は 3 回以内)
	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
	コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ	2 g/株				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロアジソンを含む農薬の総使用回数
はなっこりー	アブラムシ類	6 kg/10 a	定植時	1 回	作条処理 土壌混和	3 回以内(定植時の土壌混和は 1 回以内、散布は 2 回以内)
だいこん	アブラムシ類	3~6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
かぶ	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
こまつな	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
しゅんぎく	アブラムシ類 ハモグリバエ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
だいず	コガネムシ類 アブラムシ類 フタスジヒメハムシ	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
あずき	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
なばな	アブラムシ類	1~2 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和	1 回

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
チンゲンサイ	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
			定植時		作条処理 土壌混和	
レタス	アブラムシ類	2 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
		0.5 g/株	育苗期後半		株元処理	
		セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 50 g			セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	
非結球レタス	アブラムシ類	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 50 g	育苗期後半	1 回	セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)
		0.5 g/株			株元処理	
みずな	アブラムシ類	6 kg/10a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時の土壌混和は 1 回以内、散布は 3 回以内)
ねぎ	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	6 kg/10a	は種時	1 回	作条処理 土壌混和	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内)
	ネギアザミウマ ネギハモグリバエ タネバエ		植付時		植溝処理 土壌混和	
		ネギアザミウマ ネギハモグリバエ	3~6 kg/10 a	収穫 3 日前まで	4 回以内	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
	ネダニ類	6 kg/10 a				
	ネギアサミウマ ネギハモグリバエ ネダニ類	セル成型育苗トレイ1箱またはペーパーポット1冊(30×60 cm、使用土壌約3~4 L)当り 50 g	育苗期後半	1 回	セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する	
あさつき	ネギアサミウマ ネギハモグリバエ	3~6 kg/10 a	収穫3日前まで	4 回以内	株元散布	4 回以内
わけぎ	ネギアサミウマ ネギハモグリバエ	3~6 kg/10 a	収穫3日前まで	4 回以内	株元散布	4 回以内
らっきょう	ネギアサミウマ ネダニ類	6 kg/10 a	収穫21日前まで	2 回以内	株元散布	2 回以内
くわい	アブラムシ類	6 kg/10 a	収穫7日前まで	3 回以内	湛水散布	3 回以内
ばれいしょ	アブラムシ類	3~6 kg/10 a	植付時	1 回	植溝処理 土壌混和	4 回以内(植付時の土壌混和は1回以内、植付後は3回以内)
かんしょ	コガネムシ類 トビイロヒヨウタンゾウムシ	6~9 kg/10 a	植付前	1 回	作条処理 土壌混和	3 回以内(植付前の処理は1回以内、植付後は2回以内)
	コガネムシ類				全面処理 土壌混和	
	アブラムシ類	6 kg/10 a	育苗期		株元処理	
やまのいも	アブラムシ類 コガネムシ類	6~9 kg/10 a	植付時	1 回	作条処理 土壌混和	4 回以内(植付時までの処理は1回以内、植付後は3回以内)
さとうきび	ハリガネムシ類	4~6 kg/10 a	植付時	1 回	植溝処理 土壌混和	7 回以内(植付時までの処理は1回以内、植付後の粒剤の処理は3回以内、水和剤の処理は3回以内)
	メイチュウ類 アトウカネ イシロアリ カンシャワタアブラムシ	6~9 kg/10 a				
	カンシャコバネカガメムシ シロスジオサゾウムシ		培土時	3 回以内	株元処理 土壌混和	

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クチアニジンを含む農薬の総使用回数
	カンシャコバ ネガカメシ カンシャワタアブラムシ メイチュウ類		収穫 30 日前まで		株元散布	
いちご	アブラムシ類 コガネムシ類	1 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和	1 回
セルリー	アブラムシ類	2 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和	4 回以内(定植時の 土壌混和は 1 回以 内、散布は 3 回以 内)
かんきつ (苗木)	ミカンハモグリガ	10~20 g/樹	育苗期	3 回以内	株元散布	3 回以内
らっかせい	コガネムシ類	3~6 kg/10 a	は種時	1 回	全面処理 土壌混和	1 回
とうがらし類	アブラムシ類	1 g/株	育苗期後 半 定植時	1 回	株元処理 植穴処理 土壌混和	4 回以内(育苗期の 株元散布及び定植 時の土壌混和は合 計 1 回以内、散布 は 3 回以内)
さといも	アブラムシ類 コガネムシ類	6~9 kg/10 a	植付時	1 回	作条処理 土壌混和 全面処理 土壌混和	5 回以内(植付時の 処理は 1 回以内、 培土時の処理は 1 回以内、散布は 3 回以内)
	コガネムシ類		培土時(た だし、収 穫 60 日 前まで)		株元処理土 壌混和	
こんにゃく	アブラムシ類	3~6 kg/10 a	植付時	1 回	植溝処理 土壌混和	5 回以内(植付時及 び培土時の土壌混 和は 1 回以内、散 布は 3 回以内)
			培土時		株元処理 土壌混和	
カリフラワー	アブラムシ類 ハイマダラノメイガ	0.25 g/株 セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパー ポット 1 冊(約 30×60 cm、使用土 壌 1.5~4 L)当り 50 g	は種時 育苗期後 半	1 回	覆土混和 セル成型育苗 トレイまたは ペーパーポット の上から散 布する	4 回以内(定植時ま での処理は合計 1 回以内、散布は 3 回以内)
	ハイマダラノメイガ	2 g/株	定植時		植穴処理 土壌混和	
ごぼう	アブラムシ類 ヒョウタンゾウムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	5 回以内(は種時の 土壌混和は 1 回以

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	カチアジンを含む農薬の総使用回数
	アブラムシ類		収穫 60 日前まで		株元散布	内、株元散布は 1 回以内、散布は 3 回以内)
にんじん	アブラムシ類 コガネムシ類	6~9 kg/10 a	は種時	1 回	全面処理 土壌混和	7 回以内(は種時の処理は 1 回以内、株元灌注は 2 回以内、散布は 2 回以内、株元散布は 2 回以内)
	ヒヨウタンゾウムシ類		収穫前日まで	2 回以内	株元散布	
オクラ	アブラムシ類	1~2 g/株	収穫 30 日前まで	1 回	株元散布	4 回以内(株元散布は 1 回以内、散布は 3 回以内)
豆類(未成熟)	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理 土壌混和	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
いんげん まめ	アブラムシ類	6 kg/10 a	は種時	1 回	播溝処理土 壌混和	4 回以内(は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)
ふき	アブラムシ類	9 kg/10 a	生育期(ただし、収穫 30 日前まで)	1 回	株元散布	1 回
樹木類 (げっきつを除く)	コガネムシ類	6~9 kg/10 a	生育期	5 回以内	株元散布	6 回以内
げっきつ	ミカンキジラミ	30~40 g/株	発生初期	6 回以内	生育期株元 散布	6 回以内
	コガネムシ類	6~9 kg/10 a	生育期	5 回以内	株元散布	
きく	アブラムシ類	6 kg/10 a	発生初期	4 回以内	生育期株元 散布	4 回以内
		1~2 g/株 (但し、6kg/10a まで)				
	マメハモグリバエ アザミウマ類	2 g/株 (但し、6kg/10a まで)				
花き類・観 葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類	6 kg/10 a	発生初期	4 回以内	生育期株元 散布	4 回以内
		1~2 g/株 (但し、6kg/10a まで)				

作物名	適用病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の 使用回数	使用方法	クチアジンを含む農 薬の総使用回数
	アザミヤ類	2 g/株 (但し、6kg/10a まで)				

4. 登録番号 20801 : ダントツ粉剤DL、
登録番号 21595 : 協友ダントツ粉剤DL
(クロチアニジン 0.15%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
稲	ウンカ類 ツマク [®] ロヨコハ [®] イ カメムシ類	3~4 kg/10 a	収穫7日 前まで	3回以内	散布	4回以内 (直播での種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人ヘリ散布は合計3回以内)
	イナゴ類	4 kg/10 a				
	イネト [®] ロイムシ フタホ [®] コヤカ [®]	3 kg/10 a				
だいず	アブラムシ類 カメムシ類 フタホ [®] ヒメハムシ	4 kg/10 a	収穫7日 前まで	3回以内	散布	4回以内(は種時の 土壌混和は1回以内、散布は3回以内)

作物名	適用場所	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
水田作物、畑作物(休耕田)	ヨシ、オギ、ススキ、セイタカアワダチソウ等の多年生雑草が優占している休耕田	カメムシ類	3~4 kg/10 a	-	4回以内	散布	4回以内

5. 登録番号 20804 : ハスラー粉剤DL

(カルタップ 2.0%・クロチアニジン 0.15%・バリダマイシン 0.30%・フェリムゾン 2.0%・フサライド 1.5%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ イネツトムシ フタホヒコヤガ いもち病	3~4 kg/10 a	収穫21日前まで	2回以内	散布
	コブノメイガ カメシ類 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 変色米(カーブリア菌) 内穎褐変病	4 kg/10 a			

カルタップを含む農薬の 総使用回数	クロチアニジンを含む農薬 の総使用回数	バリダマイシンを含む 農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む農 薬の総使用回数	フサライドを含む農 薬の総使用回数
6回以内 (浸種前は1回以内、 浸種後から直播での は種時又は移植時ま での処理は1回以内)	4回以内 (直播では種時又 は移植時までの処理 は1回以内、 本田での散布、空中 散布、無人航空機散 布は合計3回以内)	6回以内 (育苗箱灌注は1回 以内、 本田では5回以内)	2回以内	3回以内

6. 登録番号 20827 : ダントツ箱粒剤、
登録番号 21594 : 協友ダントツ箱粒剤
(クロチアニジン 1.5%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
湛水直播 水稻	イネミズゾウムシ イネトノヨイムシ	1 kg/10 a	は種時	1 回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4 回以内 (は種時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
稲 (箱育苗)	ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネミズゾウムシ イネトノヨイムシ コメイチュウ フタオビコヤカ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植 3 日前 ～ 移植当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100g)				
	イネコカメシ	育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50 g	移植当日			
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L) 1 箱当り 50~100 g)				

7. 登録番号 21186：ブラシンドントツ粉剤DL

(クロチアニジン 0.15%・フェリムゾン 2.0%・フサライド 1.5%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類 フタホビコヤガ	3~4 kg/10 a	収穫7日前まで	2回以内	散布

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む 農薬の総使用回数	フサライドを含む 農薬の総使用回数
4回以内 (直播での種時又は移植時 までの処理は1回以内、 本田での散布、空中散布、無 人ヘリ散布は合計3回以内)	2回以内	3回以内

8. 登録番号 21218 : ブラシントツH粉剤DL

(クロチアニジン 0.50%・フェリムゾン 2.0%・フサライド 1.5%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 ごま葉枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタホシコヤカ イネツトムシ カメムシ類	3~4 kg/10 a	収穫7日前まで	2回以内	散布

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む 農薬の総使用回数	フサライドを含む 農薬の総使用回数
4回以内 (直播での種時又は移植時 までの処理は1回以内、 本田での散布、空中散布、無 人散布は合計3回以内)	2回以内	3回以内

9. 登録番号 21226：ダントツオリゼメート 10 箱粒剤
(クロチアニジン 1.5%・プロベナゾール 10.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	いもち病 イネトオムシ イネミズウムシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50 g	移植3日前 ～ 移植当日	1回	育苗箱の苗 の上から均 一に散布す る。
		高密度には種する場合は1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L) 1箱当り 50~100 g)			

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む 農薬の総使用回数
4回以内 (移植時までの処理は1回以内、 本田での散布、空中散布、無人航 空機散布は合計3回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

10. 登録番号 21242：ダントツH粉剤DL、
登録番号 21627：協友ダントツH粉剤DL
(クロチアニジン 0.5%粉剤)

作物名	適用場所	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
稲	-	カメシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イナゴ類 イネツトムシ ニカメイチュウ フタホヒコヤガ	3~4 kg/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (直播での種時又は 移植時までの処理は 1 回以内、本田での 散布、空中散布、 無人航空機散布は 合計 3 回以内)
		イネトヨイムシ	3 kg/10 a				
だいず	-	マメシクイガ ウンコノメイガ	4 kg/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、散布は 3 回以内)
		アブラムシ類 カメシ類 フタスジヒメハムシ	3~4 kg/10 a				
水田作物、畑 作物 (休耕田)	ヨシ、オギ、スキ、 セイタカアワダチソウ 等の多年生雑草が 優占している休耕田	カメシ類	3~4 kg/10 a	-	4 回以内	散布	4 回以内

1 1. 登録番号 21258 : ダントツフロアブル、
登録番号 21547 : 協友ダントツフロアブル、
登録番号 22101 : ダントツ EX フロアブル
(クロチアニジン 20.0%水和剤)

(1) ダントツフロアブル、協友ダントツフロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
稲	イコ ^レ 類 ウカ ^レ 類 ツマク ^レ ロヨコハ ^レ イ カメシ ^レ 類 イネト ^レ ロイムシ	5000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (直播では種時 又は移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での散布、空 中散布、無人航空 機散布は合計 3 回 以内)
	ウカ ^レ 類 カメシ ^レ 類	1250 倍	25 L/10 a			空中散布	
	ツマク ^レ ロヨコハ ^レ イ ウカ ^レ 類 カメシ ^レ 類	90 倍	3 L/10 a			無人航空機 による散布	
	ウカ ^レ 類 カメシ ^レ 類	24 倍	800 mL/10 a				
湛水直 播水稻	イネミズ ^レ ゾウムシ キリウシ ^レ ガガンボ	原液	種もみ 3 kg 当り 75 mL/10 a	は種前	1 回	塗沫処理	4 回以内 (は種時までの処 理は 1 回以内、本 田での散布、空中 散布、無人航空機 散布は合計 3 回以 内)
だいず	アブラムシ類 カメシ ^レ 類 フタスジ ^レ ヒメハムシ	2500 ~ 5000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (は種時の土壌混 和は 1 回以内、散 布は 3 回以内)
	マメシクイカ ^レ ダイズ ^レ クキタマハエ	2500 倍					
	アブラムシ類 カメシ ^レ 類	24 倍	800 mL/10 a			無人航空機 による散布	

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
ばれい しょ	アブラムシ類	5000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (植付時の土壌混 和は 1 回以内、植 付後は 3 回以内)
さとう きび	サトウキビチビアザミウマ カンシヤコハネカガカメムシ イコゴ類 カンシヤワタアブラムシ	2500 ~ 5000 倍	100~300 L/10 a	収穫 30 日前まで	3 回 以内	散布	7 回以内 (植付時までの処 理は 1 回以内、植 付後の粒剤の処理 は 3 回以内、水和 剤の処理は 3 回以 内)
	メイチュウ類	2500 倍					
	カンシヤコハネカガカメムシ メイチュウ類	24 倍	2.4 L/10 a			無人航空機 による散布	

(2) ダントツ EX フロアブル

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロチアジンを含む 農薬の総使用回数	
稲	イナゴ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメシ類 イネトノオムシ	5000 倍	60~150 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (直播での種時 又は移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での散布、空 中散布、無人航空 機散布は合計 3 回 以内)	
	ウンカ類 カメシ類	1250 倍	25 L/10 a			空中散布		
	ツマグロヨコバイ ウンカ類 カメシ類	90 倍	3 L/10 a					
	ウンカ類 カメシ類(アカヒゲホソミ トリカスミカメを除く)	24 倍	800 mL/10 a					無人航空機 による散布
	アカヒゲホソミトリカスミ カメ	24 ~ 36 倍						
	イネトノオムシ	36 倍						

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
直播水 稲	イネミズゾウムシ	原液	種もみ 3 kg 当り 75 mL/10 a	は種前	1 回	塗沫処理	4 回以内 (は種時までの処 理は 1 回以内、本 田での散布、空中 散布、無人航空機 散布は合計 3 回以 内)
	キリウシ、カガコンボ		種もみ 8~10 kg 当 り 75 mL/10 a				
だいでず	アブラムシ類 カメムシ類 フタスジヒメハムシ	2500 ~ 5000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (は種時の土壌混 和は 1 回以内、散 布は 3 回以内)
	マメシクイガ ダイズクキタマハエ	2500 倍					
	アブラムシ類 カメムシ類	24 倍	800 mL/10 a			無人航空機 による散布	
ばれい しょ	アブラムシ類	5000 倍	100~300 L/10 a	収穫 7 日 前まで	3 回 以内	散布	4 回以内 (植付時の土壌混 和は 1 回以内、植 付後は 3 回以内)

1 2. 登録番号 21267 : モリエート S C
(クロチアニジン 30.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ 成虫	800 倍	3 L/本 (樹高 10 m)	成虫の発生期	4 回以内	散布	6 回以内
		1000 倍		成虫の発生初期及び発生最盛期直前			
		100 倍	3 L/10 a			無人ヘリコプターによる散布	

1 3. 登録番号 21624 : ビームダントツH粉剤DL

(クロチアニジン 0.50%・トリシクラゾール 1.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 カメシ類 ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタホヒコヤガ イネツトムシ	3~4 kg/10 a	収穫 7 日前まで	2 回以内	散布

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (直播での種時又は移植時 までの処理は 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無 人ヘリ散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、 本田では 3 回以内)

1 4. 登録番号 21702 : ブラシントツフロアブル

(クロチアニジン 6.6%・フェリムゾン 15.0%・フサライド 15.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法
稲	いもち病 ウンカ類 カメシ類	8 倍	800 mL/10 a	収穫 7 日 前まで	2 回以内	無人ヘリコプターに よる散布
		30 倍	3 L/10 a			空中散布
		300 倍	25 L/10 a			散布
	いもち病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ごま葉枯病 ウンカ類 ツマゲロヨコバイ カメシ類 イナゴ類	1000 倍	60~150 L/10 a			

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む 農薬の総使用回数	フサライドを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (直播では種時又は移植時ま での処理は 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無人ヘ リ散布は合計 3 回以内)	2 回以内	3 回以内

1 5. 登録番号 21733 : オルトランD X粒剤

(アセフェート 2.5%・クロチアニジン 0.25%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アセフェートを含む農薬の総使用回数	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数
花き類・観葉植物（ばら、ベゴニア、はぼたん、ガーベラを除く）	アブラムシ類	1 g/株 (但し、40 g/m ² まで)	発生初期	4 回以内	生育期 株元処理	5 回以内	4 回以内
ばら	アザミウマ類 コガネムシ類幼虫 クロゲツブチョッキリ チュウレンジハバチ	2 g/株 (但し、40 g/m ² まで)					
ベゴニア	アブラムシ類 コガネムシ類幼虫						
はぼたん	アブラムシ類 アオムシ						
ガーベラ	アブラムシ類 ハモグリバエ類						
クロトン	ミカンコナカイガラムシ						
						6 回以内	
トマト	アブラムシ類	1 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和	1 回	4 回以内 (育苗期の株元処理及び定植時の土壌混和は合計 1 回以内、散布及び定植後の株元散布は合計 3 回以内)
なす							
きゅうり	コナジラミ類	2 g/株					

16. 登録番号 21974：ラブサイドダントツフロアブル
(クロチアニジン 6.6%・フサライド 20.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用 液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法
稲	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	8 倍	800 mL/10 a	収穫 7 日前 まで	3 回 以内	無人航空機 による散布
						空中散布
	いもち病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ カメムシ類	300 倍	25 L/10 a		2 回 以内	散布
		1000 倍	60~150 L/10 a			

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	フサライドを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (直播での種時又は移植時ま での処理は 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無人 航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内

17. 登録番号 22122 : ワンリード箱粒剤 0.8、
登録番号 22174 : クミアイワンリード箱粒剤 0.8
(クロチアニジン 0.80%粒剤)

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ	育苗箱(30×60×3 cm、使用 土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱の床 土に均一に 混和する。
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱 当り 50~100 g)			
		育苗箱(30×60×3 cm、使用 土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時覆土前 ～ 移植当日		育苗箱の上 から均一に 散布する。
		高密度には種する場合は 1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5L)1 箱当 り 50~100 g)			

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (移植時までの処理は 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無人航 空機散布は合計 3 回以内)

18. 登録番号 22257：ノンブラスダントツフロアブル

(クロチアニジン 6.6%・トリシクラゾール 8.0%・フェリムゾン 15.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	8 倍	800 mL/10 a	収穫 7 日前まで	2 回以内	空中散布
						無人航空機 による散布
	いもち病 カメムシ類	300 倍	25 L/10 a			散布
	いもち病 ウンカ類 カメムシ類	1000 倍	60~150 L/10 a			

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む 農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (直播では種時又は移植時ま での処理は 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無人 航空機散布は合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、 本田では 3 回以内)	2 回以内

19. 登録番号 22391：モリエートマイクロカプセル、
登録番号 22392：ヤシマモリエートマイクロカプセル
(クロチアニジン 7.5%マイクロカプセル剤)

作物名	適用 病虫害名	希釈 倍数	使用液量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロチアニジン を含む農薬の 総使用回数
まつ (生立木)	マツノマダラカミキリ 成虫	200倍	3 L/本 (樹高10 m)	成虫の 発生初期	4回以内	散布	6回以内
		15倍	3 L/10 a			無人ヘリコプター による散布	

20. 登録番号 22506：ベニカXファインスプレー

(クロチアニジン 0.0080%・フェンプロパトリン 0.010%・メパニピリム 0.020%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	クロチアニジン を含む 農薬の 総使用回数	フェンプロパトリン を含む 農薬の 総使用回数	メパニピリム を含む 農薬の 総使用回数
きゅうり	うどんこ病 褐斑病 アブラムシ類 コナジラミ類	原液	収穫前 日まで	3回 以内	散布	4回以内 (育苗期の株 元処理及び 定植時の土 壌混和は合 計1回以内、 散布及び定 植後の株元 散布は合計3 回以内)	5回以内	4回以内
なす	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類 ハモグリバエ類							
トマト	灰色かび病 アブラムシ類 コナジラミ類						3回以内	
ミニトマト	ハモグリバエ類			1回			1回	
花き類・観 葉植物 (ばら、花 月を除く)	うどんこ病 灰色かび病 アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類 ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ	原液	発病初 期	4回 以内	散布	4回以内	6回以内	5回以内
花月	うどんこ病 灰色かび病							
	アザミウマ類 アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類 ハモグリバエ類 ハスモンヨトウ ミカンコナカイガラムシ							

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	クロチアジンを 含む 農薬の 総使用回数	フェンプロパトリン を含む 農薬の 総使用回数	メネピリム を含む 農薬の 総使用回数												
ばら	うどんこ病 灰色かび病 黒星病	原液	発病初期	4 回 以内	散布	4 回以内	6回以内	5 回以内												
	アザミウマ類 アブラムシ類 クロゲツブチョッキリ コガネムシ類成虫 コナジラミ類 チュウレンジハバチ ハダニ類																			
樹木類 (つつじ類、 ひいらぎも くせい、まさ きを除く)	うどんこ病			5 回 以内		6 回以内	6回以内	5 回以内												
	アブラムシ類 カイガラムシ類 ケムシ類																			
つつじ類	うどんこ病								5 回 以内	6 回以内	6回以内	5 回以内								
	アブラムシ類 ツツジゲンバイ カイガラムシ類 ケムシ類																			
ひいらぎも くせい	うどんこ病												5 回 以内	6 回以内	6回以内	5 回以内				
	アブラムシ類 ヘリグロテントウノミハムシ カイガラムシ類 ケムシ類																			
まさき	うどんこ病																5 回 以内	6 回以内	6回以内	5 回以内
	アブラムシ類 アオハハゴロモ カイガラムシ類 ケムシ類																			

2 1. 登録番号 22576：ベニカ X ファインエアゾール

(クロチアニジン 0.032%・フェンプロパトリン 0.020%・メパニピリム 0.040%エアゾール)

作物名	適用 病虫害名	本剤の 使用回数	使用方法
花き類・観葉植物 (ばら、ペゴニアを除く)	アブラムシ類	4 回以内	噴射液が 均一に付着するように約 30 cm 離れた所から数回断続して噴 射する。
ばら	アブラムシ類 ハダニ類 うどんこ病 黒星病		
ペゴニア	アブラムシ類 うどんこ病		
樹木類 (つつじ類、さるすべりを除 く)	ケムシ類		
つつじ類	ケムシ類 ツツジゲンハイ		
さるすべり	ケムシ類 うどんこ病		

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	フェンプロパトリンを含む 農薬の総使用回数	メパニピリムを含む 農薬の総使用回数
4 回以内	6 回以内	5 回以内

2 2. 登録番号 22593 : ベニカ液剤、
登録番号 22876 : ベニカマツケア
(クロチアニジン 2.0%液剤)

(1) ベニカ液剤

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロチアニジン を含む 農薬の 総使用回数	
かんきつ	アブラムシ類	500 倍	200~700 mL/m ²	収穫 前日まで	3 回以内	散布	6 回以内 (樹幹散布は 3 回 以内、 散布及び無人航 空機散布は合計 3 回以内)	
うめ				収穫 3 日前ま で			3 回以内	
かき				カキノハダシガ				
だいこん	アブラムシ類	250 倍	100~300 mL/m ²	収穫 7 日前ま で	2 回以内		3 回以内 (は種時の土壌混 和は 1 回以内、 は種後は 2 回以 内)	
なす	ハモグリバエ類			500 倍	収穫 前日まで		3 回以内	4 回以内 (育苗期の株元処 理及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は合 計 3 回以内)
	トマト ミニトマト							
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類							
キャベツ	アオムシ コガ			250 倍	収穫 3 日前ま で		2 回以内	3 回以内 (定植時までの 処理は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内)
花き類・観葉 植物(ばらを 除く)	アブラムシ類			500 倍	—		4 回以内	4 回以内
ばら	アブラムシ類 チュウレンジハバチ							

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロチアニジン を含む 農薬の 総使用回数
樹木類 (つつじ類、 さんごじゅ、 あかまつ、 くろまつを除 く)	ケムシ類	250 倍	200~700 mL/ m ²	—	6 回以内	散布	6 回以内
つつじ類	ツツジゲンハイ	500 倍	100~300 mL/m ²				
さんごじゅ	ケムシ類 サンゴジ ュハムシ	250 倍	200~700 mL/m ²				
あかまつ くろまつ	マツノマダラカミキリ成虫	60 倍	3 L/本 (樹高 10 m)	成虫の 発生直前 から 発生初期			
	ケムシ類	250 倍	200~700 mL/m ²	—			

(2) ベニカマツケア

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回 数
あかまつ くろまつ	マツノマダラカミキリ成虫	60 倍	3L/本 (樹高 10m)	成虫の 発生直前 から 発生初期	4 回以内	散布	6 回以内
樹木類	ケムシ類	250 倍	200~700 L/10a	—			
さんごじゅ	サンゴジ ュハムシ						
つつじ類	ツツジゲンハイ	500 倍					

23. 登録番号 22672：ベニカケムシエアゾール

(クロチアニジン 0.032%・フェンプロパトリン 0.020%エアゾール)

作物名	適用 病害虫名	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジン を含む 農薬の 総使用回数	フェンプロパトリン を含む 農薬の 総使用回数
樹木類 (つつじ類、まさき、 くちなし、さんご じゅ、さるすべり を除く)	ケムシ類	4 回以内	噴射液が均一に付着する ように約 30 cm 以上 離れた所から数回断続 して噴射する。	4 回以内	6 回以内
つつじ類	ケムシ類 ツツジグンバイ				
まさき	ケムシ類 ミノウスバ			6 回以内	
くちなし	ケムシ類 オオスカシバ				
さんごじゅ	ケムシ類 サンゴジュハムシ			4 回以内	
さるすべり	ケムシ類 アブラムシ類				

24. 登録番号 22698 : スタウトダントツ箱粒剤

(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病 いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトノヨイモシ ウンカ類 ツマクノロヨコバエ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモクグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)						
	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトノヨイモシ ウンカ類 ツマクノロヨコバエ フタオビコヤガ ニカメイチュウ イネヒメハモクグリハエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
	高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)						
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌) 苗立枯細菌病	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)				
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クハアジンを含む農薬の総使用回数	イソチアルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 イネミズウムシ イネトモイシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播でののは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播でののは種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
湛水直播水稻	いもち病 イネミズウムシ イネトモイシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

25. 登録番号 22699 : スタウトダントツ箱粒剤 0.8、
登録番号 22700 : ツインターボ箱粒剤 0.8
(クロチアニジン 0.80%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
湛水直播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネトモイシ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施肥機を用いて土中施用する。	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ イネトモイシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネヒメハモグリバエ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
	イネコマムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植当日				
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	苗立枯細菌病 苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)		育苗箱の上から均一に散布する。		
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)					
稲	いもち病 いねすゝわんし いねぼろいし	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)

26. 登録番号 22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤

(クロチアニジン 1.5%・クロラントラニリプロール 0.75%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	クロラントリニプロールを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 白葉枯病 イネミズゾウムシ イネトモイシ ウカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタホシコヤカ イネトモシ コフノメイカ 内穎褐変病	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)~移植 当日	1 回	育苗箱の上から均一に散布する。	4 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田での散布、 空中散布、無人 ヘリ散布は合計 3 回以内)	1 回	3 回以内 (移植時までの 処理は 1 回以内、 本田では 2 回 以内)
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
	苗腐敗症(もみ枯細菌病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)					
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前		育苗箱の床土に均一に混和する。			
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病				育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。			
	穂枯れ(ごま葉枯病菌)	育苗箱の床土に均一に混和する。						
	いもち病 白葉枯病 内穎褐変病	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。						

27. 登録番号 22891：ノンブラスバリダダントツフロアブル

(クロチアニジン 6.6%・トリシクラゾール 8.0%・バリダマイシン 5.0%・フェリムゾン 15.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
稲	いもち病 紋枯病 ウカ類 カメシ類	8 倍	800 mL/10 a	収穫 14 日 前まで	2 回以内	無人航空機 による散布
		300 倍	25 L/10 a			散布
	穂枯れ (ごま葉枯病菌) イゴ類	1000 倍	60~150 L/10 a			

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	トリシクラゾールを含む 農薬の総使用回数	バリダマイシンを含む 農薬の総使用回数	フェリムゾンを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (は種時又は移植時までの 処理は 1 回以内、本 田での散布、空中散 布、無人航空機散布は 合計 3 回以内)	4 回以内 (育苗箱への処理は 1 回以内、本田では 3 回以内)	6 回以内 (育苗箱灌注は 1 回以内、本田では 5 回以内)	2 回以内

28. 登録番号 23033：箱いり娘粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネトモイシ イネミズゾウムシ コメイチユ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	3回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズゾウムシ イネトモイシ コメイチユ フタホコヤカ イネツトムシ キリウジカガコンホ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する。	4回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 紋枯病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 疑似紋枯症(褐色紋枯病菌) 疑似紋枯症(赤色菌核病菌)	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植7日前～移植当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する。	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布は2回以内)	3回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内 (移植時までの処理は1回以内)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピールを含む農薬の総使用回数
	疑似紋枯症 (褐色菌核病菌) ウナギ類 ツマク [®] ロヨコハ [®] イ コブ [®] ノメイカ [®] フタホ [®] コヤカ [®] イネミズ [®] ソ [®] ウムシ イネト [®] ロイムシ イネツトムシ ニカメイチュウ イネヒメハモク [®] リハ [®] エ	高密度 には種 する場 合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60× 3 cm、使 用土壌 約5 L)1 箱当り 50~100 g)							

29. 登録番号 23121：ベニカベジフルスプレー、
登録番号 23197：ガーデンアシスト V スプレー
(クロチアニジン 0.0080%液剤)

(1) ベニカベジフルスプレー

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアニジンを 含む農薬の 総使用回数
ぶどう	コナカイラムシ類	原液	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
もも	アブラムシ類		収穫前日まで			
ネクタリン	コナヘムシ類		収穫 3 日前まで			
うめ	アブラムシ類		収穫前日まで			
かき	カキノヘタムシガ		収穫 7 日前まで			
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ		収穫前日まで			6 回以内 (樹幹散布は 3 回以 内、散布及び無人 航空機散布は合計 3 回以内)
ブルーベリー	ケムシ類		収穫 45 日前まで			3 回以内
いちじく	カミキリムシ類		収穫 3 日前まで			
りんご	ケムシ類		収穫前日まで			
おうとう	カメムシ類			2 回以内		2 回以内
キウイフルーツ				3 回以内		3 回以内
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ			2 回以内		2 回以内
にがうり	ミナミキイロアザミウマ			3 回以内		4 回以内 (定植時の土壌混和 は 1 回以内、散布 は 3 回以内)
すいか	アブラムシ類					
かぼちゃ						
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 ウリハムシ		収穫前日まで	3 回以内		4 回以内 (育苗期の株元処理 及び定植時の土壌 混和は合計 1 回以 内、散布及び定植 後の株元散布は合 計 3 回以内)
なす	アブラムシ類 ハモグリバエ類					
トマト ミニトマト	アブラムシ類					

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ	原液	収穫前日まで	2 回以内	散布	3 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、散布 及び定植後の株元 散布は合計 2 回以 内)
非結球レタス	アブラムシ類		収穫 3 日前まで			5 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、 定植後の株元散布 は 2 回以内)
だいこん			収穫 7 日前まで			3 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
キャベツ	アオムシ コナガ		収穫 3 日前まで	3 回以内		3 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内)
ブロッコリー	アオムシ					4 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)
はくさい	アオムシ		収穫 3 日前まで	2 回以内		5 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、 定植後の株元散布 は 2 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数	
ねぎ	ネダサミウマ	原液	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内)	
あさつき わけぎ				4 回以内			
にら				3 回以内			
豆類 (未成熟、ただ し、えだまめを 除く)	アブラムシ類		収穫 3 日前まで	3 回以内		4 回以内 (は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)	
えだまめ	カメムシ類 アブラムシ類					4 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	
だいず	カメムシ類					4 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	
オクラ	アブラムシ類		収穫前日まで			3 回以内	3 回以内
未成熟 とうもろこし			収穫 3 日前まで				
とうがらし類			収穫前日まで				
かぶ しゅんぎく			収穫 3 日前まで				
非結球あぶら な科葉菜類(こま つな チゲンサイ、なばな類 みずなを除く)			収穫 7 日前まで				
こまつな			収穫 3 日前まで				
チゲンサイ			収穫 7 日前まで				4 回以内 (は種時及び定植時 の土壌混和は合計 1 回以内、 散布は 3 回以内)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロアジソンを 含む農薬の 総使用回数
みずな	ダイコンハシ	原液	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
みつば	アブラムシ類		収穫 3 日前まで ただし、伏せ込 み栽培は伏せ込 み前まで			3 回以内
ばれいしょ	テントウムシダマシ類		収穫 7 日前まで			4 回以内 (植付時の土壌混和 は 1 回以内、 植付後は 3 回以内)
花き類・観葉植 物(カーベラ、 カトレアを除く)	アブラムシ類		-	4 回以内		4 回以内
カーベラ カトレア				6 回以内		6 回以内

(2) ガーデンアシスト V スプレー

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数
ぶどう	コナカイガラムシ類	原液	収穫前日まで	3 回以内	散布	3 回以内
もも	アブラムシ類		収穫前日まで			
ネクタリン	コガネムシ類		収穫 3 日前まで			
うめ	アブラムシ類		収穫前日まで			
かき	カキハタムシガ		収穫 7 日前まで			
かんきつ	アブラムシ類 ミカンハモグリガ		収穫前日まで			6 回以内 (樹幹散布は 3 回以 内、散布及び無人 航空機散布は合計 3 回以内)
ブルーベリー	ケムシ類		収穫 45 日前まで			
いちじく	カミキリムシ類		収穫 3 日前まで			
りんご	ケムシ類		収穫前日まで			2 回以内
おうとう	カメムシ類			3 回以内		3 回以内
キウイフルーツ				2 回以内		2 回以内
オリーブ	オリーブアナアキゾウムシ			3 回以内		4 回以内 (定植時の土壌混和 は 1 回以内、散布 は 3 回以内)
にがうり	ミナミキイロアザミウマ					
すいか	アブラムシ類					
かぼちゃ			収穫 3 日前まで			
きゅうり	アブラムシ類 コナジラミ類 ウリハムシ					
なす	アブラムシ類 ハモグリバエ類					
トマト ミニトマト	アブラムシ類					
ピーマン	ミナミキイロアザミウマ		収穫前日まで	2 回以内		3 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、散布 及び定植後の株元 散布は合計 2 回以 内)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数
非結球レタス	アブラムシ類	原液	収穫 3 日前まで	2 回以内	散布	5 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、 定植後の株元散布 は 2 回以内)
だいこん			収穫 7 日前まで			3 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)
キャベツ	アオムシ コナガ		3 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内)			
ブロッコリー	アオムシ		3 回以内	4 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)		
はくさい	アオムシ		収穫 3 日前まで	2 回以内		5 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、 定植後の株元散布 は 2 回以内)
ねぎ	ネギアザミウマ			4 回以内		4 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内)
あさつき わけぎ						4 回以内
にら				アブラムシ類		3 回以内
豆類 (未成熟、ただ し、えだまめを 除く)	4 回以内 (は種時の処理は 1 回以内、は種後は 3 回以内)					
えだまめ	カメムシ類 アブラムシ類					

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアジンを 含む農薬の 総使用回数
だいず	かみし類	原液	収穫 7 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
okra	アブラムシ類		収穫前日まで			3 回以内
未成熟 とうもろこし			収穫 3 日前まで			
とうがらし類			収穫前日まで			4 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
かぶ しゅんぎく			収穫 3 日前まで			
非結球あぶら な科葉菜類(こま つな、 チゲンサイ、なばな類 を除く)			収穫 7 日前まで			3 回以内
こまつな			収穫 3 日前まで			4 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 散布は 3 回以内)
チゲンサイ			収穫 7 日前まで			4 回以内 (は種時及び定植時 の土壌混和は合計 1 回以内、 散布は 3 回以内)
みつば			収穫 3 日前まで ただし、伏せ込 み栽培は伏せ込 み前まで			3 回以内
ばれいしょ	テントウムシダマシ類		収穫 7 日前まで			4 回以内 (植付時の土壌混和 は 1 回以内、 植付後は 3 回以内)
花き類・観葉植 物(ガーベラ、 カトレアを除く)	アブラムシ類		-	4 回以内		4 回以内
ガーベラ カトレア			6 回以内	6 回以内		

30. 登録番号 23130：ベニカ J スプレー

(クロチアニジン 0.0080%・フェンプロパトリン 0.010%液剤)

作物名	適用病虫害名	希釈 倍数	使用 時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の総使 用回数	フェンプロパトリンを 含む農薬の総 使用回数
花き類・観葉植 物 (ばら、きく、 ガーベラ、カトレアを 除く)	アブラムシ類 ハダニ類 クロバネキノコハエ類	原液	発生初期	4 回以内	散布	4 回以内	6 回以内
ばら	アブラムシ類 ハダニ類 チュウレンジハハチ クロバネキノコハエ類						
きく	アブラムシ類 ハモグリハエ類 ハダニ類 クロバネキノコハエ類						
ガーベラ	アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類 クロバネキノコハエ類			6 回以内		6 回以内	
カトレア	アブラムシ類 ハダニ類 クロバネキノコハエ類			6 回以内		6 回以内	
樹木類 (つつじ類、 かなめもち を除く)	ケムシ類 カイガラムシ類						
つつじ類	ケムシ類 ツツジゲンハイ カイガラムシ類						
かなめもち	ケムシ類 イラガ類 カイガラムシ類						

3 1. 登録番号 23196 : ワンリード S P 箱粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	クハアジンを 含む農薬の 総使用回数	スピネトラムを 含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ イネトノオヒムシ ツマグロヨコバイ イネツトムシ ニカメイチュウ フタホビコヤガ イネヒメハモグリハエ ウンカ類 コブノメイガ イネアザミウマ	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種 前	1 回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和す る。	4 回以内(移植時 までの処理は 1 回以内、本田で の散布、空中散 布、無人航空機 散布は合計 3 回 以内)	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当 り 50~100 g)					
		育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種 時(覆 土 前)~ 移植 当日		育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。		
		高密度には種する場 合は 1 kg/10 a (育苗箱(30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当 り 50~100 g)					
湛水直 播水稻	イネミズゾウムシ イネトノオヒムシ フタホビコヤガ ニカメイチュウ イネツトムシ	1 kg/10 a	は種 時	1 回	は種同 時施薬 機を用 いて土 中施用 する。	4 回以内(は種時 までの処理は 1 回以内、本田で の散布、空中散 布、無人航空機 散布は合計 3 回 以内)	3 回以内(は 種時までの 処理は 1 回 以内、本田 での散布は 2 回以内)

3 2. 登録番号 23206 : スタウトダントツ顆粒水和剤、
登録番号 23207 : ツインターボ顆粒水和剤
(クロチアニジン 15.0%・イソチアニル 20.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤の使用 回数	使用方法	クロチアニジンを含む農 薬の総使用回数	イソチアニルを含む 農薬の総使用 回数
稲	いもち病 イネノミドリムシ イネミズゾウムシ	100 g/10 a	移植時	1 回	ペースト肥料 に混合し 側条施肥 田植機で 施用する。	4 回以内(直播での は種時又は移植時 までの処理は 1 回 以内、本田での散 布、空中散布、無人 航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内(直播 での種時又は 移植時までの 処理は 1 回 以内、本田で は 2 回以内)

作物名	適用 病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用 時期	本剤 の使用 回数	使用 方法	クロチアニジンを含 む農薬の 総使用回数	イソチアニルを含 む農薬の総 使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネノミドリムシ イネミズゾウムシ	100 倍	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約 5 L)1 箱当たり 500 mL	移植 3 日 前~ 移植 当日	1 回	灌注	4 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田で の散布、空中 散布、無人航 空機散布は 合計 3 回以 内)	3 回以内(移 植時までの 処理は 1 回 以内、本田で は 2 回以内)
		高密度には種 する場合は 100g/10a(育苗 箱(30×60×3 cm、使用土壌約 5 L)1 箱当り 5~10 g(希釈倍 数 50~100 倍))						

3 3. 登録番号 23491 : ベニカベジフルVスプレー、
登録番号 24518 : ガーデンアシストWスプレー
(クロチアニジン 0.0080%・ミクロブタニル 0.0025%液剤)

(1) ベニカベジフルVスプレー

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロチアニジンを含む 農薬の 総使用回数	ミクロブタニルを 含む農薬の 総使用回数
りんご	アブラムシ類	原液	収穫 7 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	3 回以内
なし	ケムシ類		収穫 14 日 前まで				4 回以内
もも	カミシ類		収穫 7 日 前まで				
おうとう			収穫 3 日 前まで	2 回以内		2 回以内	3 回以内
かき	うどんこ病		収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内	5 回以内
きゅうり	アブラムシ類		収穫前日 まで			4 回以内 (育苗期の株元処 理及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、散布及び 定植後の株元散 布は合計 3 回以 内)	
なす	うどんこ病					3 回以内	3 回以内
トマト ミニトマト	コナジラミ類 葉かび病					2 回以内	3 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内、散 布及び定植後の 株元散布は合計 2 回以内)
ピーマン	アブラムシ類 うどんこ病		収穫 7 日 前まで	3 回以内		4 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内)	3 回以内
ねぎ	ネギアザミヤ		収穫 14 日 前まで			4 回以内	
わけぎ							
あさつき	アブラムシ類		収穫 3 日 前まで	4 回以内 (定植時の土壌混 和は 1 回以内、散 布は 3 回以内)			
花き類・ 観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類 うどんこ病		発生初期	4 回 以内		4 回以内	5 回以内
きく	アブラムシ類 白さび病						

(2) ガーデンアシストWスプレー

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用時期	本剤の 使用 回数	使用 方法	クロアジソンを含む 農薬の 総使用回数	ミクロブタールを 含む農薬の 総使用回数
なし	カミシ類	原液	収穫 14 日 前まで	3 回以内	散布	3 回以内	3 回以内
もも	カミシ類		収穫 7 日 前まで				4 回以内
おうとう			収穫 3 日 前まで	2 回以内		2 回以内	3 回以内
かき	うどんこ病		収穫 7 日 前まで	3 回以内		3 回以内	5 回以内
きゅうり	アブラムシ類 うどんこ病		収穫前日 まで			4 回以内 (育苗期の株元処 理及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、散布及 び定植後の株元 散布は合計 3 回 以内)	4 回以内
なす							4 回以内
トマト ミニトマト	コナジラミ類 葉かび病						3 回以内
ピーマン	アブラムシ類 うどんこ病			2 回以内		3 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内、散 布及び定植後の 株元散布は合計 2 回以内)	4 回以内
ねぎ	ネギアザミウマ		収穫 7 日 前まで	3 回以内		4 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内)	3 回以内
わけぎ							
花き類・ 観葉植物 (きくを除く)	アブラムシ類 うどんこ病		発生初期	4 回 以内		4 回以内	5 回以内
きく	アブラムシ類 白さび病						

3 4. 登録番号 23511：箱王子粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使用 回数	使用 方法	クロチアニジン を含む農 薬の総使 用回数	スピネトラム を含む農 薬の総使 用回数	イソチアニルを 含む農薬 の総使用 回数
湛水直 播水稻	いもち病 イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤカ イネツトムシ キリウジガガン ホ	1 kg/10 a	は種時	1 回	は種同 時施薬 機を用 いて土 中施用 する。	4 回以内 (は種時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (は種時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散布 は 2 回以 内)	3 回以内 (は種時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌 病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま 葉枯病菌) ウカ類 ツマクプロヨコバイ イネミズゾウムシ イネトヨイムシ ニカメイチュウ フタオビコヤカ コブノメイガ イネツトムシ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種前	1 回	育苗箱 の床土 又は覆 土に均 一に混 和する。	4 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散布 は 2 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土 前)~移植 当日		育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。			
		高密度には種 する場合は 1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
	イネヒメハモグリ バエ	育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	移植 3 日前~移 植当日					
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
苗腐敗症(も み枯細菌病	育苗箱 (30×60×3 cm、	は種前	育苗箱 の床土					

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用 時期	本剤 の使 用回 数	使用 方法	クロチアジンを 含む農 薬の総使 用回数	スピ®ネラム を含む農 薬の総使 用回数	イソチアニルを 含む農薬 の総使用 回数
稲 (箱育苗)	菌) 苗立枯細菌 病	使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g		1 回	又は覆 土に均 一に混 和する。	4 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散 布、空中 散布、無 人航空機 散布は合 計 3 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 での散布 は 2 回以 内)	3 回以内 (移植時ま での処理 は 1 回以 内、本田 では 2 回 以内)
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						
		育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50 g	は種時 (覆土前)		育苗箱 の上か ら均一 に散布 する。			
		高密度には種 する場合は 1kg/10a(育苗箱 (30×60×3 cm、 使用土壌約 5 L)1 箱当り 50~100 g)						

3 5. 登録番号 23518 : カイガラムシエアゾール

(クロチアニジン 0.030%・フェンプロパトリン 0.020%エアゾール)

作物名	適用 病虫害名	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	フェンプロパトリンを含む 農薬の総使用回数
花き類・観葉植物 樹木類	カイガラムシ類	4 回以内	噴射液が均一に 付着するように 約 30 cm 離れた 所から数回断続 して噴射する。	4 回以内	6 回以内

3 6. 登録番号 23602 : ハスラー R X 粉剤 D L

(クロチアニジン 0.50%・メトキシフェノジド 0.50%・バリダマイシン 0.30%・フェリムゾン 2.0%・フサライド 1.5%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) ウンカ類 ツマグロヨコバイ コブノメカ イネツトムシ フタホビコヤカ ニカメイチュウ カメムシ類	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前 まで	2 回以内	散布
	内穎褐変病 変色米(アルナリア菌) 変色米(カーブラリア菌) 稲こうじ病	4 kg/10 a			

クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	メトキシフェノジドを含む農薬の総使用回数	バリダマイシンを含む農薬の総使用回数	フェリムゾンを 含む農薬の 総使用回数	フサライドを含む農薬の 総使用回数
4 回以内 (直播での種時又は移植時までの処理は 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計 3 回以内)	3 回以内	6 回以内 (育苗箱灌注は 1 回以内、 本田では 5 回以内)	2 回以内	3 回以内

37. 登録番号 23603：チームワーク粉剤DL

(クロチアニジン 0.50%・バリダマイシン 0.30%・フサライド 2.5%粉剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
稲	いもち病 紋枯病 ウンカ類 ツマグロヨコバイ イネツトムシ フタホビコヤカ ニカメイチュウ カメムシ類	3~4 kg/10 a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	バリダマイシンを含む 農薬の総使用回数	フサライドを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (直播での種時又は移植時 までの処理は 1 回以内、 本田での散布、空中散布、無人 ヘリ散布は合計 3 回以内)	6 回以内 (育苗箱灌注は 1 回以内、 本田では 5 回以内)	3 回以内

38. 登録番号 23636 : マッキーノ
(クロチアニジン 0.066%複合肥料)

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
かんしょ	コガネムシ類	45~67.5 kg /10 a	植付前	1回	全面処理土壌混和	3回以内 (植付前の処理は1 回以内、 植付後は2回以内)
					作条処理土壌混和	

3 9. 登録番号 23732 : フジワンドントツ粒剤

(クロチアニジン 1.5%・イソプロチオラン 12.0%粒剤)

作物名	適用 病虫害名	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロチアニジン を含む農薬の 総使用回数	イソプロチオラン を含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 イネミズウムシ イネトオムシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタホビコヤガ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約5 L) 1箱当り 50 g	緑化期 ～ 移植当日	1回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から均 一に散布 する	4回以内 (移植時ま での処理は1回 以内、本田で の散布、空中 散布、無人航 空機散布は合 計3回以内)	3回以内 (移植前は1回 以内、本田で は2回以内)

作物名	使用目的	使用量	使用 時期	本剤の 使用 回数	使用方法	クロチアニジン を含む農薬の 総使用回数	イソプロチオラン を含む農薬の 総使用回数
稲 (箱育苗)	根の伸長及 び発根促進	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土 壌約5 L) 1箱当り 50 g	緑化始期	1回	本剤の 所定量を 育苗箱の 上から均 一に散布 する	4回以内 (移植時ま での処理は1回 以内、本田で の散布、空中 散布、無人航 空機散布は合 計3回以内)	3回以内 (移植前は1回 以内、本田で は2回以内)

40. 登録番号 23813：ナイスパートナー
(クロチアニジン 20.0%水和剤)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
たばこ	モモアカアブラムシ	5000 倍	25~180 L /10 a	収穫 20 日 前まで	1 回	散布	1 回

4 1. 登録番号 23890 : 箱大臣粒剤

(クロチアニジン 1.5%・イソチアニル 2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数	フラメトピルを含む農薬の総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 イネミズウムシ イネトノヨイシ	1 kg/10 a	移植時	1回	側条施用	4回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(直播では種時又は移植時までの処理は1回以内)
湛水直播水稻	いもち病 紋枯病 イネミズウムシ イネトノヨイシ キウジガガンボ	1 kg/10 a	は種時	1回	は種同時施薬機を用いて土中施用する	4回以内(は種時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(は種時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(は種時までの処理は1回以内)
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 紋枯病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) もみ枯細菌病 内穎褐変病 イネミズウムシ イネトノヨイシ ウンカ類 ツマグロヨコバイ ニカメイチュウ フタオビコヤカ	育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	移植 7日 前～ 移植 当日	1回	育苗箱の上から均一に散布する	4回以内(移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)	2回以内(移植時までの処理は1回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱 (30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50～100 g)						

4 2. 登録番号 23945 : ベジリード粒剤

(クロチアニジン 1.5%・スピネトラム 0.50%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	スピネトラムを含む農薬の総使用回数
キャベツ	アブラムシ類 コナガ アオムシ ハイマダラノメイガ ネキリムシ類 アザミウマ類	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 30~50 g	育苗期 後半	1 回	散布	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内)	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内)
はくさい	アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ アザミウマ類	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 30~50 g	育苗期 後半	1 回	散布	5 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内、定植後の株元散布は 2 回以内)	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内)
カリフラワー	アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 30~50 g	育苗期 後半	1 回	散布	1 回	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内)
ブロッコリー	アブラムシ類 コナガ ハイマダラノメイガ	セル成型育苗トレイ 1 箱またはペーパーポット 1 冊(30×60 cm、使用土壌約 1.5~4 L)当り 30~50 g	育苗期 後半	1 回	散布	4 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 3 回以内)	3 回以内(定植時までの処理は 1 回以内、定植後の散布は 2 回以内)

4 3. 登録番号 24015：ダントツリンバー顆粒水和剤

(クロチアニジン 16.0%・フラメトピル 12.5%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
てんさい	根腐病 テンサイトビームシ アブラムシ類 テンサイモグリハナバエ	200 倍	1 L/ペーパーポット 1 冊(3 L/m ²)	定植前	1 回	灌注

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	フラメトピルを含む 農薬の総使用回数
4 回以内 (定植前の灌注は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	4 回以内 (定植前の灌注は 1 回以内、 散布は 3 回以内)

4 4. 登録番号 24027 : ハコナイト粒剤

(クロチアニジン 1.5%・フィプロニル 1.0%・イソチアニル 2.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロチアニジンを含む農薬の総使用回数	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	イソチアニルを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) 内穎褐変病 イネミズゾウムシ ツマグロヨコバイ ウンカ類 コブノメカ イコノ類 イネトヨイムシ フタホシコヤカ ニカメテユ イネツトムシ	育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種前	1回	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する	4回以内 (移植時までの処理は1回以内、本田での散布、空中散布、無人航空機散布は合計3回以内)	1回	3回以内(移植時までの処理は1回以内、本田では2回以内)
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50~100 g)						
		育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5 L)1箱当り 50 g	は種時(覆土前)~移植当日		育苗箱の上から均一に散布する			
		高密度には種する場合は1 kg/10 a(育苗箱(30×60×3 cm、使用土壌約5L)1箱当り 50~100 g)						

4 5. 登録番号 24117：ベニカXネクストスプレー

(還元澱粉糖化物 0.60%・クロチアニジン 0.0080%・ピリダリル 0.010%・ペルメトリン 0.010%・マンデストロビン 0.020%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希 釈 倍 数	使 用 時 期	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 方 法	還元澱粉 糖化物を 含む農薬 の総使用 回数	クロチアニジン を含む 農薬の 総使用回数	ピリダリル を含む 農薬の 総使用回数	ペルメトリン を含む 農薬の 総使用回数	マンデスロビン を含む 農薬の 総使用回数					
なす	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類 ハスモンヨトリ オオタバコガ テントウムシダマシ類 ハモクテリハダエ類	原 液	収 穫 前 日 ま で	3 回 以 内	散 布	—	4 回以内 (育苗期の 株元処理 及び 定植時の 土壌混和は 合計 1 回以 内、 散布及び 定植後の 株元散布は 合計 3 回以 内)	4 回以内	3 回以内	3 回以内					
トマト	うどんこ病 オオタバコガ コジロアミ類														
きゅうり	うどんこ病 アブラムシ類 ウリハムシ														
メロン	アブラムシ類							5 回以内							
キャベツ	菌核病 アオムシ コナガ ハスモンヨトリ オオタバコガ		収 穫 7 日 前 ま で	2 回 以 内			5 回以内 (定植時ま での処理は 1 回以内、 定植後の 散布は 2 回以内、 定植後の株 元散布は 2 回以内)	2 回以内	5 回以内 (株元灌注は 2 回以内)						
はくさい	アオムシ						5 回以内 (定植時ま での処理は 1 回以内、 定植後の 散布は		5 回以内						
レタス	ハスモンヨトリ アブラムシ類														

作物名	適用病害虫名	希 釈 倍 数	使 用 時 期	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 方 法	還元澱粉 糖化物を 含む農薬 の総使用 回数	クハアジンを 含む 農薬の 総使用回数	ピリダリル を含む 農薬の 総使用回数	ペルメトリン を含む 農薬の 総使用回数	マンデストロビン を含む 農薬の 総使用回数		
リーフレタス	アブラムシ類	原 液	収穫 14 日前 まで	2 回 以内	散 布	—	2 回以内、 定植後の 株元散布は 2 回以内)	2 回以内	2 回以内	3 回以内		
シトマ	うどんこ病 オオタバコガ コジラミ類		収穫前 日まで				4 回以内 (育苗期の 株元処理 及び 定植時の 土壌混和は 合計 1 回以 内、 散布及び 定植後の 株元散布は 合計 3 回以 内)		4 回以内(株 元散布は 1 回以内、散 布および噴 射は合計 3 回以内)			
花き類・ 観葉植物 (ばら、ガー ベラ、きく バーベナ、 パンジー、 花月を除 く)	うどんこ病 アブラムシ類 アザミヤカ類 ハスモンヨトリ ハダニ類		発生 初期	4 回 以内			4 回以内	4 回以内	6 回以内	4 回以内		
ばら	うどんこ病 黒星病 アザミヤカ類 アブラムシ類 オオタバコガ クロゲツバチョッキリ コガネムシ類成虫 ゴマダラカミキリ成虫 チュウレンジハバチ ハスモンヨトリ ハダニ類											
ガーベラ	うどんこ病 アザミヤカ類 アブラムシ類 ハスモンヨトリ ハダニ類 ハモグリバエ類											

作物名	適用病害虫名	希 積 倍 数	使 用 時 期	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 方 法	還元澱粉 糖化物を 含む農薬 の総使用 回数	クロチアジンを 含む 農薬の 総使用回数	ピリダリル を含む 農薬の 総使用回数	ペルメトリン を含む 農薬の 総使用回数	マンデスロビン を含む 農薬の 総使用回数
きく	うどんこ病 白さび病 アブラムシ類 アザミヤカ類 ハスモンヨトウ ハダニ類	原 液	発 生 初 期	4 回 以 内	散 布	—	4 回以内	4 回以内	6 回以内	4 回以内
パンジー	うどんこ病 灰色かび病 アザミヤカ類 アブラムシ類 ハスモンヨトウ ハダニ類 クロハネキノコバエ類									
バーベナ	うどんこ病 アザミヤカ類 アブラムシ類 ハスモンヨトウ ヨナヅミ類 ハダニ類									
花月	うどんこ病 アザミヤカ類 アブラムシ類 ハスモンヨトウ ハダニ類 ミカンコナカイガラムシ									
樹木類 (つつじ類、 ひいらぎも くせい、ま さき、さく らを除く)	うどんこ病 アブラムシ類 ケムシ類 カイガラムシ類			6 回 以 内			6 回以内	6 回以内		6 回以内
つつじ類	うどんこ病 アブラムシ類 ケムシ類 カイガラムシ類 ツツジゲンバイ									

作物名	適用病害虫名	希 釈 倍 数	使 用 時 期	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 方 法	還元澱粉 糖化物を 含む農薬 の総使用 回数	クロチアジンを 含む 農薬の 総使用回数	ピリダリル を含む 農薬の 総使用回数	ペルメトリン を含む 農薬の 総使用回数	マンデスロビン を含む 農薬の 総使用回数
ひいらぎ もくせい	うどんこ病 アブラムシ類 ケムシ類 カイガラムシ類 ハダニ類	原 液	発 生 初 期	6 回 以内	散 布	—	6 回以内	6 回以内	6 回以内	6 回以内
まさき	うどんこ病 アブラムシ類 ケムシ類 カイガラムシ類 アオハダハダニ									
さくら	うどんこ病 アブラムシ類 ケムシ類 カイガラムシ類									
	クビアカツヤカミキリ		成虫 発生 初期							

4 6. 登録番号 24118：ベニカVフレッシュスプレー

(還元澱粉糖化物 0.60%・クロチアニジン 0.0080%・マンデストロビン 0.020%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希 釈 倍 数	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	還元澱粉糖 化物を含む 農薬の総使用 回数	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回 数	マンデスロピンを 含む農薬 の総使用回 数			
りんご	うどんこ病 ケムシ類	原 液	収穫前日 まで	3 回 以内	散布	—	3 回以内	3 回以内			
ぶどう	コナカイラムシ類 コガネムシ類成虫			2 回 以内			2 回以内				
おうとう	カメムシ類										
もも ネクタリン	アブラムシ類		収穫 7 日前 まで	3 回 以内					3 回以内		
すもも			収穫 3 日前 まで								
かき	コナカイラムシ類		収穫 7 日前 まで								
なし	うどんこ病 ケムシ類		収穫前日 まで								4 回以内 (育苗期の株元処 理及び定植時の 土壌混和は合計 1 回以内、 散布及び定植後 の株元散布は 合計 3 回以内)
うめ	ケムシ類										
なす	うどんこ病 アブラムシ類 ハダニ類 ハモグリバエ類 テントウムシダマシ類										
トマト ミニトマト	うどんこ病 アブラムシ類 コナジラミ類										
きゅうり	うどんこ病 アブラムシ類 コナジラミ類 ウリハムシ										
メロン	アブラムシ類										
すいか	アブラムシ類 うどんこ病										

作物名	適用病害虫名	希 釈 倍 数	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	還元澱粉糖 化物を含む 農薬の総使 用回数	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回 数	マンデスロピドン を含む農薬 の総使用回 数
キャベツ	菌核病 アオムシ	原 液	収穫 7 日前 まで	2 回 以内	散布	—	5 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、定植 後の株元散布は 2 回以内)	3 回以内
レタス	アブラムシ類						5 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、 定植後の株元散 布は 2 回以内)	
はくさい	アブラムシ類 アオムシ		収穫 3 日前 まで	5 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、 定植後の株元散 布は 2 回以内)				
非結球レタス	アブラムシ類		収穫 3 日前 まで	2 回 以内			5 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内、 定植後の株元散 布は 2 回以内)	
しゅんぎく				3 回 以内			4 回以内 (は種時の土壌混 和は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	
いんげんまめ			収穫前日 まで				3 回以内	
さやえんどう	アブラムシ類 ハダニ類		収穫 3 日前 まで	3 回 以内			4 回以内(は種時 の処理は 1 回以 内、は種後は 3 回以内)	
えだまめ	カメムシ類						4 回以内 (は種時の処理は 1 回以内、 は種後は 3 回以 内)	
こまつな	アブラムシ類						4 回以内 (は種時の土壌混 和は 1 回以内、 散布は 3 回以内)	
みずな	ダイコンハムシ		収穫 7 日前 まで					

作物名	適用病害虫名	希 釈 倍 数	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用 方法	還元澱粉糖 化物を含む 農薬の総使 用回数	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回 数	マンデスプロピオン を含む農薬 の総使用回 数	
ピーマン	アブラムシ類	原 液	収穫前日 まで	2回 以内	散布	—	3回以内(定植時 までの処理は1 回以内、散布及 び定植後の株元 散布は合計2回 以内)	3回以内	
ブロッコリー	アブラムシ類		収穫前日 まで	3回 以内			7回以内(定植 時までの処理 は1回以内、 定植後の散布 は3回以内、 定植後の株元 散布は3回以 内)		
トマト、ミニトマト	アブラムシ類 コジラミ類 ハモグリバエ類 うどんこ病						4回以内(育苗 期の株元処理 及び定植時の 土壌混和は合 計1回以内、 散布及び定植 後の株元散布 は合計3回以 内)		
花き類・観葉 植物(ばらを 除く)	アブラムシ類		発生初期	4回 以内			4回以内	4回以内	
ばら	うどんこ病 黒星病 アブラムシ類 チュウレンジハバチ アザミウマ類								
樹木類 (つつじ類、 まさき、 さるすべり を除く)	ケムシ類			6回 以内			6回以内	6回以内	6回以内
つつじ類	ケムシ類 ツツジグンバイ								
まさき さるすべり	うどんこ病 ケムシ類								

4 7. 登録番号 24274 : ベニカ X ガード粒剤
(クロチアニジン 0.10%・B T 10.0%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	クロチアニジン を含む 農薬の 総使用回数	BT を含む 農薬の 総使用回数		
きゅうり	うどんこ病	10 g/株	定植後 但し、 収穫前 日まで	3 回 以内	株元散布	4 回以内 (育苗期の株元処理 及び定植時の土壌 混和は合計 1 回以 内、 散布及び定植後の 株元散布は合計 3 回以内)	—		
	アブラムシ類	5~10 g/株							
トマト ミニトマト	コナジラミ類	5 g/株							
	うどんこ病	10 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和				
なす			アブラムシ類	5~10 g/株	定植後 但し、 収穫前 日まで			3 回 以内	株元散布
キャベツ	アオムシ	10 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和			3 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 2 回以内)	
	はくさい	アブラムシ類 ハイマダラノメカイ				5 g/株		5 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、定植 後の散布は 2 回以 内、 定植後の株元散布 は 2 回以内)	
ブロッコリー								アブラムシ類	4 回以内 (定植時までの処理 は 1 回以内、 定植後の散布は 3 回以内)
だいこん	アブラムシ類	15 g/m ²			は種時	播溝処理 土壌混和		3 回以内 (は種時の土壌混和 は 1 回以内、 は種後は 2 回以内)	
ばれいしょ					植付時	植溝処理 土壌混和		4 回以内 (植付時の土壌混和 は 1 回以内、 植付後は 3 回以内)	
ねぎ			ネギアザミウマ	収穫 3 日前ま で	4 回 以内	株元散布		4 回以内 (定植時までの処 理は 1 回以内)	
いちご	うどんこ病 アブラムシ類	5 g/株	定植時	1 回	植穴処理 土壌混和	1 回			

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤 の 使用 回数	使用方法	クロチアニジン を含む 農薬の 総使用回数	BT を含む 農薬の 総使用回数
ピーマン	アブラムシ類	10 g/株	定植後 但し、 収穫前日 まで	2回 以内	株元散布	3回以内 (定植時までの処理 は1回以内、散布 及び定植後の株元 散布は合計2回以 内)	—
花き類・ 観葉植物 (ばら、 ガーベラ、き く を除く)	アブラムシ類	5~10 g/株 (但し、100 g /m ² まで)	発病前～ 発生初期	4回 以内	生育期 株元散布	4回以内	
	灰色かび病		発病前				
	うどんこ病	10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)					
ばら	うどんこ病 黒星病	10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)	発病前				
	灰色かび病	5~10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)					
	アブラムシ類	5~10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)	発生前～ 発生初期				
	コガネムシ類幼虫 アザミウマ類 クロゲツブチョッキリ チュウレンジハバチ ハバラシロカイガラムシ	10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)					
ガーベラ	灰色かび病	5~10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)	発病前			6回以内	
	アブラムシ類		発生前～ 発生初期				
	ハモグリバエ類	10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)	発病前				
	うどんこ病						
きく	アブラムシ類	5~10 g/株 (但し、100 g/m ² まで)	発生前～ 発生初期			4回以内	
	灰色かび病		発病前				

48. 登録番号 24452：ネキリストー
(クロチアニジン 0.25%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
はくさい	アブラムシ類	3~6 kg/10a	収穫30日 前まで	2回以内	株元 散布	5 回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は 2回以内、定植後の株元 散布は2回以内)
	コオロギ類 ネキリムシ類 ダンゴムシ	3 kg/10a				
レタス	アブラムシ類	3~6 kg/10a				
	コオロギ類 ネキリムシ類 ダンゴムシ	3 kg/10a				
非結球レタス	アブラムシ類	3~6 kg/10a	収穫前日 まで			
	コオロギ類 ネキリムシ類 ダンゴムシ	3 kg/10a				
キャベツ	アブラムシ類	3~6 kg/10a	収穫30日 前まで			
	コオロギ類 ネキリムシ類 ダンゴムシ	3 kg/10a				
だいこん	アブラムシ類	6 kg/10a	収穫前日 まで	3回以内		7 回以内 (定植時までの処理は1 回以内、定植後の散布は 3回以内、定植後の株元 散布は3回以内)
	コオロギ類 ネキリムシ類 ダンゴムシ	3 kg/10a				
ブロッコリー	アブラムシ類	3~6 kg/10a				
	コオロギ類 ネキリムシ類 ダンゴムシ	3 kg/10a				

49. 登録番号 24555：ネマトリンパワーD粒剤、
登録番号 24556：ダブルバスター粒剤
(クロチアニジン 0.15%・ホスチアゼート 1.5%粒剤)

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
かんしょ	ネコブセンチュウ コガネムシ類	20~30 kg/10 a	植付前	1 回	全面土壌混和
		20 kg/10 a			作条土壌混和

クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数	ホスチアゼートを含む 農薬の総使用回数
3回以内 (植付前の処理は1回以内、 植付後は2回以内)	2回以内 (苗床は1回以内、 本圃は1回以内)

50. 登録番号 24557：住化フルスウィングW、
登録番号 24558：バウンスバックWDG
(カルタップ 2.0%・クロチアニジン 45.0%水和剤)

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法
芝	コガネシジミ類幼虫	1000~2000倍	0.2 L/m ²	発生初期	4回以内	散布
	シバツトガ タマヤカ スジキリヨトリ コガネシジミ類幼虫 ミミズ 糞塚形成阻害 シバオサザウムシ	1000倍	0.1 L/m ²			
		5000倍	0.5 L/m ²			

カルタップを含む 農薬の総使用回数	クロチアニジンを含む 農薬の総使用回数
4回以内	4回以内

別添2：暴露量の推計（クロチアニジンを有効成分として含む製剤）

目次	頁
1. 登録番号20733：フルスウィング、 登録番号24428：住化フルスウィング (クロチアニジン50.0%水和剤)	4
2. 登録番号20798：ダントツ水溶剤、 登録番号21501：ベニカ水溶剤、 登録番号21646：協友ダントツ水溶剤 (クロチアニジン16.0%水溶剤)	5
3. 登録番号20800：ダントツ粒剤、 登録番号21502：ベニカ粒剤、 登録番号21645：協友ダントツ粒剤 (クロチアニジン0.50%粒剤)	19
4. 登録番号20801：ダントツ粉剤D L、 登録番号21595：協友ダントツ粉剤D L (クロチアニジン0.15%粉剤)	27
5. 登録番号20804：ハスラー粉剤D L (カルタップ2.0%・クロチアニジン0.15%・バリダマイシン0.30%・フェリムゾン 2.0%・フサライド1.5%粉剤)	28
6. 登録番号20827：ダントツ箱粒剤、 登録番号21594：協友ダントツ箱粒剤 (クロチアニジン1.5%粒剤)	29
7. 登録番号21186：ブラシndanントツ粉剤D L (クロチアニジン0.15%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤)	30
8. 登録番号21218：ブラシndanントツH粉剤D L (クロチアニジン0.50%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤)	31
9. 登録番号21226：ダントツオリゼメート10箱粒剤 (クロチアニジン1.5%・プロベナゾール10.0%粒剤)	32
10. 登録番号21242：ダントツH粉剤D L、 登録番号21627：協友ダントツH粉剤D L (クロチアニジン0.5%粉剤)	33
11. 登録番号21258：ダントツフロアブル、 登録番号21547：協友ダントツフロアブル、 登録番号22101：ダントツEXフロアブル (クロチアニジン20.0%水和剤)	34
12. 登録番号21267：モリエートS C (クロチアニジン30.0%水和剤)	36
13. 登録番号21624：ビームダントツH粉剤D L (クロチアニジン0.50%・トリシクラゾール1.0%水和剤)	37
14. 登録番号21702：ブラシndanントツフロアブル (クロチアニジン6.6%・フェリムゾン15.0%・フサライド15.0%水和剤)	38
15. 登録番号21733：オルトランDX粒剤 (アセフェート2.5%・クロチアニジン0.25%粒剤)	39
16. 登録番号21974：ラブサイドダントツフロアブル (クロチアニジン6.6%・フサライド20.0%水和剤)	40
17. 登録番号22122：ワンリード箱粒剤08、 登録番号22174：クミアイワンリード箱粒剤08 (クロチアニジン0.80%粒剤)	41
18. 登録番号22257：ノンブラスダントツフロアブル (クロチアニジン6.6%・トリシクラゾール8.0%・フェリムゾン15.0%水和剤)	42

19. 登録番号22391：モリエートマイクロカプセル、 登録番号22392：ヤシマモリエートマイクロカプセル (クロチアニジン7.5%マイクロカプセル剤)	43
20. 登録番号22506：ベニカXファインスプレー (クロチアニジン0.0080%・フェンプロパトリン0.010%・メパニピリム0.020% 水和剤)	44
21. 登録番号22576：ベニカXファインエアゾール (クロチアニジン0.032%・フェンプロパトリン0.020%・メパニピリム0.040% エアゾル)	45
22. 登録番号22593：ベニカ液剤、 登録番号22876：ベニカマツケア (クロチアニジン2.0%液剤)	46
23. 登録番号22672：ベニカケムシエアゾール (クロチアニジン0.032%・フェンプロパトリン0.020%エアゾル)	49
24. 登録番号22698：スタウトダントツ箱粒剤 (クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%粒剤)	50
25. 登録番号22699：スタウトダントツ箱粒剤08、 登録番号22700：ツインターボ箱粒剤08 (クロチアニジン0.80%・イソチアニル2.0%粒剤)	51
26. 登録番号22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤 (クロチアニジン1.5%・クロラントラニリブロール0.75%・イソチアニル2.0% 粒剤)	52
27. 登録番号22891：ノンブラスバリダダントツフロアブル (クロチアニジン6.6%・トリシクラゾール8.0%・バリダマイシン5.0%・ フェリムゾン15.0%水和剤)	53
28. 登録番号23033：箱いり娘粒剤 (クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.5%・イソチアニル2.0%・フラメトピル 4.0%粒剤)	54
29. 登録番号23121：ベニカベジフルスプレー、 登録番号23197：ガーデンアシストVスプレー (クロチアニジン0.0080%液剤)	55
30. 登録番号23130：ベニカJスプレー (クロチアニジン0.0080%・フェンプロパトリン0.010%液剤)	56
31. 登録番号23196：ワンリードSP箱粒剤 (クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%粒剤)	57
32. 登録番号23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、 登録番号23207：ツインターボ顆粒水和剤 (クロチアニジン15.0%・イソチアニル20.0%水和剤)	58
33. 登録番号23491：ベニカベジフルVスプレー、 登録番号24518：ガーデンアシストWスプレー (クロチアニジン0.0080%・ミクロブタニル0.0025%液剤)	59
34. 登録番号23511：箱王子粒剤 (クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%・イソチアニル2.0%粒剤)	60
35. 登録番号23518：カイガラムシエアゾール (クロチアニジン0.030%・フェンプロパトリン0.020%エアゾル)	61
36. 登録番号23602：ハスラーRX粉剤DL (クロチアニジン0.50%・メトキシフェノジド0.50%・バリダマイシン0.30%・ フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤)	62
37. 登録番号23603：チームワーク粉剤DL (クロチアニジン0.50%・バリダマイシン0.30%・フサライド2.5%粉剤)	63
38. 登録番号23636：マッキーノ (クロチアニジン0.066%複合肥料)	64
39. 登録番号23732：フジワンドントツ粒剤 (クロチアニジン1.5%・イソプロチオラン12.0%粒剤)	65
40. 登録番号23813：ナイスパートナー (クロチアニジン20.0%水和剤)	66

4 1. 登録番号23890：箱大臣粒剤 (クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤)	67
4 2. 登録番号23945：ベジリード粒剤 (クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%粒剤)	68
4 3. 登録番号24015：ダントツリンバー顆粒水和剤 (クロチアニジン16.0%・フラメトピル12.5%水和剤)	69
4 4. 登録番号24027：ハコナイト粒剤 (クロチアニジン1.5%・フィプロニル1.0%・イソチアニル2.0%粒剤)	70
4 5. 登録番号24117：ベニカXネクストスプレー (還元澱粉糖化物0.60%・クロチアニジン0.0080%・ピリダリル0.010%・ ペルメトリン0.010%・マンデストロビン0.020%水和剤)	71
4 6. 登録番号24118：ベニカVフレッシュスプレー (還元澱粉糖化物0.60%・クロチアニジン0.0080%・マンデストロビン0.020% 水和剤)	72
4 7. 登録番号24274：ベニカXガード粒剤 (クロチアニジン0.10%・B T 10.0%粒剤)	73
4 8. 登録番号24452：ネキリスター (クロチアニジン0.25%粒剤)	75
4 9. 登録番号24555：ネマトリンパワーD粒剤、 登録番号24556：ダブルバスター粒剤 (クロチアニジン0.15%・ホスチアゼート1.5%粒剤)	76
5 0. 登録番号24557：住化フルスウィングW、 登録番号24558：バウンスバックWDG (カルタップ2.0%・クロチアニジン45.0%水和剤)	77

＊：本資料は、製剤のハザード区分に応じた防護装備も考慮して作成した。

1. 登録番号20733：フルスウィング、登録番号24428：住化フルスウィング（クロチアニジン50.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24428
	種類・名称	クロチアニジン水和剤(住化フルスウィング)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	50 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	顆粒水和剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	1000	50
	1500	50
	5000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	芝	5000 倍, 1000 L/10a／発生初期／散布／4 回	5000	液剤_芝（手散布）						20.9	52.2	21.3	20.9	
2	芝	1000 倍, 200 L/10a／発生初期／散布／4 回	1000	液剤_芝（手散布）						20.9	52.2	21.3	20.9	
3	芝	1500 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	1500	液剤_芝（手散布）						20.9	52.2	21.3	20.9	
4	芝	1000 倍, 100 L/10a／発生初期／散布／4 回	1000	液剤_芝（手散布）						10.4	26.1	10.6	10.4	
5	芝	5000 倍, 500 L/10a／発生初期／散布／4 回	5000	液剤_芝（手散布）						10.4	26.1	10.6	10.4	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2. 登録番号20798：ダントツ水溶剤、登録番号21501：ペニカ水溶剤、登録番号21646：協友ダントツ水溶剤（クロチアニジン16.0%水溶剤）

① 製剤情報	登録番号	20798
	種類・名称	クロチアニジン水溶剤 (ダントツ水溶剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	16 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	顆粒水和剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
任意の面積を設定（げっきつ）

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	20	50
	24	50
	40	50
	48	50
	50	50
	100	50
	200	50
	400	50
	1000	50
	2000	50
	4000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	4000	液剤_水稲（手散布）						8.8	28.6	8.9	11.4	
1*	稲	4000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	4000	液剤_水稲（機械散布）						3	9.7	3	3.9	
2	稲	1000 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	1000	液剤_水稲（手散布）						5.8	19	6	7.6	
2*	稲	1000 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	1000	液剤_水稲（機械散布）						2	6.4	2	2.6	
3	稲（育苗箱）	200 倍, 0.5 L/箱／移植3日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／ 4 回	200	液剤_水稲_育苗箱（育苗箱）						4.9	8.4	5	3.4	
4	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	48.1	245.4	49.1	98.2	
4*	りんご	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			37.7	164.1	38.5	65.6	
5	なし	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／ 3 回	2000	液剤_果樹（棚） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	56.8	243.4	58	97.4	

5*	なし	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（棚） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	37.9	237.1	38.7	94.8	
6	もも	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	19.6	245.4	20	98.2	
6*	もも	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			15.4	164.1	15.7	65.6	
7	ネクタリン	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	19.6	245.4	20	98.2	
7*	ネクタリン	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			15.4	164.1	15.7	65.6	
8	おうとう	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	13.1	245.4	13.4	98.2	
8*	おうとう	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			10.3	164.1	10.5	65.6	
9	うめ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	19.6	245.4	20	98.2	
9*	うめ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			15.4	164.1	15.7	65.6	
10	すもも	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	19.6	245.4	20	98.2	
10*	すもも	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			15.4	164.1	15.7	65.6	
11	あんず	4000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	4000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			17.1	214.2	17.5	85.7	
11*	あんず	4000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	4000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			7.7	82.1	7.9	32.8	
12	ぶどう	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（棚） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	40.6	243.4	41.4	97.4	
12*	ぶどう	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（棚） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	28.4	237.1	29	94.8	
13	かんきつ（苗木）	20 倍, 10 L/10a／春芽・夏芽又は秋芽の発生前／樹幹散布／ 3 回	20	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 防除衣	マスク 1	不浸透性 手袋	35.3	235.2	36	94.1	

13*	かんきつ（苗木）	20 倍, 10 L/10a／春芽・夏芽又は秋芽の発生前／樹幹散布／3 回	20	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			46.9	234.5	47.8	93.8	
14	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	12.8	245.4	13	98.2	
14*	かき	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			11.8	164.1	12.1	65.6	
15	いちじく	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	12.8	245.4	13	98.2	
15*	いちじく	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			11.8	164.1	12.1	65.6	
16	びわ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	48.1	245.4	49.1	98.2	
16*	びわ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			37.7	164.1	38.5	65.6	
17	なつめ	4000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	4000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			11.1	214.2	11.4	85.7	
17*	なつめ	4000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	4000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			5.9	82.1	6	32.8	
18	さんしょう（果実）	4000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	4000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			7.4	214.2	7.6	85.7	
18*	さんしょう（果実）	4000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	4000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			3.9	82.1	4	32.8	
19	オリーブ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	8.5	245.4	8.7	98.2	
19*	オリーブ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			7.9	164.1	8	65.6	
20	オリーブ（葉）	4000 倍, 700 L/10a／収穫120日前まで／散布／2 回	4000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			7.4	214.2	7.6	85.7	
20*	オリーブ（葉）	4000 倍, 700 L/10a／収穫120日前まで／散布／2 回	4000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		長ズボン・長袖 の作業衣			3.9	82.1	4	32.8	
21	マンゴー	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	12.8	245.4	13	98.2	

21*	マンゴー	2000 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			11.8	164.1	12.1	65.6	
22	パパイヤ	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	12.8	245.4	13	98.2	
22*	パパイヤ	2000 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			11.8	164.1	12.1	65.6	
23	ブルーベリー	2000 倍, 700 L/10a／収穫45日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	24.5	245.4	25	98.2	
23*	ブルーベリー	2000 倍, 700 L/10a／収穫45日前まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			19.7	164.1	20.1	65.6	
24	キウイフルーツ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（棚） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	21.1	243.4	21.5	97.4	
24*	キウイフルーツ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_果樹（棚） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	17.1	237.1	17.4	94.8	
25	パイナップル（苗木）	2000 倍, － L/10a／植付前／10秒間苗浸漬／1 回	2000	－	部会決定のとおり、調製時の不浸透性手袋、施用時の不浸透性手袋及びゴム長靴の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
26	未成熟とうもろこし	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
27	きゅうり	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						19.7	49.2	20.1	19.7	
28	メロン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						19.7	49.2	20.1	19.7	
29	メロン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.9	73.1	5	29.2	
29*	メロン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	3.9	1.6	1.5	
30	すいか	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.9	73.1	5	29.2	
30*	すいか	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	3.9	1.6	1.5	
31	にがうり	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						19.7	49.2	20.1	19.7	

32	かぼちゃ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.9	73.1	5	29.2	
32*	かぼちゃ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	3.9	1.6	1.5	
33	とうがん	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.9	73.1	5	29.2	
33*	とうがん	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	3.9	1.6	1.5	
34	食用へちま	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						19.7	49.2	20.1	19.7	
35	なす	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						10.2	49.2	10.4	19.7	
36	トマト	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						10.2	49.2	10.4	19.7	
37	ミニトマト	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						10.2	49.2	10.4	19.7	
38	ピーマン	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						7.6	49.2	7.8	19.7	
39	とうがらし類	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						7.6	49.2	7.8	19.7	
40	とうがらし類	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						1.8	73.1	1.9	29.2	
40*	とうがらし類	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.6	3.9	0.6	1.5	
41	はくさい	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						9.1	109.6	9.3	43.8	
41*	はくさい	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.2	19.3	3.3	7.7	
42	はなっこりー	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						5.5	109.6	5.6	43.8	
42*	はなっこりー	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.9	19.3	2	7.7	

43	かぶ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.4	109.6	2.5	43.8	
43*	かぶ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
44	こまつな	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						7.3	109.6	7.5	43.8	
44*	こまつな	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
45	非結球あぶらな科葉菜類 （こまつな、チンゲンサイ、な ばな類、みずなを除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						5.5	109.6	5.6	43.8	
45*	非結球あぶらな科葉菜類 （こまつな、チンゲンサイ、な ばな類、みずなを除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.9	19.3	2	7.7	
46	チンゲンサイ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						7.3	109.6	7.5	43.8	
46*	チンゲンサイ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
47	みずな	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						7.3	109.6	7.5	43.8	
47*	みずな	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
48	しゅんぎく	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						7.3	109.6	7.5	43.8	
48*	しゅんぎく	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
49	レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						9.1	109.6	9.3	43.8	
49*	レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.2	19.3	3.3	7.7	
50	非結球レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						9.1	109.6	9.3	43.8	
50*	非結球レタス	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.2	19.3	3.3	7.7	

51	ねぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.9	109.6	3	43.8	
51*	ねぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.1	19.3	2.1	7.7	
52	わけぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.9	109.6	3	43.8	
52*	わけぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.1	19.3	2.1	7.7	
53	あさつき	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.9	109.6	3	43.8	
53*	あさつき	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.1	19.3	2.1	7.7	
54	にら	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.2	109.6	2.2	43.8	
54*	にら	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	19.3	1.6	7.7	
55	にら（花茎）	4000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	4000	液剤_野菜（平面） （手散布）						1.1	54.8	1.1	21.9	
55*	にら（花茎）	4000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	4000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.8	9.7	0.8	3.9	
56	ばれいしょ	1000 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						3.2	18.3	3.3	7.3	
56*	ばれいしょ	1000 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.8	3.2	1.8	1.3	
57	ばれいしょ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						19.5	109.6	19.9	43.8	
57*	ばれいしょ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						10.6	19.3	10.8	7.7	
58	かんしょ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						14.6	109.6	14.9	43.8	
58*	かんしょ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						10.6	19.3	10.8	7.7	

59	やまのいも	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
60	てんさい	100 倍, 1 L/箱／定植前／灌注／4 回	100	液剤_水稻_育苗箱 （育苗箱）						19.6	33.6	20	13.4	
61	てんさい	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.4	109.6	2.5	43.8	
61*	てんさい	2000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
62	あずき	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						53.6	109.6	54.7	43.8	
62*	あずき	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						10.6	19.3	10.8	7.7	
63	だいず	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						53.6	109.6	54.7	43.8	
63*	だいず	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						10.6	19.3	10.8	7.7	
64	みつば	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						5.5	109.6	5.6	43.8	
64*	みつば	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.9	19.3	2	7.7	
65	えだまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						13.6	109.6	13.9	43.8	
65*	えだまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						8.5	19.3	8.7	7.7	
66	パセリ	4000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／1 回	4000	液剤_野菜（平面） （手散布）						0.9	54.8	0.9	21.9	
66*	パセリ	4000 倍, 300 L/10a／収穫14日前まで／散布／1 回	4000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.3	9.7	0.3	3.9	
67	せり	2000 倍, 300 L/10a／親株養成期 但し収穫45日前まで／散布 ／2 回	2000	液剤_水稻（手散 布）						0.6	17.1	0.6	6.9	
67*	せり	2000 倍, 300 L/10a／親株養成期 但し収穫45日前まで／散布 ／2 回	2000	液剤_水稻（機械散 布）						1.3	19.3	1.3	7.7	

68	セルリー	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						7.3	109.6	7.5	43.8	
68*	セルリー	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
69	アスパラガス	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
70	みょうが（花穂）	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布、但し花穂の発生期にはマルチフィルム被覆により散布液が直接花穂に飛散しない状態で使用する。／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
71	みょうが（茎葉）	2000 倍, 300 L/10a／みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						14.2	109.6	14.5	43.8	
71*	みょうが（茎葉）	2000 倍, 300 L/10a／みょうが(花穂)の収穫前日まで 但し、花穂を収穫しない場合にあっては開花期終了まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.9	19.3	3.9	7.7	
72	れんこん	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_水稲（手散布）						3	17.1	3	6.9	
72*	れんこん	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_水稲（機械散布）						5.2	19.3	5.3	7.7	
73	くわい	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_水稲（手散布）						2.2	17.1	2.3	6.9	
73*	くわい	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_水稲（機械散布）						3.9	19.3	3.9	7.7	
74	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						6.3	146.1	6.5	58.4	
74*	茶	2000 倍, 400 L/10a／摘採7日前まで／散布／1 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.7	25.8	1.8	10.3	
75	きく	4000 倍, 1000 L/10a／発生初期／生育期株元灌注／4 回	4000	液剤_芝（手散布）						4.2	6.3	4.3	2.5	
76	きく	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						19	109.6	19.4	43.8	
76*	きく	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						5.2	19.3	5.3	7.7	
77	ばら	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	

78	ばら	2000 倍, 1000 L/10a／発生初期／生育期株元灌注／4 回	2000	液剤_芝（手散布）						8.3	12.5	8.5	5	
79	げっきつ ³⁾	40 倍, 100 L/10a／生育期／樹幹散布／6 回	40	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	96.2	96.2	98.1	38.5	
79*	げっきつ ³⁾	40 倍, 100 L/10a／生育期／樹幹散布／6 回	40	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			35.2	35.2	35.9	14.1	
80	さくら	2000 倍, 700 L/10a／成虫発生初期／散布／6 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣	マスク 1	不浸透性 手袋	95	158.4	97	63.3	
80*	さくら	2000 倍, 700 L/10a／成虫発生初期／散布／6 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			82.1	164.1	83.7	65.6	
81	つつじ類	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	63.1	105.2	64.4	42.1	
81*	つつじ類	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／6 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			35.2	70.3	35.9	28.1	
82	たदैあい	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						19	109.6	19.4	43.8	
82*	たदैあい	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						5.2	19.3	5.3	7.7	
83	水田作物、畑作物（休耕田）	4000 倍, 150 L/10a／0／散布／4 回	4000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.7	27.4	4.8	11	
83*	水田作物、畑作物（休耕田）	4000 倍, 150 L/10a／0／散布／4 回	4000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.3	4.8	1.3	1.9	
84	たまねぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.2	109.6	2.2	43.8	
84*	たまねぎ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	19.3	1.6	7.7	
85	パイナップル	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			5.8	83.1	5.9	33.2	
85*	パイナップル	2000 倍, 700 L/10a／収穫14日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						4.3	45.1	4.4	18	
86	さといも	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	

87	こんにゃく	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						24.4	109.6	24.8	43.8	
87*	こんにゃく	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						10.6	19.3	10.8	7.7	
88	カリフラワー	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.4	109.6	2.5	43.8	
88*	カリフラワー	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.1	19.3	2.2	7.7	
89	ごぼう	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						3	109.6	3.1	43.8	
89*	ごぼう	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.2	19.3	3.3	7.7	
90	ズッキーニ	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	1000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.9	146.1	5	58.4	
90*	ズッキーニ	1000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	1000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	7.7	1.6	3.1	
91	オクラ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
92	いんげんまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						13.6	109.6	13.9	43.8	
92*	いんげんまめ	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						8.5	19.3	8.7	7.7	
93	小麦	2000 倍, 150 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						36.5	54.8	37.3	21.9	
93*	小麦	2000 倍, 150 L/10a／収穫3日前まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						5.3	9.7	5.4	3.9	
94	豆類（種実、ただし、だい ず、あずき、いんげんまめ を除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
95	豆類（種実、ただし、だい ず、あずき、いんげんまめ を除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						40.2	109.6	41	43.8	
95*	豆類（種実、ただし、だい ず、あずき、いんげんまめ を除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						10.6	19.3	10.8	7.7	

96	食用ぎく	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						9.5	109.6	9.7	43.8	
96*	食用ぎく	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／2 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						2.6	19.3	2.6	7.7	
97	にんにく	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						2.2	109.6	2.2	43.8	
97*	にんにく	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						1.5	19.3	1.6	7.7	
98	にんじん	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／7 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.3	109.6	4.3	43.8	
98*	にんじん	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／7 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						4.5	19.3	4.6	7.7	
99	にんじん	400 倍, 400 L/10a／収穫前日まで／株元灌注／7 回	400	液剤_芝（手散布）						16.7	25	17	10	
100	まこもたけ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_水稻（手散布）						2.2	17.1	2.3	6.9	
100*	まこもたけ	2000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／3 回	2000	液剤_水稻（機械散布）						3.9	19.3	3.9	7.7	
101	しそ	4000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／2 回	4000	液剤_野菜（平面） （手散布）						1.8	54.8	1.9	21.9	
101*	しそ	4000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／2 回	4000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						0.6	9.7	0.7	3.9	
102	だいこん	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						3	109.6	3.1	43.8	
102*	だいこん	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.2	19.3	3.3	7.7	
103	ブロッコリー	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／7 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						4.3	109.6	4.3	43.8	
103*	ブロッコリー	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／7 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.7	19.3	3.8	7.7	
104	ねぎ	50 倍, 0.5 L/箱／育苗期後半／灌注／4 回	50	液剤_水稻_育苗箱 （育苗箱）						19.6	33.6	20	13.4	

105	豆類（未成熟、ただし、えだまめを除く）	2000 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
106	かんきつ	40 倍, 20 L/10a／収穫150日前まで／樹幹散布／9 回	40	液剤_果樹（立体） （手散布）			フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	88.3	196.3	90.1	78.5	
106*	かんきつ	40 倍, 20 L/10a／収穫150日前まで／樹幹散布／9 回	40	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	96.3	192.6	98.3	77.1	
107	かんきつ	20 倍, 10 L/10a／収穫150日前まで／樹幹散布／9 回	20	液剤_果樹（立体） （手散布）			フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	88.3	196.3	90.1	78.5	
107*	かんきつ	20 倍, 10 L/10a／収穫150日前まで／樹幹散布／9 回	20	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	96.3	192.6	98.3	77.1	
108	かんきつ	200 倍, 75 L/10a／収穫前日まで／主幹から株元に散布／9 回	200	液剤_野菜（立体） （手散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	30.1	50.1	30.7	20.1	
109	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／9 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	83.6	185.7	85.3	74.3	
109*	かんきつ	2000 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／9 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			82.1	164.1	83.7	65.6	
110	かんきつ	24 倍, 8 L/10a／収穫前日まで／無人航空機による散布／9 回	24	液剤_無人航空機 （-）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.8	8.5	3.9	3.4	
111	かんきつ	48 倍, 16 L/10a／収穫前日まで／無人航空機による散布／9 回	48	液剤_無人航空機 （-）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			3.8	8.5	3.9	3.4	
112	キャベツ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						9.1	109.6	9.3	43.8	
112*	キャベツ	2000 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／5 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						3.2	19.3	3.3	7.7	
113	花き類・観葉植物（たであ い、わたを除く）	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_水稻（手散 布）						3	17.1	3	6.9	
113*	花き類・観葉植物（たであ い、わたを除く）	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_水稻（機械散 布）						5.2	19.3	5.3	7.7	
114	花き類・観葉植物（たであ い、わたを除く）	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
115	花き類・観葉植物（たであ い、わたを除く）	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （手散布）						19	109.6	19.4	43.8	

115*	花き類・観葉植物（た い、わたを除く）	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						5.2	19.3	5.3	7.7	
116	わた	2000 倍, 300 L/10a／発生初期／散布／4 回	2000	液剤_野菜（立体） （手散布）						49.2	73.8	50.2	29.5	
117	デイゴ	2000 倍, 700 L/10a／発生初期／散布／6 回	2000	液剤_果樹（立体） （手散布）			フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	82.4	137.4	84.1	55	
117*	デイゴ	2000 倍, 700 L/10a／発生初期／散布／6 回	2000	液剤_果樹（立体） （機械散布）			長ズボ ン・長袖 の作業衣			82.1	164.1	83.7	65.6	

¹⁾: AOEL 占有率＝反復暴露量 (μg ai/kg 体重/日) ÷ 1000 (μg/mg) ÷ AOEL (mg/kg 体重/日) × 100

²⁾: AAOEL 占有率＝急性暴露量 (μg ai/kg 体重) ÷ 1000 (μg/mg) ÷ AAOEL (mg/kg 体重) × 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重 55.1 kg を用いている。

³⁾: 本剤のげっきつについては、1 日作業面積として平均住宅敷地面積を用いて暴露量を推計している。

3. 登録番号20800：ダントツ粒剤、登録番号21502：ベニカ粒剤、登録番号21645：協友ダントツ粒剤（クロチアニジン0.50%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	20800
	種類・名称	クロチアニジン粒剤(ダントツ粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）						4.1	13.4	4.2	5.4	
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植3日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布 する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	
3	きゅうり	2.2 kg/10a／育苗期後半／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						0.6	0.8	0.6	0.3	
4	きゅうり	2.2 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.4	1	0.4	0.4	
5	きゅうり	2.2 kg/10a／定植後（但し、収穫前日まで）／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.4	1	0.4	0.4	
6	メロン	1.18 kg/10a／育苗期後半／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						0.3	0.4	0.3	0.2	
7	メロン	1.18 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.2	0.5	0.2	0.2	
8	メロン	1.18 kg/10a／定植後（但し、収穫前日まで）／株元散布／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.2	0.5	0.2	0.2	
9	すいか	0.92 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.2	0.4	0.2	0.2	
10	かぼちゃ	0.76 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.1	0.3	0.1	0.1	

11	にがうり	0.4 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.1	0.2	0.1	0.1	
12	うり類（漬物用、ただし、とうがん、食用へちまを除く）	2.5 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／1回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.1	1.1	0.1	0.4	
13	とうがん	0.832 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.1	0.4	0.2	0.1	
14	食用へちま	0.666 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.1	0.3	0.1	0.1	
15	トマト	1.9 kg/10a／育苗期／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.5	0.7	0.5	0.3	
16	トマト	1.9 kg/10a／育苗期後半／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.5	0.7	0.5	0.3	
17	トマト	3.8 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.3	1.7	0.4	0.7	
18	トマト	3.8 kg/10a／定植後（但し、収穫前日まで）／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.3	1.7	0.4	0.7	
19	ミニトマト	2.1 kg/10a／育苗期／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.6	0.8	0.6	0.3	
20	ミニトマト	2.1 kg/10a／育苗期後半／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.6	0.8	0.6	0.3	
21	ミニトマト	4.2 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.4	1.9	0.4	0.7	
22	ミニトマト	4.2 kg/10a／定植後（但し、収穫前日まで）／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.4	1.9	0.4	0.7	
23	なす	2 kg/10a／育苗期後半／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.6	0.8	0.6	0.3	
24	なす	1 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.1	0.4	0.1	0.2	
25	なす	2 kg/10a／定植後（但し、収穫前日まで）／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.2	0.9	0.2	0.4	
26	ピーマン	1.7 kg/10a／育苗期後半／株元処理／3回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.5	0.6	0.5	0.3	

27	ピーマン	1.7 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.1	0.8	0.1	0.3	
28	ピーマン	3.4 kg/10a／定植後（但し、収穫前日まで）／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.2	1.5	0.2	0.6	
29	はくさい	0.8 kg/10a／は種時／覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／5回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.3	0.5	0.3	0.2	
30	はくさい	1.6 kg/10a／育苗期後半／株元処理／5回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.6	0.9	0.6	0.4	
31	はくさい	6.4 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.4	4.3	2.4	1.7	
32	はなっこりー	6 kg/10a／定植時／作条処理土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.3	4	1.4	1.6	
33	かぶ	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.8	4	1.8	1.6	
34	こまつな	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.8	4	1.8	1.6	
35	しゅんぎく	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.8	4	1.8	1.6	
36	だいず	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
37	あずき	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
38	えだまめ	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
39	なばな	16.66 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／1回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.2	11.1	1.3	4.4	
40	チンゲンサイ	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.8	4	1.8	1.6	
41	チンゲンサイ	6 kg/10a／定植時／作条処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.8	4	1.8	1.6	
42	レタス	12.6 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4.7	8.4	4.8	3.4	

43	レタス	3.15 kg/10a／育苗期後半／株元処理／5回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						1.2	1.8	1.2	0.7	
44	レタス	50 g/箱／育苗期後半／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上 から散布する／5回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	
45	非結球レタス	50 g/箱／育苗期後半／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上 から散布する／5回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	
46	非結球レタス	15 kg/10a／育苗期後半／株元処理／5回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						5.7	8.5	5.8	3.4	
47	みずな	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.8	4	1.8	1.6	
48	ねぎ	6 kg/10a／は種時／作条処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.4	4	1.5	1.6	
49	ねぎ	6 kg/10a／植付時／植溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.4	4	1.5	1.6	
50	ねぎ	6 kg/10a／収穫3日前まで／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.4	4	1.5	1.6	
51	あさつき	6 kg/10a／収穫3日前まで／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.4	4	1.5	1.6	
52	わけぎ	6 kg/10a／収穫3日前まで／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.4	4	1.5	1.6	
53	らっきょう	6 kg/10a／収穫21日前まで／株元散布／2回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.7	4	0.7	1.6	
54	くわい	6 kg/10a／収穫7日前まで／湛水散布／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲（手散布）						2	3	2.1	1.2	
55	ばれいしょ	6 kg/10a／植付時／植溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
56	かんしょ	9 kg/10a／植付前／作条処理土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
57	かんしょ	9 kg/10a／植付前／全面処理土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
58	かんしょ	6 kg/10a／育苗期／株元処理／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						2.3	3.4	2.3	1.4	

59	やまのいも	9 kg/10a／植付時／作条処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
60	いちご	4.4 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／1回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.7	2.9	0.7	1.2	
61	セルリー	7.4 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.2	4.9	2.2	2	
62	れんこん	3 kg/10a／植付時／植溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.3	2	1.4	0.8	
63	れんこん	6 kg/10a／収穫7日前まで／湛水散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）						2	3	2.1	1.2	
64	れんこん	6 kg/10a／収穫7日前まで／無人航空機による散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）						2	3	2.1	1.2	
65	じゅんさい	4 kg/10a／収穫前日まで／湛水散布／2回	1	固形剤（粒剤）_水稻（手散布）						0.9	2	0.9	0.8	
66	さとうきび	9 kg/10a／植付時／植溝処理土壌混和／7回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
67	さとうきび	9 kg/10a／培土時／株元処理土壌混和／7回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
68	さとうきび	9 kg/10a／収穫30日前まで／株元散布／7回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
69	かんきつ（苗木）	2 kg/10a／育苗期／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.9	2.2	0.9	0.9	
70	樹木類（げっきつを除く）	9 kg/10a／生育期／株元散布／6回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						6	10	6.1	4	
71	げっきつ	20 kg/10a／発生初期／生育期株元散布／6回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						13.3	22.2	13.6	8.9	
72	げっきつ	9 kg/10a／生育期／株元散布／6回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						6	10	6.1	4	
73	ねぎ（露地栽培）	6 kg/10a／収穫21日前まで／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.4	4	1.5	1.6	
74	ねぎ（露地栽培）	6 kg/10a／植付時／植溝処理／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.4	4	1.5	1.6	

75	ねぎ（露地栽培）	50 g/箱／育苗期後半／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	
76	らっかせい	6 kg/10a／は種時／全面処理土壌混和／1回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.5	4	1.5	1.6	
77	とうがらし類	2.08 kg/10a／育苗期後半／株元処理／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						0.6	0.8	0.6	0.3	
78	とうがらし類	2.08 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.2	0.9	0.2	0.4	
79	こんにゃく	6 kg/10a／植付時／植溝処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
80	こんにゃく	6 kg/10a／培土時／株元処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
81	カリフラワー	0.85 kg/10a／は種時／覆土混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.2	0.6	0.2	0.2	
82	カリフラワー	50 g/箱／育苗期後半／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	
83	カリフラワー	6.8 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.7	4.5	1.7	1.8	
84	ごぼう	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.2	4	2.3	1.6	
85	ごぼう	6 kg/10a／収穫60日前まで／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.2	4	2.3	1.6	
86	豆類（未成熟）	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
87	いんげんまめ	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
88	さといも	9 kg/10a／植付時／作条処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
89	さといも	9 kg/10a／植付時／全面処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
90	さといも	9 kg/10a／培土時（ただし、収穫60日前まで）／株元処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	

91	ふき	9 kg/10a／生育期（ただし、収穫30日前まで）／株元散布／1回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.3	6	1.4	2.4	
92	にんじん	9 kg/10a／は種時／全面処理土壌混和／7回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
93	にんじん	9 kg/10a／収穫前日まで／株元散布／7回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	
94	オクラ	13.32 kg/10a／収穫30日前まで／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						5.9	8.9	6	3.6	
95	ねぎ	50 g/箱／育苗期後半／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	
96	だいこん	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.2	4	2.3	1.6	
97	キャベツ	1.2 kg/10a／は種時／覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／5回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						0.5	0.7	0.5	0.3	
98	キャベツ	6 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						2.2	4	2.3	1.6	
99	キャベツ	6 kg/10a／地床育苗期／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						2.3	3.4	2.3	1.4	
100	キャベツ	50 g/箱／育苗期後半／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／5回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	
101	キャベツ	2.4 kg/10a／育苗期後半／株元処理／5回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						0.9	1.4	0.9	0.5	
102	キャベツ	9.6 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／5回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						3.6	6.4	3.6	2.6	
103	ブロッコリー	0.975 kg/10a／は種時／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの覆土に均一に混和する／7回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						0.4	0.6	0.4	0.2	
104	ブロッコリー	0.975 kg/10a／は種時／覆土後セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／7回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						0.4	0.6	0.4	0.2	
105	ブロッコリー	1.95 kg/10a／育苗期後半／株元処理／7回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						0.7	1.1	0.8	0.4	
106	ブロッコリー	50 g/箱／育苗期後半／セル成型育苗トレイまたはペーパーポットの上から散布する／7回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						1.3	2.3	1.3	0.9	

107	ブロッコリー	7.8 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／7 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						3.3	5.2	3.4	2.1	
108	きく	6 kg/10a／発生初期／生育期株元散布／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	
109	花き類・観葉植物（きくを 除く）	6 kg/10a／発生初期／生育期株元散布／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						2.7	4	2.7	1.6	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4. 登録番号20801：ダントツ粉剤DL、登録番号21595：協友ダントツ粉剤DL（クロチアニジン0.15%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	20801
	種類・名称	クロチアニジン粉剤(ダントツ粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.15 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						11.8	38.4	12	15.4	
2	だいず ^a	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						3.8	5.8	3.9	2.3	
3	水田作物、畑作物（休耕 田）	4 kg/10a／0／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						3.8	5.8	3.9	2.3	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5. 登録番号20804：ハスラー粉剤DL（カルタップ2.0%・クロチアニジン0.15%・パリダマイシン0.30%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	20804
	種類・名称	カルタップ・クロチアニジン・パリダマイシン・フェリムゾン・フサライド粉剤 (ハスラー粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.095 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.15 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫21日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）					不浸透性 手袋	3.5	11.5	3.7	4.6	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

6. 登録番号20827：ダントツ箱粒剤、登録番号21594：協友ダントツ箱粒剤（クロチアニジン1.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	20827
	種類・名称	クロチアニジン粒剤 (ダントツ箱粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン粒剤	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	湛水直播水稻	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。 ／ 4 回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植3日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布 する。／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
3	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／ 4 回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

7. 登録番号21186：ブラシダントツ粉剤DL（クロチアニジン0.15%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	21186
	種類・名称	クロチアニジン・フェリムゾン・フサライド粉剤(ブラシダントツ粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.15 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考		
					調製時		散布時		反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）					不浸透性 手袋	3.5	11.5	3.6	4.6	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

8. 登録番号21218：ブラシダントツH粉剤DL（クロチアニジン0.50%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	21218
	種類・名称	クロチアニジン・フェリムゾン・フサライド粉剤(ブラシダントツH粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）					不浸透性 手袋	11.7	38.3	12	15.3	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

9. 登録番号21226：ダントツオリゼメート10箱粒剤（クロチアニジン1.5%・プロベナゾール10.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21226
	種類・名称	クロチアニジン・プロベナゾール粒剤 (ダントツオリゼメート10箱粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)	1)		2)
1	稲 (箱育苗)	50 g/箱／移植3日前～移植当日／育苗箱の苗の上から均一に散布する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）		不浸透性手袋	不浸透性防除衣	マスク 1	不浸透性手袋	0.4	0.6	0.4	0.2	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 0. 登録番号21242：ダントツH粉剤DL、登録番号21627：協友ダントツH粉剤DL（クロチアニジン0.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	21242
	種類・名称	クロチアニジン粉剤(ダントツH粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	㉞作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						39.2	128	40	51.2	
2	だいず	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						12.8	19.2	13.1	7.7	
3	水田作物、畑作物（休耕 田）	4 kg/10a／－／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						12.8	19.2	13.1	7.7	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 1. 登録番号21258：ダントツフロアブル、登録番号21547：協友ダントツフロアブル、登録番号22101：ダントツEXフロアブル（クロチアニジン20.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21258
	種類・名称	クロチアニジン水和剤(ダントツフロアブル)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	20 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤 希釈液	1	10
	24	50
	90	50
	1250	50
	2500	50
	5000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希積 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復 (μg ai/kg 体重/日)	急性 (μg ai/kg 体重)	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋					
1	稲	5000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	5000	液剤_水稻（手散布）						16.6	54	16.9	21.6	
1*	稲	5000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	5000	液剤_水稻（機械散布）						10.8	35.1	11	14	
2	稲	1250 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	1250	液剤_水稻（手散布）						11	36	11.3	14.4	
2*	稲	1250 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	1250	液剤_水稻（機械散布）						7.2	23.4	7.3	9.4	
3	稲	90 倍, 3 L/10a／収穫7日前まで／空中散布／ 4 回	90	散布による暴露なし（手散布）						9.6	31.5	9.8	12.6	
4	稲	24 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／空中散布／ 4 回	24	散布による暴露なし（手散布）						9.6	31.5	9.8	12.6	
5	稲	24 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／無人航空機による散布／ 4 回	24	液剤_無人航空機（-）						10.8	35.1	11	14	
6	だいず	2500 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	2500	液剤_野菜（平面） （手散布）						61	124.8	62.3	49.9	
6*	だいず	2500 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	2500	液剤_野菜（平面） （機械散布）						38.6	70.1	39.4	28.1	
7	だいず	24 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／無人航空機による散布／ 4 回	24	液剤_無人航空機（-）						2.6	5.3	2.6	2.1	

8	ばれいしょ	5000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	5000	液剤_野菜（平面） （手散布）						11.1	62.4	11.3	25	
8*	ばれいしょ	5000 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	5000	液剤_野菜（平面） （機械散布）						19.3	35.1	19.7	14	
9	さとうきび	2500 倍, 300 L/10a／収穫30日前まで／散布／7 回	2500	液剤_野菜（立体） （手散布）						59.3	89	60.6	35.6	
10	さとうきび	24 倍, 2.4 L/10a／収穫30日前まで／無人航空機による散布／ 7 回	24	液剤_無人航空機 （-）						4.8	15.8	4.9	6.3	
11	湛水直播水稻	種もみ3kg当り75ml/10a/-/塗沫処理/-回	1	種子処理	マスク1	不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性 手袋	—	0.879	—	0.352	
12	直播水稻	種もみ3kg当り75ml/10a/-/塗沫処理/-回	1	種子処理	マスク1	不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク1	不浸透性 手袋	—	0.879	—	0.352	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 2. 登録番号21267：モリエートSC（クロチアニジン30.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21267
	種類・名称	クロチアニジン水和剤(モリエートSC)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	30 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	100	50
	800	50
	1000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	まつ（生立木）	800 倍, 150 L/10a／成虫の発生期／散布／6 回	800	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	82.7	137.8	84.4	55.1	
1*	まつ（生立木）	800 倍, 150 L/10a／成虫の発生期／散布／6 回	800	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣			82.2	164.5	83.9	65.8	
2	まつ（生立木）	1000 倍, 150 L/10a／成虫の発生初期及び発生最盛期直前／散 布／6 回	1000	液剤_果樹（立体） （手散布）			フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	94.8	158	96.8	63.2	
2*	まつ（生立木）	1000 倍, 150 L/10a／成虫の発生初期及び発生最盛期直前／散 布／6 回	1000	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣			65.8	131.6	67.1	52.6	
3	まつ（生立木）	100 倍, 3 L/10a／成虫の発生初期及び発生最盛期直前／無人 ヘリコプターによる散布／6 回	100	液剤_無人航空機 （-）						7.1	11.8	7.3	4.7	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 3. 登録番号21624：ビームダントツH粉剤DL（クロチアニジン0.50%・トリシクラゾール1.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21624
	種類・名称	クロチアニジン・トリシクラゾール粉剤(ビームダントツH粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫7日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						39.2	128	40	51.2	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 4. 登録番号21702：ブラシダントツフロアブル（クロチアニジン6.6%・フェリムゾン15.0%・フサライド15.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21702
	種類・名称	クロチアニジン・フェリムゾン・フサライド水和剤（ブラシダントツフロアブル）
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6.6 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤：液体／散布時：液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤 希釈液	1	10
	8	50
	30	50
	300	50
	1000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希積 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／無人ヘリコプターによる散布／4 回	8	液剤_無人航空機 (-)						10.7	34.7	10.9	13.9	
2	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／空中散布／4 回	8	散布による暴露なし（手散布）						9.6	31.1	9.7	12.5	
3	稲	30 倍, 3 L/10a／収穫7日前まで／空中散布／4 回	30	散布による暴露なし（手散布）						9.6	31.1	9.7	12.5	
4	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	300	液剤_水稲（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			11.9	38.7	12.1	15.5	
4*	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	300	液剤_水稲（機械散布）						9.9	32.1	10.1	12.9	
5	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	1000	液剤_水稲（手散布）			長ズボン・長袖 の作業衣			21.4	69.7	21.8	27.9	
5*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	1000	液剤_水稲（機械散布）						17.7	57.9	18.1	23.1	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

15. 登録番号21733：オルトランDX粒剤（アセフェート2.5%・クロチアニジン0.25%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	21733
	種類・名称	アセフェート・クロチアニジン粒剤(オルトランDX粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.25 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	花き類・観葉植物（ばら、 ペゴニア、はばたん、ガー ベラを除く）	40 kg/10a／発生初期／生育期株元処理／4回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	
2	ばら	40 kg/10a／発生初期／生育期株元処理／4回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	
3	ペゴニア	40 kg/10a／発生初期／生育期株元処理／4回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	
4	はばたん	40 kg/10a／発生初期／生育期株元処理／4回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	
5	ガーベラ	40 kg/10a／発生初期／生育期株元処理／6回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	
6	クロトン	40 kg/10a／発生初期／生育期株元処理／6回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						13.3	22.2	13.6	8.9	
7	トマト	1.9 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						0.1	0.4	0.1	0.2	
8	なす	2 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						0.1	0.4	0.1	0.2	
9	きゅうり	2.2 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤） 作物（手散布）						0.2	0.5	0.2	0.2	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 6 . 登録番号21974：ラブサイドダントツフロアブル（クロチアニジン6.6%・フサライド20.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	21974
	種類・名称	クロチアニジン・フサライド水和剤(ラブサイドダントツフロアブル)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6.6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤 希釈液	1	10
	8	50
	300	50
	1000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希積 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／無人ヘリコプターによる散布／4 回	8	液剤_無人航空機 (-)						10.7	34.7	10.9	13.9	
2	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／空中散布／4 回	8	散布による暴露なし（手散布）						9.6	31.1	9.7	12.5	
3	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	300	液剤_水稻（手散布）						15.2	49.5	15.5	19.8	
3*	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	300	液剤_水稻（機械散布）						9.9	32.1	10.1	12.9	
4	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	1000	液剤_水稻（手散布）						27.3	89.1	27.9	35.6	
4*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／4 回	1000	液剤_水稻（機械散布）						17.7	57.9	18.1	23.1	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

17. 登録番号22122：ワンリード箱粒剤0.8、登録番号22174：クミアイワンリード箱粒剤0.8（クロチアニジン0.80%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22122
	種類・名称	クロチアニジン粒剤(ワンリード箱粒剤0.8)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン粒剤	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.8 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲 (箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土に均一に混和する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						2.1	3.6	2.2	1.4	
2	稲 (箱育苗)	50 g/箱／は種時覆土前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						2.1	3.6	2.2	1.4	

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

18. 登録番号22257：ノンプラスダントツフロアブル（クロチアニジン6.6%・トリシクラゾール8.0%・フェリムゾン15.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22257
	種類・名称	クロチアニジン・トリシクラゾール・フェリムゾン水和剤（ノンプラスダントツフロアブル）
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6.6 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤 希釈液	1	10
	8	50
	300	50
	1000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／空中散布／ 4 回	8	散布による暴露なし (手散布)	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	1	3.1	1	1.2	調製時:長ズボン・長袖の作業衣
2	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫7日前まで／無人ヘリコプターによる散布／ 4 回	8	液剤_無人航空機 (-)	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	1.2	3.8	1.2	1.5	調製時:長ズボン・長袖の作業衣
3	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	300	液剤_水稻 (手散布)	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	1.6	5.3	1.7	2.1	調製時:長ズボン・長袖の作業衣
3*	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	300	液剤_水稻 (機械散布)	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	1.1	3.5	1.1	1.4	調製時:長ズボン・長袖の作業衣
4	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	1000	液剤_水稻 (手散布)	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	2.9	9.6	3	3.8	調製時:長ズボン・長袖の作業衣
4*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 4 回	1000	液剤_水稻 (機械散布)	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	2	6.4	2	2.5	調製時:長ズボン・長袖の作業衣

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

1 9. 登録番号22391：モリエートマイクロカプセル、登録番号22392：ヤシマモリエートマイクロカプセル（クロチアニジン7.5%マイクロカプセル剤）

① 製剤情報	登録番号	22391
	種類・名称	クロチアニジンマイクロカプセル剤(モリエートマイクロカプセル)
② 評価対象有効成分		クロチアニジン
③-1 AOEL		0.098 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.25 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		7.5 %
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)		製剤: 液体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		乳剤等

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	25
希釈液	15	70
	200	70

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	まつ（生立木）	200 倍, 150 L/10a／成虫の発生初期／散布／6 回	200	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	83.7	139.5	85.4	55.8	
1*	まつ（生立木）	200 倍, 150 L/10a／成虫の発生初期／散布／6 回	200	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	39.2	78.3	40	31.3	
2	まつ（生立木）	15 倍, 3 L/10a／成虫の発生初期／無人ヘリコプターによる散布／6 回	15	液剤_無人航空機 (-)						30.3	50.5	30.9	20.2	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

20. 登録番号22506：ベニカXファインスプレー（クロチアニジン0.0080%・フェンプロパトリン0.010%・メパニピリム0.020%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22506
	種類・名称	クロチアニジン・フェンプロパトリン・メパニピリム水和剤 (ベニカXファインスプレー)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.008 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	トリ ガースプレー剤	1 L/回／ - ／ 散布／6回	1	トリ ガースプレー 剤			長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.0028	0.0141	0.0029	0.0056	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2 1. 登録番号22576：ベニカXファインエアゾール（クロチアニジン0.032%・フェンプロパトリン0.020%・メパニピリム0.040%エアゾル）

① 製剤情報	登録番号	22576
	種類・名称	クロチアニジン・フェンプロパトリン・メパニピリムエアゾル(ベニカXファインエアゾール)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.032 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	エアゾル剤	0.5 L/回／ - ／ 散布／4回	1	エアゾル剤			長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.0043	0.0325	0.0044	0.0130	

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2.2. 登録番号22593：ペニカ液剤、登録番号22876：ペニカマツケア（クロチアニジン2.0%液剤）

① 製剤情報	登録番号	22593
	種類・名称	クロチアニジン液剤 (ペニカ液剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	2 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	乳剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	25
希釈液	60	70
	250	70
	500	70

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復 (μg ai/kg 体重/日)	急性 (μg ai/kg 体重)	%AOEL (1)		%AAOEL (2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋					
1	かんきつ	500 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／ 6 回	500	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	52.6	175.4	53.7	70.2	
1*	かんきつ	500 倍, 700 L/10a／収穫前日まで／散布／ 6 回	500	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣			49.3	123.1	50.3	49.3	
2	うめ	500 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 3 回	500	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	14	175.4	14.3	70.2	
2*	うめ	500 倍, 700 L/10a／収穫3日前まで／散布／ 3 回	500	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣			10	106.8	10.2	42.7	
3	かき	500 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	500	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	9.1	175.4	9.3	70.2	
3*	かき	500 倍, 700 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	500	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	7.4	102.7	7.5	41.1	
4	だいこん	500 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	500	液剤_野菜（平面） （手散布）						1.6	98.2	1.7	39.3	
4*	だいこん	500 倍, 300 L/10a／収穫7日前まで／散布／ 3 回	500	液剤_野菜（平面） （機械散布）						8.6	85.7	8.7	34.3	
5	なす	250 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 4 回	250	液剤_野菜（立体） （手散布）						20.1	97.5	20.6	39	
6	トマト	500 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／ 4 回	500	液剤_野菜（立体） （手散布）						10.1	48.7	10.3	19.5	

7	ミニトマト	500 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	500	液剤_野菜（立体） （手散布）						10.1	48.7	10.3	19.5	
8	きゅうり	500 倍, 300 L/10a／収穫前日まで／散布／4 回	500	液剤_野菜（立体） （手散布）						19.5	48.7	19.9	19.5	
9	キャベツ	250 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	250	液剤_野菜（平面） （手散布）						9.8	196.5	10	78.6	
9*	キャベツ	250 倍, 300 L/10a／収穫3日前まで／散布／3 回	250	液剤_野菜（平面） （機械散布）						17.1	171.3	17.5	68.5	
10	花き類・観葉植物（ばらを 除く）	500 倍, 300 L/10a／0／散布／4 回	500	液剤_野菜（平面） （手散布）						17	98.2	17.4	39.3	
10*	花き類・観葉植物（ばらを 除く）	500 倍, 300 L/10a／0／散布／4 回	500	液剤_野菜（平面） （機械散布）						22.8	85.7	23.3	34.3	
11	花き類・観葉植物（ばらを 除く）	500 倍, 300 L/10a／0／散布／4 回	500	液剤_野菜（立体） （手散布）						48.7	73.1	49.7	29.2	
12	花き類・観葉植物（ばらを 除く）	500 倍, 300 L/10a／0／散布／4 回	500	液剤_水稻（手散布）						5.8	33.6	6	13.5	
12*	花き類・観葉植物（ばらを 除く）	500 倍, 300 L/10a／0／散布／4 回	500	液剤_水稻（機械散布）						22.8	85.7	23.3	34.3	
13	ばら	500 倍, 300 L/10a／0／散布／4 回	500	液剤_野菜（立体） （手散布）						48.7	73.1	49.7	29.2	
14	樹木類（つつじ類、さんご じゅ、あかまつ、くろまつ を除く）	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_野菜（平面） （手散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣			74.2	123.7	75.7	49.5	
14*	樹木類（つつじ類、さんご じゅ、あかまつ、くろまつ を除く）	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_野菜（平面） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣			23.2	46.3	23.6	18.5	
15	樹木類（つつじ類、さんご じゅ、あかまつ、くろまつ を除く）	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	83.3	138.9	85	55.6	
15*	樹木類（つつじ類、さんご じゅ、あかまつ、くろまつ を除く）	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	86.3	172.6	88	69	
16	つつじ類	250 倍, 300 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	35.7	59.5	36.4	23.8	
16*	つつじ類	250 倍, 300 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣			52.8	105.5	53.9	42.2	

17	さんごじゅ	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	83.3	138.9	85	55.6	
17*	さんごじゅ	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	86.3	172.6	88	69	
18	あかまつ	60 倍, 150 L/10a／成虫の発生直前から発生初期／散布／6 回	60	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	74.4	124	75.9	49.6	
18*	あかまつ	60 倍, 150 L/10a／成虫の発生直前から発生初期／散布／6 回	60	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	91.7	183.3	93.5	73.3	
19	あかまつ	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	83.3	138.9	85	55.6	
19*	あかまつ	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	86.3	172.6	88	69	
20	くろまつ	60 倍, 150 L/10a／成虫の発生直前から発生初期／散布／6 回	60	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	74.4	124	75.9	49.6	
20*	くろまつ	60 倍, 150 L/10a／成虫の発生直前から発生初期／散布／6 回	60	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	91.7	183.3	93.5	73.3	
21	くろまつ	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （手散布）		不浸透性 手袋	保護面＋ フード＋ 不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	83.3	138.9	85	55.6	
21*	くろまつ	250 倍, 700 L/10a／0／散布／6 回	250	液剤_果樹（立体） （機械散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣		不浸透性 手袋	86.3	172.6	88	69	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2 3. 登録番号22672：ベニカケムシエアゾール（クロチアニジン0.032%・フェンプロパトリン0.020%エアゾル）

① 製剤情報	登録番号	22672
	種類・名称	クロチアニジン・フェンプロパトリンエアゾル(ベニカケムシエアゾール)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.032 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり									備考
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)	%AAOEL 2)	
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	エアゾル剤	0.5 L/回／ - ／ 散布 ／6回	1	エアゾル剤			長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.0065	0.0325	0.0066	0.0130	

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2 4. 登録番号22698：スタウトダントツ箱粒剤（クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22698
	種類・名称	クロチアニジン・イソチアニル粒剤(スタウトダントツ箱粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備 考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する／ 4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時（覆土前）～移植当日／育苗箱の上から均一 に散布する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
3	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時（覆土前）／育苗箱の上から均一に散布す る。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
4	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
5	湛水直播水稻	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。／ 4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

25. 登録番号22699：スタウトダントツ箱粒剤08、登録番号22700：ツインターボ箱粒剤08（クロチアニジン0.80%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22699
	種類・名称	イソチアニル・クロチアニジン粒剤(スタウトダントツ箱粒剤08)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.8 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	湛水直播水稻	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。／ 4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する／ 4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						2.1	3.6	2.2	1.4	
3	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時（覆土前）～移植当日／育苗箱の上から均一 に散布する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						2.1	3.6	2.2	1.4	
4	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						2.1	3.6	2.2	1.4	
5	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時（覆土前）／育苗箱の上から均一に散布す る。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						2.1	3.6	2.2	1.4	
6	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2 6 . 登録番号22708：ツインターボフェルテラ箱粒剤（クロチアニジン1.5%・クロラントラニプロール0.75%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	22708
	種類・名称	イソチアニル・クロチアニジン・クロラントラニプロール粒剤 (ツインターボフェルテラ箱粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)	1)		2)
1	稲 (箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						4	6.8	4	2.7	
2	稲 (箱育苗)	50 g/箱／は種時(覆土前)／育苗箱の上から均一に散布する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						4	6.8	4	2.7	
3	稲 (箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土に均一に混和する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						4	6.8	4	2.7	
4	稲 (箱育苗)	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						4	6.8	4	2.7	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg 体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg 体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

27. 登録番号22891：ノンプラスパリダダントツフロアブル（クロチアニジン6.6%・トリシクラゾール8.0%・パリダマイシン5.0%・フェリムゾン15.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	22891
	種類・名称	クロチアニジン・トリシクラゾール・パリダマイシン・フェリムゾン水和剤（ノンプラスパリダダントツフロアブル）
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	6.6 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 液体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	8	50
	300	50
	1000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	8 倍, 0.8 L/10a／収穫14日前まで／無人ヘリコプターによる散布／ 4 回	8	液剤_無人航空機 (-)	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	1.2	3.8	1.2	1.5	調製時:長 ズボン・長 袖の作業衣
2	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	300	液剤_水稻（手散 布）	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	1.6	5.3	1.7	2.1	調製時:長 ズボン・長 袖の作業衣
2*	稲	300 倍, 25 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	300	液剤_水稻（機械散 布）	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	1.1	3.5	1.1	1.4	調製時:長 ズボン・長 袖の作業衣
3	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	1000	液剤_水稻（手散 布）	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	2.9	9.6	3	3.8	調製時:長 ズボン・長 袖の作業衣
3*	稲	1000 倍, 150 L/10a／収穫14日前まで／散布／ 4 回	1000	液剤_水稻（機械散 布）	マスク 1	不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	2	6.4	2	2.5	調製時:長 ズボン・長 袖の作業衣

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

28. 登録番号23033：箱いり娘粒剤（クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.5%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23033
	種類・名称	クロチアニジン・スピネトラム・イソチアニル・フラメトピル粒剤 (箱いり娘粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	湛水直播水稻	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する。 ／4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
3	稲（育苗箱）	50 g/箱／移植7日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布 する。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

2 9 . 登録番号23121：ベニカベジフルスプレー、登録番号23197：ガーデンアシストVスプレー（クロチアニジン0.0080%液剤）

① 製剤情報	登録番号	23121
	種類・名称	クロチアニジン液剤 (ベニカベジフルスプレー)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.008 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり							備考		
					調製時		散布時			反復	急性		%AOEL 1)	%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	トリガースプレー剤	1 L/回／ - ／ 散布／6回	1	トリガースプレー 剤						0.0223	0.1117	0.0228	0.0447	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 0. 登録番号23130：ベニカ J スプレー（クロチアニジン0.0080%・フェンプロパトリン0.010%液剤）

① 製剤情報	登録番号	23130
	種類・名称	クロチアニジン・フェンプロパトリン液剤 (ベニカ J スプレー)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.008 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助 1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助 2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	トリガースプレー剤	1 L/回／－／散布／6回	1	トリガースプレー 剤			長ズボ ン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.0028	0.0141	0.0029	0.0056	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 1. 登録番号23196：ワンリードSP箱粒剤（クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23196
	種類・名称	クロチアニジン・スピネトラム粒剤 (ワンリードSP箱粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する／ 4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時(覆土前)～移植当日／育苗箱の上から均一に 散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
3	湛水直播水稻	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する／ 4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									

¹⁾:AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾:AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 2. 登録番号23206：スタウトダントツ顆粒水和剤、登録番号23207：ツインターボ顆粒水和剤（クロチアニジン15.0%・イソチアニル20.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23206
	種類・名称	イソチアニル・クロチアニジン水和剤 (スタウトダントツ顆粒水和剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	15 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	顆粒水和剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	100	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)	1)		2)
1	稲	0.1 kg/10a／移植時／ベスト肥料に混合し側条施肥田植機で施用する。／4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲（箱育苗）	100 倍、0.5 L/箱／移植3日前～移植当日／灌注／4回	100	液剤_水稻_育苗箱 (育苗箱)						9.2	15.8	9.4	6.3	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 3. 登録番号23491：ベニカベジフルVスプレー、登録番号24518：ガーデンアシストWスプレー（クロチアニジン0.0080%・ミクロブタニル0.0025%液剤）

① 製剤情報	登録番号	23491
	種類・名称	クロチアニジン・ミクロブタニル液剤 (ベニカベジフルVスプレー)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.008 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	50
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	トリ ガースプレー剤	1 L/回／ - ／ 散布 ／4回	1	トリ ガースプレー 剤						0.0107	0.0800	0.0109	0.0320	

1): AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 4. 登録番号23511：箱王子粒剤（クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23511
	種類・名称	イソチアニル・クロチアニジン・スピネトラム粒剤(箱王子粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤(粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数(倍)	経皮吸収率(%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	湛水直播水稻	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する／ 4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する／ 4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
3	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時（覆土前）～移植当日／育苗箱の上から均一 に散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
4	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植3日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布 する／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
5	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時（覆土前）／育苗箱の上から均一に散布す る。／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	

¹⁾: AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

²⁾: AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 5. 登録番号23518：カイガラムシエアゾール（クロチアニジン0.030%・フェンプロパトリン0.020%エアゾール）

① 製剤情報	登録番号	23518
	種類・名称	クロチアニジン・フェンプロパトリンエアゾール(カイガラムシエアゾール)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.03 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農業使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	エアゾル剤	0.5 L/回／ - ／ 散布／4回	1	エアゾル剤			長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.0041	0.0304	0.0041	0.0122	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 6. 登録番号23602：ハスラーR X粉剤DL（クロチアニジン0.50%・メトキシフェノジド0.50%・パリダマイシン0.30%・フェリムゾン2.0%・フサライド1.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	23602
	種類・名称	クロチアニジン・メトキシフェノジド・パリダマイシン・フェリムゾン・フサライド粉剤(ハスラーR X粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫14日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）					不浸透性 手袋	11.7	38.3	12	15.3	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 7. 登録番号23603：チームワーク粉剤DL（クロチアニジン0.50%・パリダマイシン0.30%・フサライド2.5%粉剤）

① 製剤情報	登録番号	23603
	種類・名称	クロチアニジン・パリダマイシン・フサライド粉剤 (チームワーク粉剤DL)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希 釈 倍 数	散布時の予測式	防護装備あり								備 考	
					調製時		散布時			反 復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	4 kg/10a／収穫14日前まで／散布／4回	1	固形剤（粉剤）_水 稲（手散布）						39.2	128	40	51.2	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 8. 登録番号23636：マッキーノ（クロチアニジン0.066%複合肥料）

① 製剤情報	登録番号	23636
	種類・名称	クロチアニジン複合肥料(マッキーノ)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.066 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	かんしょ	67.5 kg/10a／植付前／全面処理土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤）畑 作物（手散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.3	0.5	0.4	0.2	
2	かんしょ	67.5 kg/10a／植付前／作条処理土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤）畑 作物（手散布）		不浸透性 手袋	不浸透性 防除衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.3	0.5	0.4	0.2	

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

3 9. 登録番号23732：フジワダントツ粒剤（クロチアニジン1.5%・イソプロチオラン12.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23732
	種類・名称	クロチアニジン・イソプロチオラン粒剤 (フジワダントツ粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)	1)		2)
1	稲（育苗箱）	50 g/箱／緑化期～移植当日、緑化始期／本剤の所定量を育苗箱の上から均一に散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水稲_育苗箱（育苗箱）						4	6.8	4	2.7	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 0. 登録番号23813：ナイスパートナー（クロチアニジン20.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	23813
	種類・名称	クロチアニジン水和剤 (ナイスパートナー)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	20 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 液体／散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	フロアブル剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液	5000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	たばこ	5000 倍, 180 L/10a／収穫20日前まで／散布／ 1 回	5000	液剤_野菜（立体） （手散布）						5.9	26.7	6.1	10.7	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 1. 登録番号23890：箱大臣粒剤（クロチアニジン1.5%・イソチアニル2.0%・フラメトピル4.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23890
	種類・名称	イソチアニル・クロチアニジン・フラメトピル粒剤 (箱大臣粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	稲	1 kg/10a／移植時／側条施用／4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
2	湛水直播水稻	1 kg/10a／は種時／は種同時施薬機を用いて土中施用する／4回	1	－	部会決定のとおり、調製時及び施用時の不浸透性手袋の着用を前提に暴露量の算出を省略した。									
3	稲（箱育苗）	50 g/箱／移植7日前～移植当日／育苗箱の上から均一に散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水稻_育苗箱（育苗箱）						4	6.8	4	2.7	

1): AOEL占有率=反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率=急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 2. 登録番号23945：ベジリード粒剤（クロチアニジン1.5%・スピネトラム0.50%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	23945
	種類・名称	クロチアニジン・スピネトラム粒剤 (ベジリード粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	キャベツ	50 g/箱／育苗期後半／散布／3回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
2	はくさい	50 g/箱／育苗期後半／散布／5回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
3	カリフラワー	50 g/箱／育苗期後半／散布／1回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	
4	ブロッコリー	50 g/箱／育苗期後半／散布／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）						4	6.8	4	2.7	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 3. 登録番号24015：ダントツリンパー顆粒水和剤（クロチアニジン16.0%・フラメトピル12.5%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24015
	種類・名称	クロチアニジン・フラメトピル水和剤 (ダントツリンパー顆粒水和剤)
② 評価対象有効成分		クロチアニジン
③-1 AOEL		0.098 (mg/kg体重/日)
③-2 AAOEL		0.25 (mg/kg体重)
④ 有効成分濃度・含有率		16 %
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)		製剤: 固体／散布時: 液体
⑥ 調製時の予測式		顆粒水和剤等

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液	200	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	てんさい	200 倍, 1 L/箱／定植前／灌注／4 回	200	液剤_水稲_育苗箱 (育苗箱)						9.8	16.8	10	6.7	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 4. 登録番号24027：ハコナイト粒剤（クロチアニジン1.5%・フィプロニル1.0%・イソチアニル2.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24027
	種類・名称	イソチアニル・クロチアニジン・フィプロニル粒剤（ハコナイト粒剤）
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	1.5 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)	1)		2)
1	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種前／育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する／ 4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）	マスク 1			マスク 1		3.8	6.6	3.9	2.6	
2	稲（箱育苗）	50 g/箱／は種時（覆土前）～移植当日／育苗箱の上から均一 に散布する／4回	1	固形剤（粒剤）_水 稲_育苗箱（育苗 箱）	マスク 1			マスク 1		3.8	6.6	3.9	2.6	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 5. 登録番号24117：ベニカXネクストスプレー（還元澱粉糖化物0.60%・クロチアニジン0.0080%・ピリダリル0.010%・ペルメトリン0.010%・マンデストロビン0.020%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24117
	種類・名称	還元澱粉糖化物・クロチアニジン・ピリダリル・ペルメトリン・マンデストロビン水和剤(ベニカXネクストスプレー)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.008 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	70
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	トリガースプレー剤	1 L/回／ - ／ 散布／6回	1	トリガースプレー 剤			長ズボン・長袖 の作業衣	マスク 1	不浸透性 手袋	0.0028	0.0141	0.0029	0.0056	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)÷1000($\mu\text{g/mg}$)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 6. 登録番号24118：ベニカVフレッシュスプレー（還元澱粉糖化物0.60%・クロチアニジン0.0080%・マンデストロビン0.020%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24118
	種類・名称	還元デンプン糖化物・クロチアニジン・マンデストロビン水和剤(ベニカVフレッシュスプレー)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.008 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	エアゾル剤等	
⑥ 調製時の予測式	調製作業による暴露なし	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	50
希釈液		

使用 番号	⑦剤の種類	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	トリ ガースプレー剤	1 L/回／ - ／ 散布 ／7回	1	トリ ガースプレー 剤						0.0187	0.0800	0.0191	0.0320	

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 7. 登録番号24274：ベニカXガード粒剤（クロチアニジン0.10%・B T 10.0%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24274
	種類・名称	クロチアニジン・B T 粒剤 (ベニカXガード粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.1 %	
⑤ 製剤の形態 (製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤 (粉剤、微粒剤、粒剤等)	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数 (倍)	経皮吸収率 (%)
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	きゅうり	11 kg/10a／定植後 但し、収穫前日まで／株元散布／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.4	1	0.4	0.4	調製時、散 布時：保護 眼鏡
2	トマト	19 kg/10a／定植後 但し、収穫前日まで／株元散布／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.3	1.7	0.4	0.7	同上
3	トマト	19 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.3	1.7	0.4	0.7	同上
4	ミニトマト	21 kg/10a／定植後 但し、収穫前日まで／株元散布／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.4	1.9	0.4	0.7	同上
5	ミニトマト	21 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.4	1.9	0.4	0.7	同上
6	なす	10 kg/10a／定植後 但し、収穫前日まで／株元散布／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.2	0.9	0.2	0.4	同上
7	キャベツ	48 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／3 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						2.1	6.4	2.2	2.6	同上
8	はくさい	16 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／5 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.2	2.1	1.2	0.9	同上
9	ブロッコリー	19.5 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／4 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.9	2.6	1	1	同上
10	だいこん	15 kg/10a／は種時／播溝処理土壌混和／3 回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						0.7	2	0.7	0.8	同上

11	ばれいしょ	15 kg/10a／植付時／植溝処理土壌混和／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.3	2	1.4	0.8	同上
12	ねぎ	15 kg/10a／収穫3日前まで／株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.7	2	0.7	0.8	同上
13	いちご	40 kg/10a／定植時／植穴処理土壌混和／1回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						1.2	5.3	1.2	2.1	同上
14	ピーマン	17 kg/10a／定植後 但し、収穫前日まで／株元散布／3回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						0.2	1.5	0.2	0.6	同上
15	花き類・観葉植物（ばら、ガーベラ、きくを除く）	100 kg/10a／発生前～発生初期／生育期株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上
16	花き類・観葉植物（ばら、ガーベラ、きくを除く）	100 kg/10a／発病前／生育期株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上
17	ばら	100 kg/10a／発生前～発生初期／生育期株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上
18	ばら	100 kg/10a／発病前／生育期株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上
19	ガーベラ	100 kg/10a／発生前～発生初期／生育期株元散布／6回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上
20	ガーベラ	100 kg/10a／発病前／生育期株元散布／6回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上
21	きく	100 kg/10a／発生前～発生初期／生育期株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上
22	きく	100 kg/10a／発病前／生育期株元散布／4回	1	固形剤（粒剤）_畑作物（手散布）						8.9	13.3	9.1	5.3	同上

¹⁾: AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾: AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 8. 登録番号24452：ネキリスター（クロチアニジン0.25%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24452
	種類・名称	クロチアニジン粒剤（ネキリスター）
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.25 %	
⑤ 製剤の形態（製剤/散布液）	製剤: 固体/散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日)	($\mu\text{g ai/kg}$ 体重)			
1	はくさい	6 kg/10a／収穫30日前まで／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.1	2	1.1	0.8	
2	レタス	6 kg/10a／収穫30日前まで／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.1	2	1.1	0.8	
3	非結球レタス	6 kg/10a／収穫前日まで／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.1	2	1.1	0.8	
4	キャベツ	6 kg/10a／収穫30日前まで／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.1	2	1.1	0.8	
5	だいこん	6 kg/10a／収穫前日まで／株元散布／5回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.1	2	1.1	0.8	
6	ブロッコリー	6 kg/10a／収穫前日まで／株元散布／7回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						1.3	2	1.3	0.8	

1): AOEL占有率=反復暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重/日) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AOEL(mg/kg体重/日) $\times$ 100

2): AAOEL占有率=急性暴露量($\mu\text{g ai/kg}$ 体重) $\div$ 1000($\mu\text{g/mg}$) $\div$ AAOEL(mg/kg体重) $\times$ 100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

4 9. 登録番号24555：ネマトリンパワーD粒剤、登録番号24556：ダブルパスター粒剤（クロチアニジン0.15%・ホスチアゼート1.5%粒剤）

① 製剤情報	登録番号	24555
	種類・名称	クロチアニジン・ホスチアゼート粒剤(ネマトリンパワーD粒剤)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	0.15 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体／散布時: 固体	
⑥ 調製時の予測式	固形剤（粉剤、微粒剤、粒剤等）	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液		

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL		%AAOEL
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)	1)		2)
1	かんしょ	30 kg/10a／植付前／全面土壌混和／3回	1	固形剤（粒剤）_畑 作物（手散布）						4	6	4.1	2.4	

1): AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

2): AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。

5 0. 登録番号24557：住化フルスウィングW、登録番号24558：バウンスパックWDG（カルタップ2.0%・クロチアニジン45.0%水和剤）

① 製剤情報	登録番号	24557
	種類・名称	カルタップ・クロチアニジン水和剤(住化フルスウィングW)
② 評価対象有効成分	クロチアニジン	
③-1 AOEL	0.098 (mg/kg体重/日)	
③-2 AAOEL	0.25 (mg/kg体重)	
④ 有効成分濃度・含有率	45 %	
⑤ 製剤の形態(製剤/散布液)	製剤: 固体/散布時: 液体	
⑥ 調製時の予測式	顆粒水和剤等	

【補助1】農薬使用者暴露量の試験成績について
デフォルト値を使用

【補助2】面積について
デフォルト値を使用

⑭ 経皮吸収率	希釈倍数（倍）	経皮吸収率（％）
製剤	1	10
希釈液	1000	50
	5000	50

使用 番号	⑦作物名	使用方法等 (投下量／使用時期／使用方法／評価に用いた使用回数)	希釈 倍数	散布時の予測式	防護装備あり								備考	
					調製時		散布時			反復	急性	%AOEL 1)		%AAOEL 2)
					マスク	手袋	防護服	マスク	手袋	(μg ai/kg 体重/日)	(μg ai/kg 体重)			
1	芝	1000 倍, 200 L/10a／発生初期／散布／4 回	1000	液剤_芝（手散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	1.9	4.7	1.9	1.9	調製時:保 護眼鏡、散 布時:保護 眼鏡、ゴム 長靴
2	芝	1000 倍, 100 L/10a／発生初期／散布／4 回	1000	液剤_芝（手散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	0.9	2.4	1	0.9	調製時:保 護眼鏡、散 布時:保護 眼鏡、ゴム 長靴
3	芝	5000 倍, 500 L/10a／発生初期／散布／4 回	5000	液剤_芝（手散布）		不浸透性 手袋	長ズボ ン・長袖 の作業衣		不浸透性 手袋	0.9	2.4	1	0.9	調製時:保 護眼鏡、散 布時:保護 眼鏡、ゴム 長靴

¹⁾:AOEL占有率＝反復暴露量(μg ai/kg体重/日)÷1000(μg/mg)÷AOEL(mg/kg体重/日)×100

²⁾:AAOEL占有率＝急性暴露量(μg ai/kg体重)÷1000(μg/mg)÷AAOEL(mg/kg体重)×100

なお、体重当たり暴露量の計算には国民の平均体重55.1 kgを用いている。